慈愛の種を播きましょう

国際ロータリー第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

2002–2003 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER No.13

ガバナー月信

最終号
July

2002-2003年度ガバナー GOVERNOR 小林 博 KOBAYASHI HIROSHI
〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目北海道医師会館6F 電話 011-219-2510 Fax 011-222-1526 E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp
Odori-West 6, Ishikai Bldg. 6F,Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0042 Japan Tel.81-11-219-2510 Fax.81-11-222-1526
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp

ガバナーsレター

若い人に任せようではないか！

小林　博

任を終えるにあたって

少しく気負いすぎたかなと思う反面、よき隣人にめぐまれ楽しく頑張ったと自らを慰めている。幸い健康上の支障もなく、また大きな事故もなく、この地区のロータリーを後退させることなく僅かでも前進させることが出来たのではないか、とのささやかな満足感をもってガバナーの任を終えることが出来たのも、この1年間を支えてくれたガバナー補佐をはじめすべてのロータリアンのお陰である。この感謝の気持ちはいくら申し上げても尽きることはない。

ただ、この地区に限らず「ロータリーはこのままでいいのか？」と考える時、現実はわれわれの夢見るロータリーの理想郷にはなお程遠いものを感ずる。ロータリーと言えども日本社会の縮図であるから、これを急に変えようとすることは無理であると知りながら、一つでも二つでも出来ることからやって行かなくてはロータリーは良くならないのではないか。みんなが力を合わせ、毎日の奉仕を楽しみながらも、ロータリーの発展に率先しなければならないのではないかと思う。

ロータリーの長老に一言

ロータリーに入って良かったと思う人が大部分だが、われわれの身近には反省すべきことが沢山ある。その一つはロータリーの規則に振り回されないことである。規則は大事だが、細かな理屈にこだわって時間を浪費してはいけない。まずは善意と良識をもっと最上と信ずることである。規則とはみんなを縛るためにあるのではなく、我々がロータリーで生きていくための最小限のルールを用意しているのに過ぎない。

二つは長老を自任する人達は、ロータリーの運営に余り口を出さないことである。些細なことで揚げ足をとったり、クラブの慣習はこうだからとか、昔はこうだったと言って新しい考えを押さえ込んではいけない。ロータリーの原則は不変であっても、そのビジネスは時代とともにに大きく変わってきた。だが、長老は昔のままの判断基準を押しつけ、何か新しい意見、提案が出ると、すぐにそれを否定し潰してしまう傾向がある。このような風潮に嫌気をさす人達は本音を語らず不信感をもって退会していく。これではロータリーの発展を阻害するだけではなく、ロータリーを自ら崩壊させかねない。

どうすればいいのか

具体的に言えばロータリーに詳しい人、或いはクラブの長老を任ずる人達は、クラブの運営に関しては控え目になっていただきたい。というより、会長・幹事はじめクラブの柔軟な発想の若い人達に全てを任せるようにしていただきたいと思う。新任早々の会長・幹事はロータリーの規則を熟知していないかもしれないが、フェアプレイの精神をもって「四つのテスト」を守り、自らの良心に照らし、「友愛、親睦、奉仕」のロータリーの原則を理解し、実行できる人である限り何も心配はないのである。

年輩者は若い新鮮な考えのロータリアンを信頼し、折角出された意見、提案に十分耳を傾け、むしろ激励してあげることが望ましいのではないだろうか。もし、新しい試みが思いがけない事態で失敗したとき、いさぎよく責任をとればいいのである。もちろん、そういう失敗がないように、トップは注意深く、また忍耐強く、下の人の意見、提案を聞かなければならない。そのうえで迅速・適正に判断すればよい。それを長老達は否定ではなく肯定的な立場で前向きに激励してあげていただきたい。そうすれば若い人達も自信をもってどんどん力を付けロータリーの発展に結びつけていくであろう。

任期の最後に自戒の意を込めて耳の痛いことを申し上げた。これもわがロータリーが永遠に前進し、発展して欲しいと切に祈るがゆえの衷心からの発言であることをご理解いただけたらと思う。

2002−2003年度 努力したこと

1年間の活動報告を纏めてみたのだが、初めは纏めることに躊躇した。その成果をひけらかすかの印象を与えるかもしれないと懸念したからである。また、謙虚に静かにこの1年間を終わりたいとの気持ちもあった。

だが、やはり纏めてみることにした。できるだけ客観的に、また冷静に1年間を振り返ることの意味を尊重したいとの結論に達したからである。

ロータリーは一人ひとりの会員があってクラブを作り、クラブがグループを作り地区を作っている。地区は一人ひとりの会員の金銭的サポートを受け、またクラブ運営のあるべき姿を提供する責任を負っている。とすれば当然、地区が会員の期待にどれだけ応えたかの自己検証の責任があるのではないかと考えたからでもある。

難しく考えては切りがない。一切の懸念を払拭し、とにかく纏めてみることにした。原案を用意し、何人かの関係者のご批判もいただいたうえで、下記「2002-2003年度努力したこと」を作ってみた。会員諸子の更なるご批判をいただければ幸いである。

• 年度始めに掲げた地区目標 •

1. 家庭に慈愛の種を播きましょう
2. クラブに慈愛の種を播きましょう
3. 職業を通じて慈愛の種を播きましょう
4. 地域社会にそして国際社会に慈愛の種を播きましょう

具体的な作業として次のようなことを行った。

1. DLPの完全実施

地区リーダーシッププラン（DLP）の完全実施に向け、その主旨説明に12名のガバナー補佐エレクトとクラブの会長エレクトと話し合いの機会をもった。2002−2003年度のガバナー公式訪問は合同例会を原則とし、27か所の合同例会を実施した。

また従前のガバナーのクラブ協議会出席はガバナー補佐にお願いした。

2. 機構改革

RIの指導方針により青少年交換委員会は国際奉仕委員会から新世代委員会の所属とした。新たに家庭奉仕委員会、米山学友委員会、友情交換委員会、ライラ委員会、100周年記念委員会を新設した。また次年度新設予定の子ども奉仕委員会の検討準備を行った。

また、個々の委員会のロータリー全体の枠組の中での位置付けを明確にするために組織図の改変を行い、それに基づき活発な活動が行われた。

3. 財政の改革

ロータリー財団への寄付目標額はアナハイムの国際協議会にて従来の32万ドルから25万ドルとした。地区予算の緊縮化を図り、かつ会計はガラス張りとした。事業予算は大幅に減額し、基本的には年度収入範囲で支出を賄い、とくにガバナー事務所費を大幅にカットした。

4. 広報の促進

『ガバナー月信』の内容を充実し、トップダウンとボトムアップの記事を調和させた。ページ数の増加分の収支改善に有料広告を取り入れた。また、顔写真入り『会員名簿』の作成により、会員相互の親交が図られた。各クラブ活動が活発となり、その活動内容は『月信』のほか新聞紙上にもしばしば報道された。市民講座も始まった（職業奉仕委員会）。

目　次

ガバナーsレター ……小林　博　2
2002-2003年度　努力したこと　3
最近の歴代RIテーマ　4
この1年間を振り返って ……5
　ガバナー補佐・地区委員会
両雄、相まじえた365日　15
2002-2003年度　ガバナー補佐座談会　20
地区運営を振り返って　25
喜びをともに・新入会員紹介　27
山谷紀巳夫会員　青少年交換学生へ奉仕　27
ガバナー日記　28
地区活動紹介 ……33
　洞爺湖RC・家庭奉仕委員会・地区幹事 米山道男
　友情交換委員会・次期子ども奉仕委員会
　国際親善奨学金委員会・国際奉仕委員会
第13回JGFR北海道大会成績表　37
クラブ活動紹介 ……38
　千歳RC・栗山RC・恵庭RC・札幌東RC・札幌西北RC
春楡奨学会の紹介　43
中国の看護師との交流を10年間続けて　43
国際大会（ブリスベン）のグループ討論から …小林　博　44
会員の声 ……45
　佐々木敦（札幌真駒内RC）・久住八郎（栗山RC）
　吉本　勲（深川RC）・米山道男（札幌北RC）
ポリオの街頭募金に挑戦！！　47
米山財団への寄付状況一覧表　48
ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます　49
米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます　49
会員増減数・出席率報告　50
『ガバナー月信』全13号の編集を終えて ……竹原　巌　51
訃報　51

5. 地区大会の見直し

大会プログラムのサイズを変え、内容の充実を試みた。大会初日は記念フォーラムなど主に研修の機会とし、2日目はアグネス・チャンの記念講演など祭典的なものとした。華美な演出を避け、大会時間の短縮・効率化と経費の節減を図り、また懇親会は遠隔地会員のことを考え昼の開催とした。

6. 継続活動の検討

単年制の原則のもとに、案件によってはその継続性を検討した。そのため年度間にわたる引継ぎ、連絡、討論の機会を設けるようにした。ロータリーの友委員会（旧雑誌委員会）の委員に前年・前々年・次年度委員を配したのもこの主旨によるものである。

7. 国際奉仕の進展

2000－2001（遠藤ガバナー）年度から始まったスリランカへの病院ベッドの寄贈は2001－2002（岩城ガバナー）年度に引き継がれ、今年度までにベッド800台のほかサイドレール300台、点滴スタンド40台、車椅子10台、マットレス900枚を送った（WCS委員会ほか）。また国別交流会がロシア、スリランカで始まった（国際奉仕委員会）。

8. 討論する雰囲気

自由にものを言える雰囲気はロータリーの活性化に必須であるとの大前提で、クラブ、委員会などロータリーのあらゆる集会は単に他人の発表を聞くだけでなく、各人が自由に意見を述べ積極的な討論をするようにお願いした。5回にわたるワークショップの開催もその狙いのもとに試みたものである。

9. アンケートの実施

クラブ奉仕委員会の主導の下に2710地区（広島・山口県）との同時施行によるロータリアンの意識調査のためのアンケートを実施した。2710地区との違いは女性会員に対する寛容さが当2510地区で低調なことであった。詳細は『月信』に掲載された。

10. 2500地区との共同作戦

わが地区大会に2500地区（北海道東半分）のガバナー、パストガバナーに声を掛け、およそ半数の方の参加をいただいた。ビチャイ・ラタクルRI会長の札幌での歓迎会は一緒だったし、国際大会（ブリスベン）の北海道ナイト（友情交換委員会）も共同主催とし、北海道がまとまった一つの夢をもつように心がけた。

反省点

1. DLPの実施によりガバナーはいくらか身軽になったが、ガバナー補佐は大きな負担を強いられることになった。一方、公式訪問を合同例会のときにしたり、クラブ協議会に出席しなかったためガバナーと各会員との関係が稀薄になったかも知れない。
2. 委員会の数が増えたための予算増に対する注意が必要となった。
3. 財団寄付目標額を下げたことで、寄付意欲を削いだかもしれない。
4. 会員増強をあまり強調しなかったので会員増が思うようにいかなかった。
5. 『地区会員名簿』に72クラブのうち2クラブの協力がいただけなかった。
6. 『月信』の予算はページ数の増加により経費増となった。
7. 地区大会本会議が2日間にまたがったことで、とくに初日への参加のPRが足りなかった。
8. 討論することに不慣れなせいかワークショップのあり方に一層の工夫が必要となった。
9. 改革に躊躇する声に必ずしも十分対処できなかった。

最近の歴代RIテーマ

年度	テーマ	RI会長
92～93	Real Happiness is Helping Others　まことの幸福は、人助けから	クリフ・ダクターマン（アメリカ）
93～94	Believe In What You Do ― Do What You Believe In　行動に信念を―信念は行動に	ロバート・バース（スイス）
94～95	Be a Friend　友達になろう	ビル・ハントレー（イギリス）
95～96	Act with Integrity, Serve with Love, Work for Peace　真心の行動、慈愛の奉仕、平和に挺身	ハーバート・ブラウン（アメリカ）
96～97	Build the Future with Action and Vision　築け未来を―行動力と先見の眼で	ルイス・ジアイ（アルゼンチン）
97～98	Show Rotary Cares　ロータリーの心を	グレン・キンロス（オーストラリア）
98～99	Follow Your Rotary Dream　ロータリーの夢を追い続けよう	ジェームス・レーシー（アメリカ）
99～00	Rotary 2000: Act with Consistency Credibility Continuity　ロータリー2000：活動は―堅実、信望、持続	カルロ・ラビッツア（イタリア）
00～01	Create Awareness Take Action　意識を喚起し―進んで行動を	フランク・デブリン（メキシコ）
01～02	Mankind is Our Business　人類が私たちの仕事	リチャード　D. キング（アメリカ）
02～03	Sow the Seed of Love　慈愛の種を播きましょう	ビチャイ・ラタクル（タイ）
03～04	Lend a Hand　手を貸そう	ジョナサン・マジアベ（ナイジェリア）

この1年間を振り返って

ガバナー補佐

君子之交淡如水

第1グループガバナー補佐　**吉本　勲**

君子ノ交ワリハ淡キコト水ノ如シ。これは荘子の言葉の前半である。後半は小人之交云々と続くのだが、この際は前半についてのみ触れたい。

中国文学の泰斗吉川幸次郎氏はこの君子を紳士と訳しておられる。つまり、紳士の交際は水のようにあっさりとしてわだかまりがない、の意である。いかにもRCの紳士にふさわしい言葉のようであるが、現実にはあっさりし過ぎて蒸留水のようなのが多い、と長く思っていた。私は老荘の徒ではないから、もう少しコクのある交際の方が好きだ。

今年度第1グループガバナー補佐を仰せつかり、小林ガバナー、他グループガバナー補佐、各クラブ会長、一般会員の方々と広く、またいささか味わい深い紳士の交際を結ぶことができたのは幸せであった。皆様に深謝申し上げつつ、補佐を去るの言葉としたい。

ガバナーの掲げる改革に応えて

第2グループガバナー補佐　**藤原　税**

前年度の羽幌のIMでガバナー補佐の指名をうけ、年度の始まる半年前から始まった会長幹事会の「まだ」から次年度にバトンタッチする時期の「もう」への時間の経過は早かった。

その間、DLPの完全実施の年度ということで、ガバナー補佐出席によるクラブ協議会、合同例会方式によるガバナー公式訪問等、初めての試みも経験しました。また、各クラブ持ち回りの会長幹事会で意見の交換・調整を行い、顔写真付会員名簿作成・ガバナー月信等、ガバナーの掲げる改革にもグループ内各クラブの賛同を求め、芦別・赤平クラブが共同で受入れてきました。

グループ内クラブの協力を得て実施したGSE受入、第1第2グループ共同開催での最後の合同IMと、それなりの成果はあったと考えてはおります。

しかし省みて地元地域への奉仕を考えたとき果たして私が、クラブが、グループ全体として顔がどちらを向いていたのか反省もしながら、創立以来30年以上の歴史を持つ第2グループ各クラブのこれからの変化に対応できる柔軟性に期待致し、お世話になった皆様に深く感謝申し上げご挨拶と致します。

グループ内の融和に前進

第3グループガバナー補佐　**辻野　修**

6月21日、グループ8クラブの最後の会長、幹事会を終えてやっと補佐の仕事が終わったと言う実感を持ちました。小林ガバナーの「新しい事への挑戦、ロータリーの改革」に共感を覚え、私なりに各クラブの会長、幹事さんのご協力を得て新しいことに取り組んで来ました。グループ内8クラブを一つのクラブとして捉え、事業を進めて参りました。例会中の禁煙をグループとして宣言したのはその表われです。又、IMも従来の型にとらわれず道民の森を会場として屋外でのパーティーも印象に残るものでした。グループ研修会もテーマを「本音で語ろうロータリー」とし成功したと思っています。親睦活動にも力を入れ、ゴルフ、麻雀、ボーリング、パークゴルフ等多くの会員の参加を頂きました。この一年間補佐としてガバナーと各クラブのパイプ役に徹し、又、グループ内の融和に努めて一年間実のある活動が出来たことに満足をしております。今後は又一会員としてロータリー活動に励みたいと思います。小林ガバナー他関係の皆様のご指導に心から感謝し退任のご挨拶とします。

大きく広がった人の輪

第4グループガバナー補佐　**村山　正**

何はともあれ一年が過ぎました。一昨年のクラブ会長に引続いてのガバナー補佐でしたので、ホッとしていますというのが、いつわらざる心境です。

グループ内各クラブのクラブ・アッセンブリー、会長・幹事会、ガバナー公式訪問への随行などを含めて、グループ内各クラブの色々な会合、地区の各種行事などに出席した回数は総計38回に成りますが、その他に前年度就任前のプレリュード的な出席が8回ありました。

この一年の間にロータリーを通しての人の輪が大きく広がり、思いがけない旧友とも再会し、各クラブの皆様と親しく成れたのは、大変うれしく感謝すべき事でありましたがそれにしても、出席しなければならない会合が多すぎたのではないかと思います。

小林ガバナーには色々とお世話になりながら、何かと迷惑もお掛けしましたが、想い出深い一年でありました。

大変よい経験でした

第5グループガバナー補佐　**角掛晴雄**

一昨年11月、クラブ会長より次期のガバナー補佐を引受けてくれとの頼み、私身その器ではないと一応はお断りしたのであるが、友人の遠藤正之パストガバナーの薦めもあり引受けることにした。補佐の仕事は何んであるか全く判らずとまどっていたが今年度よりガバナー公式訪問の様式が変更となりその日程作りに胃が痛くなる日々をおくっていたが、作りおわってしまったら何時の間にか胃痛が治っていた。行事がかなり煩雑なので補佐幹事を1名おかしてもらった。

当初は種々の活動を活発に行うべく張り切っていたが、昨年9月に長男を亡くし元来私は楽天的であり物事に動じないと思っていたのですが、そのショックの大きさに仲々立ち直れず、加えて本年年明けに体調を崩し、新しく活動をおこそうにも気持が萎えて余り行動が出来ませんでした。最低の補佐だったと自覚反省しております。ガバナー、地区委員並びに傘下のRCに対して誠に申し訳なく心よりお詫び致します。お許し下さい。

何れにしても大変よい経験をさせて戴き勉強にもなりました。今後は一ロータリアンとして奉仕の理想を求めてクラブにも地区に対しても尽くす覚悟です。この1年間のご指導、ご交誼ありがとうございました。

人生の思い出に刻まれた1ページ

第6グループガバナー補佐　**近藤徹哉**

ガバナー補佐の指名を頂きましたのは、2001年9月末でした。初めての経験をする訳ですので、大変不安を抱きました。2002年4月までに、事業計画を提出の期限で、本当の所、参りました。1年間のスケジュールを書く事でしたので、悩みましたが、なんとか期限までに、間にあいました。

いざ、スタートになり、今思うと、よくやったと、自分で反省して、消化したもんだと思っています。自分は、自分としての個性をどのように発揮するか、を考えました。指名を頂いて、自分が参考になった事は、

1・友達「会員」を沢山知りました。「又、自分の売り込みと、自分を知ってもらった事」
2・各クラブの現状を、把握できました。「動き、例会の流れ、出席率の問題、中身」
3・自分のクラブとの比較「諸々を認識」が分かりました。
4・自分の欠点の発見をしました。
5・坐忘「ざぼう」の精神を持ちました。そこで、事務局の会員が気持ちよく助けてくれました。なにごとも、率先して、いかなくては、ならない事を認識しました。
6・ロータリーに入会して、今は自分の人生と皆さんへの感謝の心で一杯です。
7・特に、海外への旅では、必ずメーキャップしますが、「今回は、シドニーのノース・シドニー・ロータリ・クラブへ出席―6月5日、現地で暖かく迎えてもらいました。ロータリーの特権と思っています。」
8・自分の財産「知人、勉学」を得ました。

ガバナー補佐でないと、経験できない事が沢山ありましたので、会員の方が、是非受けて、経験をして頂く事を切望して止みません。特に、自分のクラブの会員の暖かいご支援、理解、援助に深く感謝申し上げます。また、地区の役員のかた、小林ガバナーの心の深さを知りました。紙面を借りまして、只只、感謝と感激で一杯です。
本当にありがとうございました。
私の人生の思い出の1ページに刻まれる事です。

3つの提案

第7グループガバナー補佐　**和田次彦**

上半期はクラブ例会・クラブ協議会訪問及びGSE受け入れ等で大変忙しく、また、下半期にはガバナー補佐の善悪の評価につながるIMが活動の中心でありました。

IMにつきましてはこれまでとは違った視点に立脚した内容を考えておりましたので、各クラブには事前にその趣旨を説明したわけでありますが、結果に対する自信はありませんでした。

いずれに致しましても無事何とか終えることができ、グループ内各位に心からお礼申し上げます。

1. ロータリー活動の今日的課題について
各クラブ共通の問題として会員の減少と拡大の困難さが挙げられる訳でありますが、言うまでもなくこのことに関する特効薬など存在いたしません。ただ、減少及び拡大、ともに言えることはクラブの活動をより活発にすることであり、さらにその活動が地域作りに確かに貢献していると認識されるものであることが非常に大事なことであります。そのためにも活動テーマは、より検討されたものでなければ成りません。特に今日のように私たちを取り巻く諸環境が非常に厳しい時代にあっては、取り組む課題が「何か」によって地域社会から受ける認知の度合いが大きく違うということなのであります。そうでなければ私たちの活動は、単なる慈善団体のそれと同じとしか受け取られないからであります。

2. 青少年交換留学生について
各クラブとも、このテーマに関してこれまで積極的に取り組んできた経緯がありますが、しかし会員の減少などに伴うクラブ運営上・財政上の問題で、今後とも継続的にこの事業に取り組むことが非常に困難となっております。各クラブとも、数年に1度の割合でしかこの事業に取り組めないというのが実情であるといえます。
よって、このような状況を踏まえ、今後は複数クラブで、またはグループ内事業として捉えられないであろうか、グループ内協議を要する条件といえます。

3. 情報共有化の必要性について
現在ロータリーが抱えている問題点のひとつとして、クラブ及び地区、そしてRIとの一体化の欠落ということが上げられます。
確かに地区及びRIからは文書などをもって各種の通達などがクラブに流されますが、しかし、現実は「地区が、特にRIが何をやっているのかよくわからない」というのが会員各々の思いであります。
運動活性化のために、例会セレモニーの中に地区及びRIアワーを設け、パソコン(できる限り映像を使って)によるリアルタイム情報を流すべきであります。
今日的方法による情報の共有化は、運動意識の向上につながるものであり、今やアナログ的存在となりつつあるロータリーを時代に即した運動体として生まれかわらさなければならないと考えます。

ロータリーとは多くの仲間を作ることだ

第8グループガバナー補佐　**郷司公雄**

私の補佐の仕事は2002年1月12日から始まった。すなわち、小林ガバナーエレクト(当時)が、自らの考えを第8グループ内次期会長会議で披瀝した日であります。

DLPに基づく、合同公式訪問、会員名簿の作成、ガバナー月信の全員購読等々、いずれも各クラブから、理解を得られるのだろうかと言う心配であります。しかし、

ガバナーの熱意が全ての不安を解消していただき、私は貴重な人生経験をさせていただきました。また、ロータリークラブとは何かと言うのも私のテーマでした。各クラブを訪問して、心温まる出会いがありました。ガバナーを始め多くの地区役員、他のクラブ会員、ガバナー補佐の仲間との出会い、貴重な体験をさせていただきました。「ロータリーとは、多くの仲間を作ることだ」。この経験を、今後の自クラブの活動に生かしたい思いです。

1年間、ご指導いただいた方々に感謝の意を込めて「ありがとうございました」。

「慈愛の種」から「改革の花」を咲かせよう

第9グループガバナー補佐　**斉藤修弥**

2002－03年度RIテーマは「慈愛の種をまきましょう」であった。改めてこの1年間を振り返る時、このテーマの重さに驚きの念を禁じ得ない。慈愛の種を播くとは、個人が自分の意思で新たな行動を開始することを意味している。したがって「家庭に、クラブに、職業に、地域社会に、国際社会に種を播く」とは、これまでとは異なった種を自分の責任で播くことに他ならない。

この事は言葉を代えれば「現在のロータリーを改革しよう」というメッセージではないだろうか。小林博ガバナーはこのテーマを正面から受け止め、1年間の全力疾走を行った。小林ガバナーのソフトではあるが情熱と迫力に満ちた叱咤激励を受けての補佐活動は、歯ごたえのある又楽しいロータリー運動であった。

私達の目指したロータリーの改革は確かに一定の成果を残したと思うが、「ローマは1日にしてならず」の格言を胸に、今年播いた改革の種が将来大きく開花するよう、1メンバーとして心新たに取り組んでいきたいと自省しているこの頃である。

地道な活動に頭が下がる思い

第10グループガバナー補佐　**遠藤哲二**

平成13年12月、小林博ガバナー（当時エレクト）が来函され、ガバナーのロータリーに対する情熱に圧倒されました。

私がガバナー補佐に任命され、以来ガバナーの熱意を各クラブにどのように伝え、その改革を受け入れてもらうか？　各クラブの意向をどのように地区に反映させるか？を考えてきましたがガバナーの考え方を浸透させることが出来たかどうかわかりません。

各クラブを訪問して感じたことは夫々のクラブに特徴があります。その優れたクラブ運営はクラブの先人が培ってきたものです。しかしリーダーによってその方向が簡単に変わる可能性があることも感じました。

この不況下で小さなクラブが会員増強に苦労しながら成果を挙げていますし、各クラブが地域へ色んな形で奉仕活動をしていますし、地道な活動に頭の下がる思いもしました。

1年間ガバナー補佐をさせていただいたお蔭で優れた人々を知ることが出来ました。他のクラブにも沢山の友人を得ることが出来ました。これからの私の人生を豊かにしてくれるものと感謝しております。ありがとうございました。

ガバナー補佐の軸足

第11グループガバナー補佐　**松見修二**

01年12月13日函館で小林ガバナーとお逢いし、ロータリーを変えよう、変革をしょう、トップダウンではなくボトムアップを目指そうと語られ、その熱い思いに誘発されて以来1年半が過ぎガバナー補佐の役務を終ろうとしている今、ガバナー補佐の軸足はどちらに有ったのだろうか。各クラブを訪問しガバナーや地区の情報を伝達する時の軸足は地区に在りトップダウンとなり、各クラブから頂く意見或いは要望はボトムアップでありこの時の軸足は当然グループと、クラブに置かれるものと思われます。DLP完全実施は様々の矛盾を感じます。各クラブ訪問を4回以上行う規定についても改善の余地があると考えます。クラブ訪問は上期、下期共に1回とし、余った回数は各クラブ会長、幹事次期会長との連絡協議会でどうでしょうか。時間を節約しましょう。

今回のAG座談会ではロータリーに寄せる思いを、同じ目線で語り合い時間の経過を忘れさせました。今期はこれで終わった。と言う思いと、終わってはいないと言う思いがそれぞれ複雑に胸に去来します。私の職業の建築を引合いに考えるなら、物造りには完成があり、さらに使われて建物の目的と機能が評価されます、しかし、ロータリーには完成は無く、評価と結果が次年度或いはもっと先に現れて全てが過去形に成ります。

私の好きな名言に「麻につるる蓬」があります、何時の日か今期蒔いた慈愛の種が大輪の花を咲かせることを期待します。

手ごたえのある一年間でした

第12グループガバナー補佐　**川田憲秀**

経済環境の悪化の中、会員の減少が問題視されている状況で、地区カバナー補佐会議の内容は、実に有意義なものでありました。①会員の質と量の問題②世界で最初に出来たNPOとしての国際ロータリークラブの自覚③形式を重んじるための多額の費用の削減④国際ロータリークラブの悪しき慣習の問題⑤勝利宣言をしたはずのポリオプラスの問題⑥会員名簿の作成⑦カバナー月信などなど、多くの議論が出来た充実した1年間でした。

聖域を設けることのないロータリークラブこそ、二十一世紀に、人類に貢献できる団体として存在できると信じます。カバナー・カバナースタッフ・そしてアシスタントカバナーの皆様にお礼を申し上げます。また、グループの各クラブの会長・幹事の皆様にも、深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

この1年間を振り返って

地区委員会

アンケート実施が大きな収穫

クラブ奉仕委員会　委員長　**神代利臣**

今年度の当初計画としては、各クラブのクラブ奉仕委員長による「委員長会議」を開催し、クラブ奉仕をより活性化する方策等についての意見交換をしたいと考えた。この件は、委員長が長期不在に近い状態に陥った為、開催できなかったことが残念であり、且申し訳なく思っている。

しかし一方、当地区では恐らく初めての試みである、地区内全会員に対する意識調査を実施できたのは大きな収穫であった。

このアンケートは小林ガバナーの強いご慫慂によるものであったが、回収率が50％というのには不満が残った。とは言え、多くの良心的ロータリアンのご協力により、所期の目的はある程度果すことができたし、会員の素直な声を聞くことができたのも大変良かったと思っている。

尚、このアンケートの集計・整理・図表化等については、竹原地区幹事・阿部事務局員の献身的なご助力をいただいた。この場をお借りして厚くお礼申し上げたい。

また、その後の分析・結果発表は、金子・近藤・羽部・矢橋各委員の分担によるものであり、そのご苦労にも心から感謝申し上げたい。

職業奉仕理念の強調充実を

職業奉仕委員会　委員長　**冨岡公治**

1　ロータリー市民講座の開催

地区職業奉仕委員会主催のロータリアン講師によるロータリー市民講座を開催致しました（ガバナー月信11月号所収）。

(1) 第1回ロータリー市民講座

①日　時　平成14年10月7日
②場　所　札幌市中央区民センター
③講　師　北大医学部名誉教授　小林博（ガバナー）
④演　題　「がんと人間」
⑤参加者　約80名

自分又は家族ががんにかかっている市民も多く、全道各地からの市民が多数参加され、熱心に小林講師のがんと向き合う対処法の話に耳を傾け、又、多数の質疑応答がありました。

講義が終わった後も多数の市民が残って小林講師に質問をしていました。

(2) 第2回ロータリー市民講座（ガバナー月信6月号所収）

①日　時　平成15年4月2日
②場　所　札幌市中央区民センター
③講　師　税理士　金坂和正
（札幌真駒内ロータリークラブ）
④演　題　節税のポイントはどこ？
税について誤解があります
⑤参加者　約40名

私達主催者側からすると、中小企業者とかアパート経営者等の税金について一般的日常的に関心を持っている市民が参加すると思っていましたが、約40名の参加者の60％以上は一般主婦であり、第3回ロータリー市民講座は何時開催されるかという質問が次々と寄せられ、ロータリーの専門職種を活かしたロータリー市民講座について市民から大きな期待をされていることを実感しました。

2　10月のロータリー職業奉仕特別月間について

10月職業奉仕月間について、地区内7クラブからの地区職業奉仕委員による職業奉仕卓話の講師を分担派遣してほしいとの要請に応じ、職業奉仕理念と実践活動についての普及に努めました。

3　地区協議会の第4分科会（職業奉仕部門）の運営の実施

2003年4月19日に千歳文化センターにて開催された地区協議会にアドバイザーとして、野口パストガバナーのご協力を得て、各地区職業奉仕委員の協力分担のもと、充実した職業奉仕分科会を実施することが出来ました。

4　ロータリーの金看板というべき職業奉仕理念のより一層強調充実させる必要性について

2003年4月25日札幌パークホテルにおいて開催された歓迎昼食会において、ラタクルRI会長は「He protits most who serves best」の標語が板橋RI理事をはじめとした日本のロータリアンを中心とした努力によって、今後も国際ロータリー標語として使用継続されることとなったことのお話があり、ロータリーの根幹ともいうべき職業奉仕理念の高揚に今後とも努力しなければならないと地区職業奉仕委員会委員一同改めて感銘し、決意した次第です。

クラブの現状と悩みに学ぶ

地区社会奉仕委員会　委員長　**対木正文**

地域社会から真に喜ばれる奉仕活動とは何か？　会員の減少や予算面での悩みを抱えながらどのように奉仕活動をしたら良いのか？　奉仕活動のマンネリ化を

防ぐための方策は何か？　ロータリーの奉仕活動の広報はどこまで許されるのか？　地域社会に密着した活動は会員増強に役立つのか？　これらの問題を話し合い、情報を共有化するため、地区内5カ所（函館・余市・札幌・苫小牧・滝川）で7月から10月にかけて、社会奉仕に関する情報交換会を開催しました。地区委員会としてもクラブの現状と悩みを学ばせていただきました。ご協力いただきましたガバナー補佐とお世話いただいた地元クラブに心から感謝申し上げます。

また、地区委員会では、2002－2003年度各クラブの社会奉仕活動の内容をデーターベース化しました。今後の地区内での社会奉仕活動の参考にしていただければ幸いです。

大きく変わった家庭奉仕の意識

家庭奉仕委員会　委員長　**和田壬三**

上磯RCの大場、札幌西RCの高下、新札幌RCの水野、札幌大通りRCの長谷川の4名の委員と共に苦闘した1年でした。

委員会は5回、勉強会は4回開催し、全員が参加しました。

北九条小学校における課外授業“みんな仲良く家庭のこと”を実施、苫小牧での社会奉仕活動情報交換会への参加、第4、第5グループのIMにおけるシンポジウム“慈愛の種を家庭から”の実行、その成果を25分のビデオにまとめる作業の実行、“家庭奉仕をテーマとするワークショップ函館”（松見ガバナー補佐、鍋谷地区学友委員長の協力を得ました）の開催、洞爺湖における第5回ワークショップ“大人は子供たちのために何が出来るか”への参加などが主な活動内容ですが、委員自身の家庭奉仕の意識が、大きく変わったことが最大の成果だったと思います。何時もガバナーからの示唆に富んだアドバイスが支えになっていました。感謝申し上げます。

（次期は、ロータリアンや更には、職場、地域の方にまでこの成果を及ぼすことを目指したいと思います。）

地区活性化に挑戦

国際奉仕委員会　委員長　**青木功喜**

小林年度、初めて発足した友情交換委員会は、金井初代委員長が米山地区幹事と共に、2510地区に新しい風を入れ、地区活性化に挑戦しました。

電通の最近の調査によると、ロシアを重要な國と思う日本人は63％になっていると云う結果が示されています。従来ロシアと日本は色々な思い込みがありましたが、この際その思い込みは洗い流し、変な先入観は改める時になっています。世界は敵と味方と考えるのではなく、その間には多くのひだが存在します。画一化された価値観に左右されないで、お互いの文化の多様性を守る事が国際理解のために大切でしょう。

論語に「学びて思わざればすなわち暗し思いて学ばざればすなわち危し」という言葉もあります。すなわちロシアと我が国の間は知る事よりも判りあう事が大切です。

時代は否応無しに変化して行きます。規則は守るためにあるのではなく、これを利用して結果を出すためにあるべきです。日本人は理屈が好きで、実践的でないと云われます。

昭和10年生まれの世代は、従来の級長は選挙できめました。すなわち民主主義を体で教わりはじめた時代でした。その点それ以前の人は、理屈で判っても、体で判れないのは当然でしょう。それが時代の流れです。

お互いを理解しあう心が、この友情交換委員会を通じてロータリーに拡がって行く事を心から願います。

各クラブの独自企画に協力

世界社会奉仕委員会　委員長　**土倉　裕之**

この1年間で活動の内容が変わりつつあります。以前は地区委員会がプロジェクトを策定してそれに各クラブが参加していただくといった活動でしたが、昨年度あたりよりクラブ独自での活動が増えてきました。この1年間でも、コロンボロータリークラブ中古ベッド寄贈（千歳ロータリークラブ・千歳セントラルロータリークラブ）・インドネシア図書館援助（新札幌ロータリークラブ）・ミャンマー孤児院資金援助（札幌東ロータリークラブ）・コロンボロータリークラブ中古ベッド寄贈（札幌南ロータリークラブ）・Wheel Chair Foundationに車椅子資金寄贈・パベナ基金に資金援助（岩見沢東ロータリークラブ）のように各クラブが独自に企画したプロジェクトに地区委員会が協力する形に変わって来ました。今後も各クラブの協力を得ながらロータリーの輪を広げていきたいものです。

活動にひろがり生まれる

親睦活動委員会　委員長　**植田英隆**

親睦活動委員会としての活動、まとまった形での活動とはなりませんでした。従来の地区行事、全国同好会行事については、それぞれこれまで関係を持って、活動されてきた地区内の同好会員などの手により、粛々と進行、それぞれの成果確認されてきました。

ヨット、ゴルフなどに加え、囲碁などその活動のひろがりもでてきています。これまでより、趣味親睦の活動されてきている方々より、ピックアップしての委員会体制をとりましがた、機能する点ではまったく不十分に終わりました。自覚、取組み方についての姿勢に甘さのあ

ったことなど、主として委員長に起因するものであるものが大きかったことは、申し分けなく思っております。ただ、趣味親睦活動の地区としての活動はこれからの課題として持ち越されました。ポイントをしぼり、肩肘はらないことでの、わかりやすさ、今期も必要であったことでした。性格づけと簡素なわかりやすい活動はどうなのか、かかえたなかでの1年でした。

2003－2004年度への移行にあたっても、確認の甘さがあり、ご迷惑をかけた点がありました。そうしたなか新年度の委員長、委員の方々の気持ち姿勢には、本当にロータリー精神の現われと感謝しております。

私個人として、地区とクラブそして会員といった関連のことで、考える体験をさせていただいた機会だったこと、最後に申し添えます。

ロシア・中国の勉強会結成に目途

友情交換委員会　委員長　**金井重博**

地区で初めて出来た委員会の委員長をさせて頂きました。米山地区幹事のアドバイスと特段の協力とご指導を頂きながらも、私自身非力で、年度事業にした国別部会の立ち上げに大変難行いたしました。

何とか予備調査と国際ワークショップなどの懇談を通じてロシアと中国の勉強会の結成の見通しがつきました。

次年度も委員長の就任を要請されていますので、継続事業として努力いたします。ブリスベンでの北海道ナイトも皆さんの協力で、110人ご参加いただき喜んで頂きました。

地域への積極的な広報を

広報委員会　委員長　**城木浩一**

奉仕団体を辞書でひくとロータリークラブ等と出てくれば、報道機関にとってロータリーの奉仕活動はもう当り前の話で、ニュース性がない。陰徳を積むのが良いとか、良いことをして広報するのは偽善的だが、活動を円滑に実施するためには広報が必要だ、と言った消極的な広報がこれまで多く語られてきた。

しかし、世界平和のために国際理解を深めようとしているロータリーの活動は、自分達だけの国際交流で良いのだろうか。もっと、地域の人々への積極的な広報が必要であろう。更に、世界的な不況が永年続くと人の心はすさみ、悪徳商法がはびこって来る。高い倫理観に基づく商業道徳は経済活動を活性化させるためにも、もっと広報されなければならぬ。と言った積極的広報が最近は求められている。ロータリーは時代の変化や世界情勢によって変化する。

3月12日のワークショップにおいても、『ロータリーの友』編集長は広報を宣伝ではなく、パブリック・リレーションの確立と積極的にとらえていた。

ポリオの広報も中々浸透しないが、3年計画の最後にはきちんと2510地区の善意が集まると信じている。他地区の努力で目標が達成されたから、私達はもうやめたと言うことにはならぬだろう。ロータリアンではないが、札幌医大出身の千葉靖男先生がポリオ撲滅のため、現在も東南アジアで大変なご苦労をされている講話を、赤平の第1・第2グループIMで聴いた。本当に教えられることの多い1年でした。

「回首原点」の心で運営に尽力を

情報委員会　委員長　**亀井敏清**

毎月号の『ガバナー月信』に掲載されたQ＆Aには多種多様なロータリーに関する質問がありました。規定に関するもの、クラブ運営に関するもの特に難解なものはありませんでしたが、ロータリーに関する関心が現れているものばかりです。まさに“小さな疑問が大きな扉を開く”です。

最近のロータリーの変化の速度は益々早まってきました。在籍15年以上でクラブ中堅の会員と新会員とのロータリーに関する考え方、取り組み方に格差が出ていないでしょうか。

当地区でも最近年毎に新しい企画が採用されています。時代の流れといってしまえばそれまでの話ですが、そのために失っているものがないのかどうか。ロータリーでの「不易流行」時代とともに変わってゆくものとロータリー哲学に基づく変えてはならないものがある筈です。

クラブ情報委員の皆さん「回首原点」ロータリーの心を尋ねながらクラブ運営に尽力してください。

新しい委員会の悩み

ロータリーの友委員会　委員長　**佐藤　公**

今年度「雑誌委員会」として発足しましたが、途中から「ロータリーの友委員会」に改称しました。メンバーは現委員長を含め4名。会期中に5回委員会を開催。メイン活動となったのは4月に開催されたロータリーの友、広報、IC、月信編集各委員会との合同ワークショップ。「ロータリーの友」二神編集長をゲストスピーカーに迎え有意義な内容であったが、時間からみてロータリーの友委員会1本に絞るべきであった。

1年間を振り返っての課題は、地区内の雑誌委員会（次年度からロータリーの友委員会となる）との連携、コミュニケーションをどう図っていくかということ。委員長

を招集しての会議もよいが、基本的な活動を各クラブでどうやっているかを把握することが大切と痛感すると共に、またその把握の難しさを感じた次第。現委員会メンバー4名は皆、理論と経験をお持ちなのでこれからの活動に期待を乞う。

電話やFAXとともに 地区委員会

IC委員会　委員長　**山田信夫**

インターネットはデジタルデータ在りきのコミュニケションツールです。

デジタルデータをみんなで作り、みんなで利用することにより世界中で広がってきました。

その代表格がホームページですが、当地区のホームページは文献資料室と制作スタッフのご努力により全国でも屈指のすばらしいホームページです。参照カウントも約11,500にも昇っています。

また、Eメールではメールマガジンの配信先も期首220件が現在は306件と確実に増えています。

この1年間の地区内会員の方からのEメールは約330件、内容は例会変更、活動報告など様々ですが前年度に比べ格段に増えています。

低コストで便利性の高いインターネットが電話、FAX、郵便などとともにコミュニケーションツールの一つとして認知された年度といってよいでしょう。

ぜひこのもう一つのツール“インターネット”を手にしてください。そしてこれらのツールをうまく使い分けましょう。

貴重な文献を次代に伝える文献資料室 地区委員会

文献資料室　委員長　**塚原房樹**

数年前から地区のIT化推進をお手伝いして来ましたが、今やインターネットがロータリーの通信伝達手段として主役の座につきました。毎日洪水のようにロータリー情報がネットを通じて流れてきます。しかしこれらの情報はほとんどロータリーの管理・運営・実践に関するデータで、ロータリーとは何かという本質に触れたものではありません。

今のロータリーは実践を主とした単なるボランティア団体となりました。しかし実践はどこまでもロータリーの目的と理論の上に展開されねばなりません。その点ロータリーの理論を知るには、歴史の淘汰に耐えた思想の殿堂である文献を訪ねる必要があります。そしてその理論の根本をなすものこそロータリーの哲学なのです。その意味で貴重な文献を次代に伝えることが文献資料室の任務です。

Enjoy Rotary 地区委員会

新世代委員会　委員長　**奥貫一之**

「エンジョイ・ロータリー」何時の年度だったかRIの標語がありました。今でも私の一番好きな言葉で、楽しくなくてはロータリーでないという思いで私は奉仕活動に取組んでまいりました。1年間の新世代活動を通してでも色々な思い悩みがありましたが、そんな時はポール・ハリスの原点に帰る事にしています。四つのテストが明解な答を与えてくれます。特に4番目の「みんな為になるかどうか」を「新世代のためになるかどうか」と置きかえて全ての意志判断をしてきました。この気持は新しい年度も持ち続けてゆきたいと考えております。

究極の新世代プログラムと言われている「ライラセミナー」で象徴される、ロータリープログラムの中での異る新世代関連委員会同志の協力関係の育成を大きな柱として小林年度は十分成果をあげられなかった点を反省し、佐藤年度はしっかりと歩んでゆくつもりです。

多くの人たちの奉仕によって 地区委員会

ライラ委員会　委員長　**宮﨑　善昭**

ライラセミナーは今年度から、ジュニアクラス（14～18歳）、シニアクラス（18～30歳）までと分離して開催することになりました。セミナーのテーマは「共生」についてです。基調講演、グループ・ディスカッション、意見発表、奉仕活動などのプログラムを通して参加者がテーマについての関心を持ち、そしてそれを深めることによって自分の価値観形成に役立てることが、このセミナーの大きな目的です。

青少年の柔軟な発想が可能な時期に他者の意見に耳を傾け、意見をぶつけ合い自分との差異に気付き、他者を通して自己変革していく「場」を形成することがロータリー青少年教育の大きな課題であることを覚えます。セミナーの開催、スキーマラソン実施にあたり先輩ロータリアン諸兄、運営の中心となったライラ委員、新世代関連委員、青少年、国際関連委員の多くの皆様のご奉仕に感謝申しあげお礼を申しあげます。

青少年に奉仕の楽しさと喜びを 地区委員会

インターアクト委員会　委員長　**細川好弘**

2510地区のインターアクト活動は37年前の1965年5月7日室蘭大谷高校インターアクトクラブの発足に始まり、現在10クラブ約180名の会員が各々共同奉仕プロジェクトのみならずリーダーシップ研修行事や青少年・

大人との交流も含めて自己のベストを発揮してユニークな活動を通して真剣に楽しむという、心躍る機会を発見しております。

更に当地区では新世代委員会を中心として0才から30才代に係る奉仕プロジェクトが着実に実施されておりますが、インターアクトクラブのホストロータリークラブが71クラブ中10クラブが提唱されています。ホストである、ないにかかわらず青少年との共同奉仕プロジェクト等を通じて新世代奉仕活動が組み込まれることによって、ロータリアン側の熱意と関心が理解され、反面ロータリアンとしての貴重な役目を果たすことにもなります。

新インターアクトクラブとして元気よく産声が発せられるようロータリアンの愛の奉仕を新世代に伝えていただければと願っております。

適正に消化された地区行事

ローターアクト委員会　委員長　**中塚　力**

◎今年度の主な活動内容

1. 地区委員会　RA会長･幹事合同会議
――――――――――――――――――札幌市

本年度の基本方針・活動計画・その他

1. 地区キャンプ　浜の清掃活動という地域奉仕を兼ね。留萌の海でのキャンプ交流会――――留萌市
1. 地区セミナー　地域問題を取り上げ、著者の視点で「函館駅前地区活性化」について考える ―――函館市
1. 地区協議会
違う意見を議論し合う大事さを学ぶ――赤平市
1. 北海道RA交流会
交流のほとんど無かった2500地区との交流――釧路市
1. 香港キングスパークRA海外研修ホスト
お互いの国の文化、習慣に理解を深め有意義な研修会でした。――――――――札幌市・富良野市・その他
1. グアム海外研修
地元アクター・ロータリアンとの交流会。
北海道の四季、文化の紹介。――――――――グアム
1. 第30回地区大会
この1年間の活動内容の再確認――札幌市
1. ライラセミナー参加 ――――――――――札幌市
1. ロータリー地区大会参加――――――――――札幌市

この様に地区行事は予定通り地区・RA・提唱クラブが連携を密にし適正に消化されたものと思います。また、各アクトクラブについては月2回の例会はもとより提唱クラブとの合同プログラム等々、たくさんの奉仕活動そして親睦活動を行っております。

本年度は特にRA地区役員が中心となり“自分の事、仲間の事、地域の事、世界の事”に目を向けながら、問題意識と行動力を持って「自分には何ができるのだろう」と考え若さと行動力を武器に活動されておりました。

今後ともロータリー精神のもとアクトらしく素晴らしい活動される事をご期待申し上げます。

青少年交換事業の発展を祈念して

青少年交換委員会　委員長　**清水慧子**

地区青少年交換委員長を務めた3年間に、派遣・受入れ（長期・短期）合わせて約90名の交換留学生がプログラムに参加し、幸い一人も早期帰国・早期送還を出さず親善大使の任務を全うしました。私はこれを大変誇りに思います。素晴らしい学生、ホストクラブ、ホストファミリー、ホスト高校、日本語の先生に恵まれました。学生を信じる事、学生と早く信頼関係を築く事がこの青少年交換プログラムを成功裡に導く鍵だと思い、その一念で交換事業を進めて参りました。

念願でありました第2510地区ROTEX名簿も、1995年に再版されたものに訂正を加え2003年度までの約360名を収録しました。ROTEXの中には既にロータリアンとして活躍されている方も大勢います。ROTEXがどこへ移動しても活躍できるように全国組織づくりがスタートしました。青少年交換事業には多くの人々の協力が必要です。ご指導を頂いたガバナーはじめ国内外での多くの出会いと皆様に生かされている事に感謝し、国際親善・国際交流を担う青少年交換事業の益々の発展を祈念致します。

不安定な世界情勢、今こそ資金面での協力を

ロータリー財団委員会　委員長　**森本正夫**

財団委員長を拝命して以来、この何年か口を開けば「経済不況のあおりを受けて、ロータリーでも会員数が減少の一途をたどっている」と言い続けなければならないのは残念なことです。

今年の前半には対イラク戦争がありましたが、このように世界情勢が不安定なときほど、平和と友好を求めるロータリーの各種活動が重要性を増してくるのではないかと思います。会員の皆さんにも、その点は十分にご理解いただいているのは承知しております。つきましては、実際に、意義ある活動が続行できるよう力を合わせて資金面での拡充にご協力を願う次第です。

私としましても、前任者の富山先生の足跡を継いで、財団の活動を次の世代へとつないで行きたいと考えておりますので、今後も引続きご支援のほど何卒よろしくお願いいたします。

各クラブのラストスパートを期待

財団増進委員会　委員長　**若狭吉範**

小林ガバナー年度がスタートする前、ガバナーエレクトがアナハイムで2510地区の年次寄付を前年度よりも7万ドル減額して25万ドルでエントリーして来たとの説明を受けた時財団増進委員長の立場で、不景気とは言いながらも皆さんにご協力戴いて100％達成が可能な気がして居りました。

11月の地区大会は丁度ロータリー財団月間に当り、小林ガバナーの大口寄付をPRして景気付けしたことでもあり年末位には何とかメドが付く様な気もしておりました。

ところが案に相違して月日が経過するに従って状況が非常に厳しいことが判り、地区より各クラブの会長、幹事さん宛2回に亘り寄付増進のためのお願いの文章を発送しております。

4月末日現在に於ける自主申告に対する達成率は73％と言う状況です。余す処2カ月。各クラブさんのラストスパートを信じ乍も大変気の揉める昨今です。

地区大会の記念フォーラムで話題となったRI理事会の決定による「謝意の表明」が、もしこの様なロータリーの現実の運営に影を落すことになれば大きな問題であり、色々な意味で転換点に達してると言われるロータリーの改革は大変道が遠い気が致します。

感動したGSEチーム受け入れ

GSE委員会　委員長　**山名善久**

当委員会は今年度RI3830地区（フィリピン）から派遣のGSEチームを受け入れ、多くの皆様のご支援をいただき、無事終了することができました。

彼等は全ての事柄に感動をし、派遣される前に想像していた日本のイメージがことごとく覆され、大きな驚きと感動を素直に表現していました。これもひとえに、プログラムに携わっていただいた多くの方々に深く感謝申し上げるとともに、多大なるご努力に心から敬意を表します。

GSEプログラムは、短期間で極めて大きな効果を期待できる事業の一つと私は考えています。このことは、過去にGSEプログラムに携わっていただいた方々にはご理解をいただけると思います。しかし、これから先検討しなければいけない課題もたくさんあることも事実です。ひとつひとつこの課題に取り組み、今以上に地区内多くの会員皆様にご支持をいただけるプログラムにしていきたいと考えています。

次年度も皆様のご指導、ご支援を心からお願い申し上げ、今年一年間の当委員会に対するご協力に深く感謝申し上げます。

素晴らしい青年たちの推薦に感謝

国際親善奨学金委員会　委員長　**土橋信男**

本委員会の最大の責務は、会員の善意でなされた寄付で与えられている国際親善奨学金を受けるに最も相応しい青年を広く募集し、選考できたかどうかということである。

そのためには、地区内に適切に広報して、本奨学金の存在を知らせ、またその広報を通じて啓蒙することも必要である。それが充分できたかどうかもわが委員会の評価になる。

本年度選考した奨学生11人は、アジア2カ国（タイ、トルコ）、ヨーロッパ4カ国（イングランド、フランス、ドイツ、イタリア）、オセアニア2カ国（オーストラリア、ニュージーランド）そして米国と、実に9カ国への留学を計画している。特に、アジアの2カ国は始めてのことである。

この9月から出発する留学に備えて6回にわたるオリエンテーションを実施したが、その過程でこの11人はわれわれの期待に充分に応えてくれるという確信を持った。素晴らしい青年を推薦していただいた各クラブに感謝の意を表したい。

初めて開催した「帰国学友報告会」

財団学友委員会　委員長　**鍋谷操子**

地区内の各クラブへ「財団学友」の存在意義を高めながら、「財団学友」のロータリーへの協力意識を高めていきたいとの思いから「財団学友会」が発足してから早くも2年が経過いたしました。各クラブには賛助会員として、今年も学友会へのご支援・ご協力を頂き感謝を致しております。さて、今年1月25日に「帰国学友報告会」を地区レベルで初めて、開催を致しました。関係者には多数のご参加を頂いたのですが、学友のスポンサークラブからの参加が極めて少なかったことが残念です。私たちの委員会から各クラブへのインフォメーションが十分に行き届かなかったこともその原因の1つですが、ロータリークラブに於ける「財団学友」への認識の低さを物語っているようです。地区DDFの大半を注入している財団奨学生の成果体験報告をスポンサークラブとしても是非確認して欲しいものです。ロータリー財団月間での財団学友の卓話も「財団学友」との接点を持つことで容易になっていくでしょう。今後とも「財団学友」への理解とご支援を御願いいたします。

補助金枠一杯の活用を 地区委員会

補助金委員会　委員長　**伏木忠了**

年当初活動計画を発表した財団補助金委員会は、財団からの助成金について、各クラブへの情報の提供と財団への補助申請のお手伝いをすることが目的であり、地区内においては、地区社会奉仕委員会や地区世界奉仕委員会と連携しながら、補助金の申請を出していただくためのPRを兼ねて来ましたが、各クラブからの申請はありませんでした。

この補助金制度は、その年度の3年前に、皆さんが寄付した額の60％が地区活動資金（DDF）の枠であり、人道的プロジェクト（補助金委員会）に35,000＄配分されておりましたが、年度内使用が原則で繰越は出来ません。

また過去の事業や委員会資料の引継ぎなどもなく、後手後手になった事を痛感しております。

2003～2004年度から「新しい補助金制度」がスタートしますので、改めて補助金の枠一杯ご活用下さるようPRをしたいと思っております。

思い出深い野外懇親会 地区委員会

米山学友委員会　委員長　**見延庄三郎**

「米山学友会活動の活性化を図る」と言う基本方針のもとに、委員一同兎に角一生懸命取り組んできた。一方学友会役員の皆さんも我々の支援を歓迎し、陳会長を中心に非常に精力的に活動を開始してくれた。幾つもの行事の支援を行ってきたが、特に5月に小樽で開催した家族ぐるみの野外懇親会では総勢43名、和気あいあいとパーティを楽しみ、ロータリアンと喜びを共有し合えた事は何よりの大きな成果であった。此の間伊藤米山記念奨学金理事始め米山地区幹事や戸井米山記念奨学委員長の懇切な指導や援助があり大変助かった。唯一番苦労したのは学友会員の消息を把握することで、転居する場合の連絡洩れの為行方がわからなくなることがあることだ。転居時の報告洩れのなきようもっと啓蒙活動が必要だ。いずれにせよ米山学友委員会活動の活性化こそ米山記念奨学制度の重要な仕上げのひとつと考え、二年度目の今年は一層の充実を図りたい。

アゲンストの1年 地区委員会

米山記念奨学委員会　委員長　**戸井敏夫**

本年度をもって、３年間務めさせていただいた地区米山記念奨学委員長を退任いたします。

最終年度の本年は、特別寄付金が減少し、また米山セミナーにおいても制度についての厳しい意見を拝聴するなど、どちらかというとアゲンストの年でありました。

昨今の経済環境では、やむを得ないものがあるとは思いますが、米山奨学制度も今アンケート等により制度に関する意見収集をし、さらに変わろうとしております。

今後厳しい見方も含めて関心を寄せていただき、日本のロータリー固有のすばらしい事業であります米山奨学制度への一層のご理解をお願いいたします。

最後になりましたが、地区役員を経験して、いろいろな会合や行事で真にロータリーを愛する方々と接する機会を得たことを感謝し、また次年度役員の皆様のご活躍を期待いたします。

成功した大会参加 地区委員会

オン・ツー・ブリスベン委員会　委員長　**遠藤正之**

当委員会に各クラブから頂いた報告によると、参加者は18クラブ、64名の会員と26名のご家族となっています。イラク情勢、SARS問題等ありましたが、皆様のご理解のもとに成功裡に大会参加を頂けたことに感謝を申し上げます。特に本年度の目玉は二つの「北海道ナイト」を成功させたことと思います。

「北海道ナイト（Ⅰ）」は奥貫新世代委員長のきめ細かな準備とご苦労による「元交換留学生との交流の夕」で開会式の前日小林G夫妻も出席され元交換学生7名とロータリアン及び家族28名の参加で大変なごやかに行われました。「北海道ナイト（Ⅱ）」は、金井友情交換・青木国際奉仕両委員長の緻密な計画のもとに、開会式の直後、午後7時より大会々場横のリッジス・サウスバンクホテルで伊藤元RI理事、2510地区小林G以下88名、2500地区小船井G以下4名、海外より18名の参加があり、国際色豊かな余興、スピーチもあり楽しい会でした。

（詳しくは両委員会より報告があると思います。）

両雄、相まじえた365日

you believe in……

この対談記事は、2500地区の小船井修一ガバナーが司会者とともにインタビューのためにわざわざ2510地区ガバナー事務所にお出で下さったときのものです。内容は2500地区の『ガバナー月信』に掲載されているものですが、当地区『月信』にも掲載させていただきます。司会者は2500地区副幹事の瀬野賢二会員（釧路RC）です。

男は責任を背負って、
実行に移さなければならない時がある。
男はあらゆる矢面に立ち、
変革していかなければならない時もある。
そして、もし、この世界にBelieveがなかったら……
コロンブスは大西洋の真中で引き返し、
またピカソは絵筆を置いたでしょう。
コッポラはディレクターズ・チェアを
畳んでしまったかも知れません。
Believe
それは信じることを信ずることであり、
自分を信じる自信であり、人を信じる信頼でもあります。
この世界をもっと素敵にしたいと思うエナジーでも
あるでしょう。
ここに己を信じそして人々を信頼し、
365日走り続けた男ふたりが対面しました。
今回、
『月信』最終号では2510地区小林博ガバナーをお訪ねし、
お互いの365日を振りかえって頂きました。
そこには完走したランナーのごとく、
成し遂げたお二人のすがすがしい笑顔がありました。
両雄、1年間たいへんご苦労様でした。

Q1 6月末をもって2002ー2003年度ガバナー職が終了致します。今回、『月信』最終号では2510地区小林博ガバナーと2500地区小船井修一ガバナーに1年を振りかえりながら、今だから言える事、時のエピソード等をお話戴きます。

小船井：小林ガバナー1年間ご苦労様でした。私にとってはアッという間の1年だったような気もします。また、よくぞここまでたどり着いたとの安堵感もありますが、小林ガバナーの場合は如何な印象でしょうか。

小林：私も同じです。長いようで短い1年でした。正直言って肩の重い荷がおりたという感じです。

小船井：ガバナー職は単年制ですから前年度からの引き継ぎというのはあまりありませんでしたので私なりにやらせて頂きました。しかしながら、単年度制にはプラス面とマイナス面があり問題がたくさんあることがわかりました。

小林：ロータリーにおいてのガバナー職は、原則はその年度の全てを尊重するという事でしょうが、それだけに捕われると違った意味で思い切った事が出来なくなります。例えば2年、3年に跨がるような長期の企画立案が生まれてこなくなります。本来ロータリーの活動は、長期的に渡って継続していくものがあって然るべきだと思います。クラブ単位では、長期継続事業を数多く見ることがありますが、残念ながら地区レベルではなかったことも事実ですね。

小船井：年度を跨ぐ例えとして仮に「2500／2510地区の合同地区大会をやりましょう。」という意見（例えの話です）があったとします。ところが時のガバナーが地区大会の開催地を決定して行うことになっていますので、その点では、上記の意見は、一切申し送りができないことになりますね。さまざまな新しい企画案やご意見があったとしても、それを決定する上では、乗り越えられない厚い壁があるようですね。

以前小林ガバナーからお聞きしたのは「まずそんな事を憂慮する前に仲良くなりましょう。」と言うお話でした。2500と2510地区が人的交流によって仲良くやっていけばいい。互いのコミュニケーションが深まりさえすれば、そこから自然に何かが生まれるという事でしょうか？

小林：カルロ・ラビッツアさんがRI会長ノミニーになった時、グレン・キンロスRI会長に呼ばれジェームス・レーシー会長エレクトと三人が一緒になって話し合いましょうといつも集まっていたそうです。私もそれに習ってエレクト、ノミニーに雑談程度ですが、お話ししましょうか！と声をかけました。

小船井：諮問委員会というのは良くも悪くも凄い存在です。しかしながら、「諮問委員会などいらない！」という一般ロータリアンの声も幾度か耳にしました。私はガバナーをやらせて頂いたこともあって諮問委員会の必要性は実感してますが、一般のロータリアンにとっては、まったく諮問委員会の姿が見えていないこともあり、上記のような意見も出てくるのでしょう。これは、どのように委員会が運営され、どのような協議がなされているのか？が見えてなかったことによるご指摘でもあると私は思います。

Q2 小林ガバナーが言われたノミニー、エレクト、ガバナーの3人が常にお話していくというのは、いいですね。継続事業が年度を越えて繋がっていく可能性が出ると言うことですから……。

小林：その年度を尊重するのが原則です。その上で何か継続

的なものを考えましょうと言うことです。例えて言うなら、企業の社長が毎年変わってそれぞれが勝手に別々の事をやっていたら会社は成り立っていかないじゃないですか。

人間のかくれた能力を引き出す自由討論は、多いにやるべきです。

小船井：小林ガバナーが開催されたワークショップについて教えて頂きたいのですが。

小林：ワークショップとは、講演会でもシンポジウムでもパネルディスカッションでもありません。ひとつの問題をみんなが同じ目線で討論し、できるだけ結論を導き出すよう努力し、その結論にそって実行することを目的としています。開催のテーマは、「ロータリー情報の今日と明日」から始まり「国別部会：当面の活動計画と今後の展望」・「“日頃心がけている家庭奉仕”“心がけたい家庭奉仕”」・「明日のエネルギー問題を考える」・「大人は子どもたちに何ができるか」の計5回開催しました。

小船井：そうですね。まさに単年度制の欠点を指摘されたと言うことでしょうか。小林ガバナーが実践されたワークショップの中で、特に出たい人が出て勉強をする、参加自由意思の考え方に私は、新鮮さを感じました。ロータリーにはIMという事業がありますが、嘗ては勉強会であったのが徐々に親睦の色が強くなってきたことも確かでしょう。IMは分区毎開催ですが、2500地区の分区はエリアが広いためでしょうか、久しぶりにあう会員交流の場の色合いが徐々に強くなってきます。勿論、親睦も大切であると理解しますが、真の勉強の方が気になるところでもあります。その意味でもワークショップは、本音の真剣討議というところがいいですね。大変参考になりました。

小林：私の基本的なスタンスとして大学時代の経験が参考になっているのですが、人間のかくれた能力を引き出すためには自由討論が大切だと考えています。しかしながら、残念ですが、自由討論をする事に多くの日本人は慣れていないこともあります。人間は自由討論を介して自分自身を発見したりすることが出来るところに自由討論のプラス面があると思います。実は、アメリカの国力のひとつの源泉も喧々囂々とおこなうディベートにあります。アメリカ人は、全てにおいて議論する事に慣れています。

小船井：だいたい今まではフォーラム形式が多いですよね。きちっとした定義があるようでないのが実情でしたし、いろいろな人がさまざまな捕らえ方をしてきました。

小林：ワークショップは、最初から格式ばらず、みんな同じ目線で同じレベルでお話しましょう……から始めます。それは、ある程度勉強してみんなのレベルが一緒、みんなが知っているという前提から始めます。その上で議論を深めるのです。その議論の中から何かひとつを作っていこう。作ると共に出来るものなら実行に移していこうという含みをもって討論を仕組む訳です。

小船井：ブリスベーンの国際大会の国際研究会もディベートを行っていましたね。是か！非か！の結論にもっていくセッ

ションでした。国際的にもディベートはポピュラーになってきています。小林ガバナーは昨年のアナハイムの国際大会でも発言されていますし、先日のブリスベーン国際大会での2日目の研究会で英語、仏語圏のワークショップの意見発表者としてスピーチされていましたね。世界大会のステージですからね。私などは、とても発表などはできません……。私は日本語ディスカッションに出席するのが精一杯でした。その意味で小林ガバナーは、今年度のガバナー35名の中で出色のガバナーだと私は尊敬しています。

小林：ブリスベーンのワークショップは、私の考えるワークショップと多少違っていました。一般会員がいろいろ意見を言う。いい意見に対してはワーッと拍手、そうでないとブーイング、入れ替り立ち替わりに意見を発表し司会者が全体調整をする。それはそれで面白いですが、ある意味では「ガス抜き」の意味があったのかもしれません。

小船井：日本の場合、ワークショップといっても分科会の要素がありますよね。私共の地区を例にとればパストガバナーが講師を務め、一方的に参加者に伝えるというスタイルなんです。お話を聞いていて、この形から早く抜け出し、本来のディベートをしなくては駄目だと感じます。2510地区の小林ガバナーのワークショップ開催の挑戦とその内容の素晴らしさに感服しました。今後、私どもも大いに参考にさせて頂きたいと思います。その節にはアドバイスよろしくお願いします。

Q3 ところでガバナー職の中でも最大職務・最大事業に公式訪問と地区大会がありますがこのふたつについてのお話を思い出など交えながらお聞かせ頂けますか。

小船井：私共の2500地区は69クラブ。私は上は利尻、礼文から下は広尾までまさに北海道を縦断しました。2510地区は72クラブですから私共より4クラブ多いクラブ数ですが如何でしたか。

小林：69クラブ全部を回ったのですか。

小船井：はい！69クラブ全部を訪問しました。クラブ協議会も出ました。大変でしたが今思うと楽しい事ばかり思い出します。

小林：私は昼間を原則に公式訪問は27カ所の合同例会で実施しました。また、クラブ協議会出席はガバナー補佐にお願いしました。地区リーダーシッププラン（DLP）に副っただけのことです。しかし、各クラブの会員とのコミュニケーションが薄くなったという声も実際ありました。小船井ガバナーは

69カ所ですから私の2倍以上ですし、しかもあの広さですからね。やっぱり修一さんの若さが為せる行動力ですね。

小船井：当地区では過去、公式訪問は上半期中に行っていました。それは、クラブ協議会にガバナーが出席していたからでもあります。今年度はガバナー補佐におまかせするという事で公式訪問は1年を通して行うことが出来ました。これも本年度スタートしたガバナー補佐（DLP）制度導入の成果だと思います。その意味では、過去のガバナーは凄かったんですね。実は、パストガバナーの方からクラブ協議会も出席せず、合同公式訪問例会ばかりでどうするんだという厳しいご指摘もありました。結果としては、クラブ協議会は49カ所、公式訪問は57カ所だったと思います。

小林：「手抜きではないのか」との批判もありましたが、RIの決めたDLP採用の実施なのですが、過去にすべてを廻ってきた実績のあるパストガバナーからすると、そのように見えるのかも知れません。一方では、合同例会に関して多数の皆さんが非常に積極的でした。近くのクラブでありながら一緒にやる事がなかったのに今回の合同例会は、意義あるいい機会を戴いたと言う声も多数ありました。

小船井：従来の分区代理から変わったガバナー補佐の皆さんが今まで以上に大変だったと思いますね。反面、一番勉強なさったのもガバナー補佐の皆さんではないでしょうか。

小林：ガバナー補佐の方は何か聞かれてもガバナーの考えはこうじゃないでしょうかと間接的な話ししかできません。自分はこうなんだと言いたかった部分あると思うんです。勉強はしたが、立場が違うので歯がゆいところがあったでしょう。本当にご苦労かけたと思います。

小船井：あと数日で私達もパストガバナーの立場になるわけですが。パストガバナーになってからの生き方、あり方という問題もありますね。私の時はこれだけ苦労したのだから、みんなやるのが当たり前、当然と思ってる方もいれば、一方でガバナー職のチャレンジの門戸を開くためには今の制度を変えるべきだと思う人もいるでしょう。見識、知識、経験も深まった中で、ガバナーとしての能力をもっている人は70歳を超えなくては駄目だと思っている人もいるでしょう。しかし、40代でガバナーを出せる若々しさ、体力、気質が日本のロータリーにないというのも残念です。そういう仕組みになっていないという事でしょうか。この日本のスタンダードが世界的なスタンダードかといえば違います。どっちがいいか、悪いかと言う前にガバナーは年代の垣根を外し年収、性別、学歴の幅をせばめずにチャンスを拡大する事が大事だと私はいま痛感しています。その意味では、DLP制度はそれに則していると思いますし、私が少し若い世代であることもあり世代の代表としてちょっぴり生意気を言わせて戴きました。すみません。

新しいことへのアクションには、「勇気」がいる、「勇気」は次へのアクションステップです。

小林：ところで2500地区の地区大会は本当に素晴らしかったですね。私が見に行かないで、むしろ若い会員に見てほしかったと思ったものです。戻って来て、良かったよ！と内容を説明しても、言葉ではなかなか伝わらないのです。子供達を上手に演出してた所も素晴らしかったですよ。ハードとソフトをたくみに盛り込だ力強さの中にあたたかなハートのある大会でした。

小船井：地区大会というのは、学びと感動の場だと私は思うんです。ある意味での消化試合じゃありませんが、遠くから来て食事するのが楽しみと言うだけの地区大会もあるでしょう。それではお食事会で終わってしまいます。参集したロータリアンの皆さんが心で感動を共有できること、そして何かを持ち帰ってもらうことだと私は思います。懇親会で食事をし、即いなくなる。実際、そのような地区大会も過去にありました。それならば、帰らせないようにするには、どうしたらいいのかを模索しました。映像などを駆使し、今までの殻を破った地区大会にしようという私達の挑戦結果でもありました。でも、新しい事をする時には勇気もいりますし、批判も出てきます。過去のことを変えていく難しさはありましたね。2510地区の地区大会のフォーラムに私もお招き戴き、パネラーとして参加させて頂きました。その節は、つたないパネラーですみませんでした。小林ガバナーの方の地区大会を少しお聞かせ戴けますか。

小林：大会初日は記念フォーラムなど主に研修の機会にしました。2日目はアグネス・チャン記念講演など祭典的なものにしました。実は、地区大会は大会スタッフの皆さんがやってくれたんです。私がお願いした事は、夜の懇親会は遠くから来る人が帰れないので昼の懇親会にしましょう。全体の時間を短縮し、効率化を図りましょう。経費は節減してください。この3点でした。それを受けて皆さん一生懸命やってくれました。

実は2500地区の「誕生日のお祝い」を見てこれはいいと思い、当地区も真似をさせてもらいました。いい企画は誰が見てもいいですからね。その意味では、正直釧路の大会が先に開催されて良かったですよ。

小船井：私達は、特に新入会員の参加者にとって、印象的な大会にする事も心掛けたつもりです。彼等がこれからのロータリーを築く大切な人材だからでもあります。

Q4 両ガバナーは、お互いの地区大会に参加されたわけですが、一般の多くの会員が交流参加する事も大事なのではないでしょうか。

小林：地区大会を開催して思うことは、たくさんのお金を使い会員が半強制的に集まる必要性が今の時代に本当に必要か？考えることがありました。地区大会での小船井パネラーの発言の中にもありましたが、極力、経費を節減して2500と2510が共同で行う合同地区大会があってもいいでしょうね。それは、札幌でなくていいじゃないですか。例えば、北海道のヘソと言われている富良野のラベンダー畑で開催するなどの発想も生まれてきます。キャパシティーとしては札幌ドームかもしれませんが5万人入るところに2,000～3,000人集まってもおかしな話ですしね。夢のようなお話も「千里の道も一歩」

と言われるようにワークショップなどでみなさんの夢をお話しているうちに、いつの日か、それじゃやってみましょうという事になるかもしれませんよ。

小船井：今回のブリスベーンの国際大会での北海道ナイトや来札したラタクルRI会長歓迎会も共同主催で北海道がまとまったひとつの結果です。共通する北海道というステージの中で、お互いにコミュニケーションを取り合っていく空気を作ることもガバナーの仕事だと、この終りになって理解できました。もう、遅いでしょうか。

トップダウン⇒ボトムアップへ
読まない『月信』⇒読ませる『月信』への挑戦。

Q5 次に読まれざるベストセラーと言われ続けてきた『月信』についてお尋ねします。2510地区の『月信』では「ガバナーsレター＆ガバナー日記」、2500地区では「ガバナー巻頭文＆インタビュー」とお二人共、原稿書きには、ご苦労されたと思いますが……。

小船井：小林ガバナーご自身が『月信』の紙面で書いた原稿量は私より多いと思います。私は1年間でA4サイズ1,615枚、1枚が約1,100文字ですから約177万字書たことになります。但し、これは、会議の議事録や講演速記メモなども含まれてますし、インタビューや対談は、書いたというより語ったということですから、厳密に『月信』だけをみたら小林ガバナーにはとても追いつけませんね。

Q6 『ガバナー月信』は、ガバナーから会員に届けるガバナーの手紙と理解してもいいのでしょうか。

小林：本来はそういう事です。しかし、私の理解はちょっと違っています。それは、現在は上意下達の時代ではないという認識から出発しているのです。従来はトップダウンのシンボルが『月信』だったのかも知れません……。ガバナーや国際ロータリーからのメッセージを一方的にクラブ会長に伝え、クラブ会長から更に一般会員に伝えるツールがガバナーズ・レターであったと言ってもいいでしょう。

実は、本年度のビチャイ・ラタクルRI会長は「ロータリーが発展していくためには一人ひとりの会員の力をお借りしなければならない。つまり、ボトムアップを図ってトップダウンとボトムアップをミックスすることによって本当のロータリーができていくのではないか！」と力説しています。私もこのお考えには同感であり、そのための一番具体的に使えるツールが『月信』であることに気がつきました。そこで、会員のQ&A原稿や投稿原稿を積極的に募りロータリアン各位の隠れたエネルギーを誌面に反映してみました。

小船井：2510地区の『月信』は、いつも私共の編集部でも注目していました。誌面の企画デザインは勿論、中身の情報の濃さにいつも驚かされていましたね。私共では、途中6号からスタートした「人」シリーズという企画があります。これは私の公式訪問をすべて終えた後に誕生した新企画です。69カ所の訪問で多くのロータリアンにお会いし「クラブの存在の前に人ありき、役職者の前に隠れた人材ありき」と私の感じた訪問印象を編集委員会が即座に形にしてくれたシリーズでもあります。立場を越えて地域で活躍されている方、誰よりもロータリーを愛してる方、いつもは縁の下で汗を流している方などにスポットライトをあててみました。結果、編集委員の方には、地区内を取材で駆け巡る結果となり大変ご苦労をかけたことも事実です。でも、その編集委員が「素晴らしきロータリアンの取材をして人生の幸せを感じました。」と語った一言が私にとっては嬉しかったですね。何か熱い情熱が伝わってきました。同時にロータリアンである前にそれぞれ一人の人であること、クラブがある前に皆さんの暮らす地域があることを、このシリーズから学ばせて戴きました。

小林：読みごたえのある素晴らしいシリーズでしたね。日本全国から届けられる『月信』のなかには投げ遣りな『月信』もありますよ。

小船井：地区によっては『月信』の購読費という形で一般会員からもらっていない所もあるようですから、それはそれでしょうがないと思います。また、中にはハードペーパーで発行せずにインターネット・ホームページで見て頂くところも増えていると聞いています。

小林：それも自然の流れですね。しかし、まだITに精通していない人も多々いらっしゃるのでやはりハードページは大事なツールだといえるでしょう。両地区ともアナログハードペーパーだけではなく地区のホームページでも発信しました。そのデジタルの方は、すべて修一さん自身が打ち込みからアップまでやっていたと聞きましたので、これは凄い！！　到底私にはできない芸当です。ある人が小船井ガバナーを「電脳ガバナー」と呼んでいましたが私も頷けるところです。

小船井：私はガバナーに就任して、意識したのはデータベースを作っておこう。ということでした。ガバナーが知り得る情報の全てをデータベースにすれば、次のガバナーも使えるだろうとの思いで過去2年分の知り得るものをホームページに掲載しました。勿論、一般会員の方も地区の情報のひとつとして即座に取り出すことができるようにしました。

小林：インターネットですから私共地区外からも見ることができますね。その意味では、IT化により人的交流より先に地区情報が地区の垣根を越えています。この情報に遅れず人と人の交流も急がれるところです。その意味では、今日のこの対談もそのひとつ。お声をかけて頂いたことに感謝いたします。いずれにしても、2500／2510地区共に『ガバナー月信』は、この1年がんばりました。言い換えれば北海道のロータリーが頑張ったと言うことでしょう。これは他地区の『月信』と比べてみると自画自賛でないことがお解り頂けると思います。これも編集関係者の皆さんのお陰1年間ありがとうございました。

小船井：『ロータリーの友』もそうですが、『月信』も部数だけは出ているが読まれないベストセラーと言われてきました。

しかし、『ロータリーの友』も女性編集長になり大きく変わりました。北海道の2地区も今までの『月信』にはないチャレンジをし頑張ったと思います。少なくとも北海道の『月信』は、時代の変化に対応しながら改革したことだけは互いに胸を張ってもいいと思います。ただ、当事者ふたりだけで納得しているのでは自己満足と呼ばれます。問題は、地区内ロータリアンの皆様の評価は如何に？なんでしょうね。

Q7 お話が変わりますが、確か2500地区では創立25年を迎えるクラブが創立記念日をもって解散するお話をお聞きしましたが。

小船井：そうなんです。2500地区内の1クラブがこの度、終結・解散という事態を迎え、この度RIのすべての手続きを終え6月30日をもって正式になくなってしまいます。年度のガバナーとして考え深いものがあります。
小林：それは残念ですね。私共の地区でも会員が6名まで減ったクラブがありました、しかし、その後15名ぐらいまで盛り返し、現在も継続していますよ。

Q8 これは、北海道のこの低迷する経済状況が関係しているのでしょうか。

小林：会員減や地区の再編・クラブの解散など、これらは経済と関係ないと言ったらウソになりますが、本来ロータリーというのは経済状況に支配されるべきものではないのでしょうね。
小船井：2500地区においては－130名（2002. 7. 1～2003. 6. 30）です。これら会員減は、経済状況のせいばかりには出来ませんね。起きる問題点を深く広く考えようとしないところが問題だと思われます。勿論、北海道の景気は良くありませんが、景気が悪いから仕方がないと言うならば、そこから一歩も進まない事になりますね。

いちロータリアンにもどり、また新たな出発の時なのです。

Q9 お二人にお伺いします。ガバナー職を終えるに当たり、ガバナーをやって、得たものはなんですか。良かったことはなんですか。

小林：ロータリーに入ってたくさんのロータリアンとの友情をもてた事です。これはガバナーをやったからという以前の問題ですね。やはり、自分の専門分野の方たちだけのおつき合いが多かったのですが、それ以外の人たち、特に、性別、年齢、職業が違うだけでなく、違った価値観をもっている人たちとおつき合いができることが得た最大のものでしょうか。これは、ロータリーという組織があったお陰だと感謝しています。
　実際、修一さんとも年齢も職業も違う中、同じ北海道という背景と同じロータリアンという背景を背負ってるからこそこうして親しくお話ができるのです。終生、別れないご縁をいただいたと思っています。

小船井：私も先生と同じです。見方を変えてひとつお話させて戴きます。私共のガバナー事務所の事務局長、川口雄さんがこの4月78歳で亡くなられました。ガバナー事務局体制をつくりあげ、私が無事ガバナー職を終わらせて戴けるのも川口さんのお陰と言っても過言ではありません。川口さんが入院なさる前、私が「体調が悪いのにすみません」と言うと「この年齢になって心を燃やすことの出来る立場（事務局長）にしてくれただけで嬉しい……」と言ってくれました。78歳の大先輩がロータリーに対する自分の想いを亡くなる前にひかえ目におっしゃったんでしょうね。ややもすれば、権威、権力というのは自分に本来備わっているものだと錯覚する人も多く見受けられる中で、川口さんからは、控え目なロータリーの素晴らしさを学ばせて戴きました。年齢も、役職もそして職業や社会的立場を横に置き、人間裸になれば、皆いちロータリアンなんですよね。
小林：その通りですね。長老を任ずる人達は控え目になることが大切です。同時にロータリーの規則に振り回されないことでしょうね。規則とはみんなを縛るものではなくロータリーの最小限のルールを言っているだけです。まずは規則の前に善意と良識を信ずることだと私は思います。ある合同例会の時のことですが、「ガバナーを終わられたらどうしますか」という質問がありました。私はすぐに「ひとりのロータリアンに戻ります」と答えました。

Q10 最後に、両ガバナーに1年を振りかえりご自身に語りかけるとしたらどんな事でしょう。

小林：少し気負いすぎたかなあと思う反面、たくさんの方たちに助けられ、楽しく頑張ったと思います。健康にも恵まれ、僅かでも前進させる事が出来たのではないか。そして、ささやかな満足感をもってガバナーの任を終えることが出来たのも全てガバナー補佐はじめ、ロータリーを支えてくれた皆様のお陰です。素晴らしきロータリアン諸兄に心から「ありがとう」と言わせて戴きます。
小船井：私も体をこわすことなく、1年間を務め終えたことに安堵しています。これも偏に支えてくださった皆さんのお陰と心から感謝申し上げます。変えることにチャレンジした1年でした。急に変えようとする事は無理だとわかっていますが、私が残した有形無形の何かひとつでもいい、誰かひとりでもいい、たったひとつでもいい、受け継がれていってくれたなら幸せです。小林先生と同じように私もこれからは、いちロータリアンとして歩んでいきます。先生1年間ご苦労様でした。また、本日はお忙しい中、私共の『ガバナー月信』、最終号にご登場頂きありがとうございました。

（取材／札幌2510地区ガバナー事務所にて）2003. 6. 29
基本編集：四方山裕子
司会＆リライト＆編集責任：瀬野賢二（副幹事）

●編集者から一言
　お気付きかと思いますが、対談の中程からは、修一さん、先生と呼び合うフランクで笑顔あふれる対談になりました。これからも「修一さん＆先生」の素敵な交流が続くことを願いつつ特集「小船井ガバナーが聞く」を締めさせて戴きます。

ガバナー補佐座談会

2003年6月15日12：30～14：30　於：札幌アスペンホテル

ガバナー補佐座談会、みんな緊張の表情。次第に柔くなって談論風発。

竹原　厳しい反省とまた将来の展望も含めて忌憚のないご意見を頂ければと思います。座談会の要旨は『ガバナー月信』に掲載予定で、『月信』編集委員長の私が司会をさせていただきます。

3点についてお話いただきたいと思います。まず、今年度本格的に導入されたDLP制度でのご苦労や問題点について、2つ目は小林年度から始まった新しい試みに対する評価、3つ目はこれからのロータリーに対する提言についてそれぞれの思いを語っていただきたいと思います。

DLP（地区リーダーシッププラン）について

吉本　分区代理時代に比べガバナー補佐の忙しさ、仕事の多さにはかなり参りました。最低4回の訪問は、仕事をしながらなのでなかなか大変でした。

藤原　第2グループの4クラブは距離的にも近いが、合同例会では多くの会員を収容するだけの会場が不足している問題があります。ガバナーに直接来ていただきたいという声もありました。

辻野　8クラブに各4回の訪問で毎回違った話をするのに苦労しました。4回目のクラブ訪問は、各クラブ内会員の職場訪問を行うなど工夫しました。ガバナーが訪問する機会が少ないので、ガバナーをお呼びする機会を作るように心がけました。

角掛　クラブからの批判、注文などは特別ありませんでしたが、ガバナー補佐の仕事量が多くなったことは事実ですし、合同例会の日程調整に苦労しました。それでもたまに合同例会を行ったほうがロータリアン同士の親睦になるのではないかという意見もありました。

近藤　DLPは良いシステムと思います。ただ、最低4回というのは多いので、私は3回で良いと思っています。本当はガバナーに頻繁に来て欲しいという声が強かったです。

和田　GSEの受入れの関係もあり、各クラブを4回くらい訪問しましたが、話に苦労しました。各クラブ協議会に出席して事業報告を受けても指導はなかなか出来なかったというのが現実です。各クラブ共通して会員減少の問題と、会員の減少に伴う財政難で青少年交換留学などの事業がうまく行きません。この対処として、各クラブがお金を出し合って協力しようという話が出ています。

郷司　訪問する立場としては、クラブを指導する立場ということよりもクラブにはどんな意見があるのか、意見があるのならガバナー事務所との間に立ってうまく連携させようという気持ちでした。合同例会については、賛否両論ありましたが良かった点は各クラブが交流できたことだと思うので、私は続けて行っても良いと思います。

斎藤　合同の公式訪問例会はとても良かったと思います。公式訪問例会は合同で結構ですが、各クラブ協議会はガバナーにお越しいただいて行えないでしょうか。ガバナー補佐がクラブ協議会に行っても、ガバナーに代わって自信をもって発言することが出来ません。

遠藤　第10・11グループ合同で行事を行うことが多く、ガバナーの公式訪問も函館市内1回と郊外クラブ2回の3つに分けて行ったが、ある会員から本来グループ別に行うべきとの意見もありました。次年度は10・11グループ全クラブ合同のガバナー公式訪問となったようでございます。ガバナー補佐のクラブ訪問は地区からの情報を伝え、クラブからのご意見反映等良かったと思いますし、私個人として他のクラブに沢山の友人を得ることができました。

松見　合同例会は「ガバナーの手抜きではないか」との意見がありましたが、ガバナー・エレクトの時期（2001

年12月）に会長・幹事予定者を集めて「改革をするんだ」と話されていたのでロータリーの皮を一皮むくという意味で皆さん協力しましょうと話しました。ガバナー補佐は大変だという労いを受けますが、クラブ会長をやっている方が大変だと感じました。各クラブ共通しての問題は会員減少に伴う財政難であり、安定した会員数のクラブはさして問題ないが、60、70名を切るクラブでは、従来、幅のある活動をしていたのが段々狭まっていくという問題があります。ガバナーは改革ということを強く印象付けたのではないでしょうか。

川田　充実し「ロータリーってましだな」と感じた1年でした。クラブ協議会をやってみて、クラブによってガバナー補佐を受入れる印象の違いがありました。また地区やRIに対する目線が違いました。地区やRIを理解してもらうのに手段が貧相で、話せば分かるというだけでは伝え切れないものがあり、ビデオや写真などを使う方法を考えなければならないのではないかと感じました。

藤原　初めてガバナー補佐がクラブ協議会に出席したせいか、クラブ側も従前と同じスタイルで、ガバナーの代わりにガバナー補佐が行くということで「この問題についてどう思いますか？」と問われても、ガバナーではないので自信を持って答えることが出来ず、「私はこう思っていますけども」としか答えられない。次のガバナー補佐の方々もこの点が1番最初に困るのではないかなと思います。当初、地区から見本みたいのを出していただけると伺っていましたが、何もないままでした。

川田　PETSがあって次年度の会長がRI会長の考えを聞いてクラブに伝えているのだろうけども、クラブでは事業計画が先に出来あがっており全然反映されないという現状があります。

和田　ガバナー補佐の持っている考えを押し付けることが出来ないし、ガバナーが考えられることがどう受け止めているかという問題があります。クラブでは全体がどうなっているかは関係なく各委員会が単発で事業を考えているので、クラブ協議会というものがただ聞くだけになってしまっている。内容まで踏み込んだ話は出来ない。それであれば、例会にお邪魔して自分の話したいことを話した方がいいということになります。

松見　地区の委員会がたくさんあるが、方針がクラブに浸透していません。地区の主要な委員会と、各クラブ委員長の合同協議会の必要性を感じます。

川田　地区が考えているようにクラブはロータリー全体を考えているのではない。RI会長が考えていることがそれ程地区委員会やクラブ委員会に影響されない事業計画になっていたのではないか。

松見　ただ、第11グループの上磯RCのようにきちんと取り入れているクラブもあります。これはPETSで勉強したことをクラブに帰って話して、次年度の計画をしている。若いクラブだから柔軟性に富んでいるのでしょう。

竹原　RIが立てた方針を、必ず守らなければならないというものではなく、クラブの自主性があってRIとクラブは対等の状況ですから、クラブの方針があれば一概に反対することは出来ないですね。

川田　何を言っても関係ないという感じでは、せっかくのアナウンスも意味がないものになってしまいます。

近藤　RIの決算書がどうなっているのか出して欲しい、また日本の理事が日本の現状等を本部に詳しく伝えているのでしょうか。本部から言われたことをただ地区でやっているのではないかという要望と意見が会長さんから出ました。小さいクラブは30分取ってくれますが、大きいクラブではガバナー補佐が行くといっても発言できる時間は3分とか5分しかありません。これではガバナーからの伝達をすることが出来ません。

都市連合会（IM）について

竹原　IMについては如何だったでしょうか？

斎藤　今回ガバナー補佐をやって1番良かったことはIMを開催したことだと思っています。従来にないものをやろうということで非常に乗り気になりました。これが周りへも伝わって「ロータリー市民講座」という新しいものになったので、来年からIMがなくなるということは非常に残念だと思います。私のクラブ内、グループ内からも同じ声が聞こえました。そんなに大きくやる必要はないが、1年に1回は同じグループのメンバーが集まる場は持つべきではないか、次年度に引き継ぐときに開催を要望するよう頼まれました。

郷司　IM中止というのはトップダウンですよね？　もっとクラブの意見も聞いてもいいのではないのかという意見がありましたし、今お話のありましたように年に1回位はみんなで集まってそんなにお金をかけなくても何かをやった方が良いのではないかという意見が出ました。

川田　IMをやらなかったのは第12グループだけですけども、講演会、記念誌にお金がかからなかっただけの違いで、合同例会で費用をかけずにIMをやったと思っています。

辻野　IMがなぜ気が重いかといいますと、これは従来通りのことをまたやらなければならないからで、新しいことをやろうとするとこれは結構楽しく出来るのではないでしょうか。私のグループも今回は野外で行い天候の心配はありましたが、これはこれで結構刺激的でした。フォーラムなどを省いたことを補填する意味でグループ研修会を行い、この2つを併せてIMと思っています。次年度IMが廃止になるこ

とは大変寂しく思いますが、次年度のガバナー補佐が今度はどんな形でやろうかと考えているようです。

吉本　昨年とは違って今年は第2グループにお任せし、合同で「ポリオの問題をはじめよう」と題して専門家を招きお話をいただきました。これはSARSや天然痘などの問題も重なって、啓発的で大変有意義で良いIMであったと思います。

藤原　第1グループと第2グループは十数年間毎年合同でIMを開催してきましたが、どうしても相手グループからの参加が少なく、今年限りで合同開催は止めようという話が以前から出ており、今年は最後なので皆さんに参加していただこうということでした。

角掛　今年度から発足した家庭奉仕委員会の和田委員長との話の中から家庭奉仕に関することをやろうと決まり、「家庭に慈愛の種を播きましょう」というテーマで行いました。IMはおもしろくないから止めようという意見もありましたが、今回結構な会員も集まり予算面でも余裕ができました。来年からIMがなくなることで交流がなくなるとの心配がありますが、みんなの意見は大々的にやらずとも会員が集まる方法を考えていけば良いのではないだろうかというものでした。

松見　IMを止めるという理由は何ですか？

和田　確かガバナー補佐が大変だというのと、今まで面白くなかった。それから、お金の問題だと思います。年度当初はそんなのやらない方がいいなと言う意見だったのが、力を発揮出来るのがIMで何とか自分の特色を出して実のあるものをやろうという気になった。実際私も大変満足しているので、IMはやり方次第であろうと思っています。

竹原　IMはみんさんやって良かったということでしょうか？

吉本　内容次第でしょう。

和田　もしIMをやられるとしたら、各クラブの代表者（会長・担当者）を集めて内容をじっくり練る必要があり、AGと担当クラブだけで決めるのではなく、共通の課題・テーマは何か、何を話し合って行かなければならないのかをきちっと掌握していくことが重要だと思います。

斎藤　ロータリアンのためだけのIMをやったらつまらないと思います。地域社会に向かって何が出来るのかという視点から取り組むと色んな手法が出来ると思います。

和田　確かに今までのIMは「ロータリーは何ぞや」というようなテーマばかりだからつまらなかったのでしょうね。

遠藤　IMはロータリアンの研修と親睦の場と2つの面があると思います。次年度はIMの代わりにワークショップとかグループ研修会だけが開催されるようなら、そのグループとしてロータリアンの親睦の場が無くなるのではと懸念致します。

ガバナー補佐ビジネス

竹原　グループの中にはガバナー補佐室やガバナー補佐幹事団というのを設けた所もあるようですが、他の方々はお一人でその大変な立場を務められていらっしゃいました。ガバナー補佐の資金については地区からは10万円しか補助がありませんが、グループではどのような対応がされていましたか？

辻野　第3グループでは、会員1人あたり500円出していただき400名の会員で20万円になります。その他に当別クラブから10万円の計50万円の予算があります。2名いる補佐幹事はすべてのクラブ訪問についていきます。

角掛　クラブからお金を出していただけるというのは最高に良いことですよね。なかなか言い出せないことですが。

辻野　本人が言うのではなくて、グループ内でどなたかが発言されて昨年度から執行されています。

角掛　10万円だけでは出来ませんよね。

吉本　第1グループも私が要望してガバナー補佐室を設置した訳ではなく、自発的に若い会員が集まって作ってくれました。お金のこともどこからどのように入っているのか分かりませんが、事務的な面は非常に楽でした。4人も必要ないかも知れませんが、1人はガバナー補佐の補佐（幹事）を作られた方が良いと思います。

辻野　グループからいただいた20万円のうち10万円はガバナー補佐としてIMに寄付致しました。

竹原　これだけ負担の大きいガバナー補佐の仕事ですから、やはり助けてくれる人とお金の問題が重要ですね。RIの方からの助成金はありませんから、地区予算の中からの10万円という事務費しかないということは今後も問題です。

近藤　第6グループは事務局6人体制で、これは前年度からの引継ぎの際に最低2人と言われていました。私のところも交代でクラブ訪問の際には同行し、例会の議事録や写真をとってガバナー事務局に報告していました。予算はクラブから20万円、各会員から500円で全6クラブで18万円。ただし、このやり方が良いのかどうかは分かりませんが、私は良かったと思います。IMの話ですが、私は一般の人にも開放したいと要望しましたが、ロータリーのお金を使っているからということで私の要望は下ろされました。これからは、地域を巻き込んでいかなければならないのではないかと思っております。

角掛　第4・5グループは一般の方も来られるようになっていましたが、実際にはほとんどいらっしゃらなかったです。

改革の評価

竹原　評価は数年経たなければわからないと思いますが、良い面も悪い面も忌憚のないご意見を頂ければと思います。

吉本　どこのクラブもあまり反発はなく非常にやり易かったです。また、今年度小林ガバナーの「ロータリー改革」ということもかなり浸透させることが出来たのではないかと思います。『ガバナー月信』は大変好評でした。『名簿』の件は、「ガバナー補佐の顔を立てているんだ。本当は反対なんだ」というクラブが2つありました。日本海沿岸のクラブは、活動が非常に活発ですし会員増強も減少すればすぐ補充し減っていないのですが、農村地帯は会員増強が難しく、グループ全体では1～2名の減です。先程、会長よりも楽だったと話されていましたが、私は会長の方が楽だったと感じました。

藤原　吉本AGのお力も借りて進めてきましたけれども、ガバナーの改革は支持される方が多く、第2グループは全面的に応援する感じでした。『名簿』の件も含めて賛成いただいていました。

辻野　ガバナーのお仕事柄もありまして、1番最初の会長・幹事会で例会中の禁煙をグループ宣言しました。反発はありましたが、何とかうまくいきこれを機に喫煙を辞めた方が随分おります。非常に良かったと思っていますし、ご本人やご家族の方々にも喜んでいただけたのではないかと思っております。

角掛　小林ガバナーの出された方針は各クラブでは素直に受け取っていただけたと思います。特に『月信』は大変評判が良いです。『名簿』の件は小林ガバナーも大変ご苦労されて、出来あがった『名簿』には札幌市内の2つのRCが載っていません。それらのクラブは何しろ頑固です。しかも、対応が遅いのです。こちらの言ったことがなかなか浸透せず結論的に反対となりました。札幌東RCも反対の方が多かったのですが、何とか会長さんを通じて説得していただきました。その他は特に問題はなかったです。

次期子ども奉仕委員会の委員をグループ内からクラブがダブっても良いから出してくれと依頼され、自分のクラブが頼み易いこともあり札幌幌南RCから3人挙がったのですが、地区から同じクラブ3人では困るから、選択して1人にして欲しいと言われました。折角お願いしたので地区で選んでいただきたいと伝えましたら、それは出来ないと言われました。何とか説得をして1名にしました。更には、この際だから女性委員を1人選んで欲しいと言われ、札幌清田RCの方にお願いすることが出来ましたが、この件は非常に苦労致しました。

喫煙の件は、私自身喫煙しますが私のクラブでは例会中は原則的には禁煙にするという話があったにも関わらず通達がはっきり出ませんでした。来期7月から例会中は禁煙ということが決まっています。1年遅れでガバナーには申し訳ないのですが。

近藤　『月信』については非常に良かったと思います。『名簿』については、情報公開とかの問題で拒絶するのはナンセンスで、ロータリーの会員を信用するかどうかだったと思います。会員増強も話をしてきましたが、大きなクラブに女性会員がいないです。

吉本　女性会員のいないクラブほど保守的な傾向があるような気がします。

和田　おそらくガバナーが求めた改革とは情報公開だったと思います。地区予算表が例年はその年度の分だけ出てくるのですが、それが今年度は前々年度と前年度との対比がされていて非常に分かり易かった。こういうことが1番の改革で、全てのことに繋がっているのではないかと思います。

『月信』は全く問題なく良かったと思いますし、『名簿』は余り使うことがなく各クラブ1冊とかCD-ROMにするとかでも良かったのではないでしょうか。そう考えていきますと、情報公開もアナログからデジタル化していく方向だと思います。ロータリーは全体として動きが遅く何となく漫然としているので、この辺をどう変えていくか。例えば、青年会議所を終えた若い人が狙い目で声を掛けても、若い人が入って来るとギャップが出来てくる。

ロータリーは、より時代に即していかないと地域から置いて行かれると思います。例えば、ガバナーが合同公式訪問しか出られないのであれば、パソコンで映像や言葉を送るなど出来ます。次年度には新しいあり方を模索していって欲しい。今年はきっかけとなる非常に良い年度であったと思います。

郷司　改革については、ガバナー補佐は大変だと思ってスタートしましたが、1月にガバナーが来られ、あるクラブから20項目くらいの要求などが出された際にガバナーが懇切丁寧に説明して下さったことで、それ以降は何も出てきません。100％とはいきませんが、『名簿』・『月信』・合同例会については受入れられたと思います。その最初の会議のお陰でガバナーの考えなどが理解してもらえ、かなり浸透していったのではないかと思います。

斎藤　「慈愛の種を播きましょう」は非常に良いテーマだったと思います。結果的に『月信』も『名簿』も素晴らしかったですし、「改革の種を播きましょう」と行動したのが、小林ガバナーであったと思います。来期からは『月信』も『名簿』もやらないと伺いましたが、そうであればロータリアンにガバナーの発言というものがどう捉えられるかが気になります。改革を実施するのであれば、

少なくとも3年は継続しないと評価が出ません。

遠藤　『地区名簿』についてですが、10・11グループでは以前から毎年、『顔写真付合同会員名簿』が作成されていて、その時の所属委員会までわかります。利用頻度の面からも『地区名簿』がはたして必要なのか？　との意見もありました。『ガバナー月信』については、全体的に好評です。あるクラブでは年度当初、例年通りの購読数でしたが3カ月目位から全員購読に変わりました。

松見　『月信』は地区の考え方や地区の行事の様子が良く見える。各クラブを訪問したときに地区の動きを伝えるのに役立ちました。ただ、良く読む人とそうではない人がいるので、自分の出したお金が何に役立っているかを知る意味でも読んで下さいと呼びかけました。

『名簿』は広い範囲で会員の顔が見えるので必要ではないでしょうか。地区大会は非常に良かったですが、アグネス・チャンの講演は一般市民に開放の機会を設けたら良かったと思います。

川田　私のクラブでは年功序列の慣習でガバナー補佐が決められていましたが、地区内のガバナー補佐の皆さんとお会いして、年功序列ではなくきちんと務められる人を選ばなくてはならないと分かりました。ロータリーを見る目線が変わりました。

吉本　『名簿』で問題となっていたプライバシーが侵害されたことは全くありません。それは反対のための反対であったのでしょう。非常に便利な点もありましたが、1年では評価が定まらないので、2年3年続けていかなければいけないものだと思います。

斎藤　これからのロータリーにとって財政の問題が極めて重要だと思います。地区として全体の会費を圧縮するなど財政問題を真剣に検討する委員会が必要ではないでしょうか。これも次年度へ向けて申し送りしていただきたいと思います。

将来への提言

竹原　次年度以降へのご提言があればお願い致します。

川田　景気が悪いので、RIが日本に資金を期待しているようです。そのとき、ただ財布にあるお金を出すだけではなくて、もう少し行動を起こしてお金を集める、これが本当に尊いことで、もっと奉仕の意味を考えた方がいいのではないでしょうか。

松見　ロータリーは流れが緩やかなので、いきなり行動を起こすと抵抗があるのだと感じます。特にワークショップの件ですが、議論をするのが難しく小人数で行わなければいけない。今年度発ち上がった良いものは3年程度のスパンで継続性を持つことを希望します。

遠藤　地区、クラブの事業等の継続性については、充分見極める必要があります。良いと思ったら続けるべきです。会員増強については、よく質か量かが問われますが、質だけ追っては行き詰まりです。ある一定以上の数があって自然と淘汰され存続していくものと考えます。

斎藤　日本全体が明るく元気がない中で、我々は奉仕活動できるという幸せな状況にありますので、こういった団体が明るく元気な運動を率先していくことを強くうたって欲しいと思います。

郷司　会員もお金の面ではシビアで、RIの財政が透明ではないことと、地区大会の札幌市への寄付をなくし地区に還元できる方法を考えて欲しいと思います。クラブの活動を地域の皆さんに浸透させていくことから始めたいと思っております。

竹原　札幌市への寄付の件は、今年度の地区大会では自治体への寄付は一切行わなくなりましたのでご理解いただきたいと思います。

和田　地域に密着した活動や事業を小さいながら続けていけば、地域との連動が成されていくと思います。ロータリーはPRが下手だと言われていますが、情報の時代に情報不足だと感じていますので、手法をクリアして活発な活動をしていけるようになればと思います。

近藤　もう少しシンプルになるという改革が必要だと思いますし、もっと討論する機会があればと思います。

角掛　若い人を多いに勧誘し入ってもらい、クラブを活性化させたほうが良いと思います。また、女性会員の入会についても前向きに考えた方がよいと思います。金を出すだけの奉仕ではなく、自分の体を使った奉仕を考えていけば会費の減額にも繋がると思います。

辻野　補佐を務めてグループ内のクラブ、或いは会員同士の交流が少ないことがわかったのでお世話役に徹してきました。次年度の方にも同じくお世話役になっていただきガバナーの意向を伝えていただきたいと思います。

藤原　地区委員会は新しく出来ても、なくなる委員会はないのかなと思います。

吉本　深川RCは米山や財団寄付が活発なクラブですが、月信に掲載されるときは、1人当りの実績額を載せて欲しいという要望がありました。

村山　うっかりして遅刻してしまい申し訳ありませんでした。1年間に会議が多かったという感じがしますので、もう少し簡略化していただきたい。また小さなクラブでは、1人3役を務めなければならない場合もあるので、大変だったと思います。色んな方と知り合いになれたことや、ユニークな活動を知ることが出来て、良かったと思います。

竹原　今日はどうも有り難うございました。

地区運営を振り返って

いかにムダなく、スムーズに。そんな目標もちながら、ヨーイドン！

代表幹事　**菅原耕治**

人が動けば、お金も動く。新しいこと、やろうと思えばご意見いろいろ。あちらを立てれば、こちらが立たず。なんと難しい組織かと、思いながらの1年間、なんとか無事（？）終了。終ってみれば、反省する事ばかりの幹事です。

地区運営に成功の秘訣はないが、人との“出会い”とロータリーに対する“思い”に、素晴らしい答えがある様です。ご協力を頂きました3,800人の地区会員と地域の皆様に深く感謝致します。

信頼の大切さを再確認

地区幹事　**大田すみ子**

ロータリー歴7年目にして、女性が入っていた方が良いからとのガバナーの意向で、身に余る役割を与えられ努力してきました。

会議やIM、バルセロナ国際大会などへの出席を通して多く人々と知り合えたこと、地区幹事会で激論があって創り上げていくプロセス、『月信』担当で表紙の題材で頑張り通したことなど、欠席の多い割には学びの多い、有意義で楽しい月日でした。

一国一城の主であるロータリアンが主張を調和させて結実させていくのは、人の英知の集団的成熟であると感じさせられました。

成果ばかりを追う社会風潮の中で、心や感性を鍛え和合させるロータリー精神とその活動に、信頼の大切さを再確認しております。

ラッキーだった『月信』編集への参加

地区幹事　**熊谷　満**

2001年9月から地区幹事として小林GEのお手伝いをさせて戴きましたが、私は主として『ガバナー月信』の校正を担当致しました。

『ガバナー月信』はトップダウンだけでなく会員からのボトムアップ式の内容をふんだんに盛り込んだ読み応えのあるものを作るというガバナーの方針に則りということで、大まかな掲載内容については小林ガバナー、竹原編集委員長、米山アドバイザーを中心に原稿の配置や構成について討議され、印刷の組版そして三校目の校正となり、それが翌日の午前中には印刷所に返還という事で結構大変な作業でありました。

最初の頃は目の疲れがひどく、眼科を受診した事もありました。しかし、全文を読ませて戴き、色々な事を勉強させて戴けたことは本当にラッキーでありました。原稿をお寄せ戴きました会員の皆様に感謝申し上げます。

この約2年間50数回の幹事会、各月半ばからの『月信』の打ち合わせ、その他で例会以外で家庭を空ける事が多く、家庭奉仕はどうであったかが多少気になるところでもある。しかし、貴重な経験をさせて戴き感謝致します。

議論の中からの結論

地区幹事　**竹原　巖**

小林ガバナーがガバナーとして指名されたときより関わりを持ち、一緒にやって来た一人としてこの6月で任期を終え、無事職務を果たせたことに充実感と深い感慨を覚えます。エレクト時代の準備期間には運営の細部について見当がつかないことがあり、文献等で学習しながら手探りで進めることが多くありました。しかし、ロータリーの改革と前進に情熱をかける小林ガバナーに引っ張られ、多くの事を学びながら2年余を地区運営のお手伝いができ、大勢の人達と出会えたことに心から感謝しております。

方針を立て実行するに当たっては、ガバナーはじめ地区幹事と議論を繰り返し結論を出して来ました。議論が白熱することもしばしばありましたが、目的はロータリーの前進であり、その事によるしこりは全くなく、むしろその議論を楽しむ雰囲気が幹事会にはありました。ロータリーのなかで望んでも出来ない貴重な経験を、この2年間させて頂いたことに感謝いたします。

皆様に感謝

地区幹事　**米山道男**

約2年前、最初の地区幹事会で、協力の条件として以下の3点を挙げたことを思い出します。①会合では、喧嘩（相手の話を聞かず一方的にしゃべること）でなく議論（良い結論に到達するための共同作業）をすること、②これを契機に札幌北クラブがより良くなること、③後で小林先生が、単に「ガバナーをしました」でなく「ガバナーとしてこれこれをしました」と言える年度とすること。①と③は満足しています。②については、その兆しを感じています。

この2年間で私が小林ガバナーから学んだことは、特に、(i)迅速な仕事振り、(ii)反対されても信念を曲げない強さ、(iii)若い者（？）に伸び伸びと仕事をさせたことです。

私も色々なことをさせてもらいました。特に、(1)地区目標の起草、(2)『ロータリーの友』の小林ガバナー紹介記

事の執筆、(3) 地区大会記念フォーラムの立案、(4) 地区組織図の改訂、(5) ワークショップの企画、(6) 各種地区委員会への参加、(7) 国別交流会の提唱、(8) ロータリアン宣言案の起草、(9) 米山記念奨学生選考に関する意見の『月信』への投稿、(10) 次期子ども奉仕委員会の準備、などです。

何よりも良かったことは、深く関わった方々それぞれの良さを知ったことです。在任中にお会いしたすべての皆様に感謝し、また佐藤秀雄次期ガバナーと次期地区幹事の皆様のご活躍をお祈り致します。

精一杯でしたが？!

地区幹事　**脇田　稔**

思いもよらず地区幹事を指名され、本当にできるのか不安一杯のところへ、個人的にも複数の職務が重なり、繁忙の混乱を極めました。このため、毎回の地区幹事会にもしばしば欠席を余儀なくされることが多く、菅原代表幹事はじめ、幹事会の方々にご迷惑のかけどおしの2年間でした。クラブ奉仕委員会担当幹事として、また『月信』編集委員としても十分お役に立てずご迷惑をおかけしました。地区協議会の準備と実施には予定を最優先して働いたつもりでしたが、小林ガバナーエレクト（当時）のユニークな発想によるいくつかの企画の出だしに十分職務を尽くせなかった点、クラブ協議会担当としてサポート役ができなかった点は悔いが残ります。事務局の阿部さん及川さん初め皆さんの暖かいご理解ご協力に心から感謝します。

苦労した予算編成

地区財務委員会　委員　**大西　勲**

私は地区財務委員として地区資金会計を、また地区大会でも会計を担当させていただきましたが、地区資金会計では杉下財務委員長、地区大会の会計では長太地区大会実行委員会幹事に負うところが多く感謝しています。

振り返って考えますと先ず予算編成が思い出されます。会員数は減少傾向にあり、また支出の削減は難かしく幹事一同大変苦労致しました。地区大会で承認いただいた時はホッとしました。

地区大会の予算についても、会費をいくらにするか、登録者の予測等いろいろの問題があり、杉下地区財務委員長より赤字は許されないとの話もあり大変心配しましたが、各部門の協力により支出面において大いに削減を図っていただいた結果、十分収支を償うことが出来たのは幸いでありました。

地区大会では来賓接待等の役目を担当しましたが、本大会でも会場には殆んどいることがなく、アグネスチャンの講演は一部楽屋裏で聞いただけでした。地区大会記録誌が出来上がり、全文を読みましたが素晴らしい講演で感激しました。この講演は大成功であったと思います。

大活躍の幹事の皆さんに比べ私自身時期的に多忙な事があったりして十分な活動ができなかった事をお詫び致します。

地区財務委員会報告 ～前年度を上回る繰越金を計上できそう

地区財務委員会　委員長　**杉下清次**

地区予算は当初、ガバナーの意向で委員会活動と事業活動に出来る限り予算を割り振り、他は節約に努めるべしという事で作成にとりかかりました。しかし、一般地区資金も特別地区資金もそれぞれ5百万円程度しか繰越されてこない旨の情報を得て慌てました。事実、前年度の予算では一般及び特別ともに5百万円前後の繰越金となっておりました。

一般地区資金は、地区を1年間運営していくうえで基本的な財源となるものです。その予算は委員会活動やガバナー事務所の運営等にガバナーの運営方針が示されます。一方、特別地区資金は地区の各種事業を行うための予算です。特別地区資金の予算はその年のガバナーの事業方針が示されております。予算作成に際しては3期間分の地区予算及び実績を比較検討できる表を作成し分析、ガバナー及び幹事会の方へ提出致しました。それによって十分な情報のもと検討判断していただけたと考えております。

地区の活動は年度の前半に資金を多く支出します。いま以上に繰越金を減少させると年度間のスムーズな事務引継ぎにも支障が生じると考え、単年度の収入と支出を同額とする、すなわち収支均衡させる事を最低条件としました。現在のように毎年会員の減少によって収入が減少する場合、年度内の収入と支出を一致させる事を予算作成の段階で実行しないと実現不可能であります。またその予算を厳格に執行していく気構えがないと達成されません。従ってガバナーにはかなり我慢してもらい予算を作成し、地区協議会で承認されました。

年度が始まってから企画される事業に割り当てる事を予定した特別地区資金のその他の地区事業費は、本来もっとたくさん計上したかった訳ですが、毎年度固定された金額の支出も多くほとんど予算を割く事が出来なかったのが残念です。予算に計上されていないものは予備費の範囲でしか支出する事が出来ません。

こんなに厳格に予算を作成し執行したのは、毎年度の収入減により当地区が財政危機に陥りつつあると考えたからです。そういう行動をしていると良い事があるもので、前年度からは、一般地区資金で1,200万円、特別地区資金は900万円が決算をして繰越されてきました。しかし、一旦計上した予算を変更する事なく予算執行に努めました。正式な決算は7月末頃に固まりますが、一般地区資金は各支出予算を大幅に減額したにもかかわらず、ガバナー事務所の経費節減や地区年次大会の余剰金等によって前年度を上回る繰越金を計上できそうです。また、特別地区資金はGSE事業の支出年度と重なった事もあり、次年度繰越は若干前年度を下回る事が想定されます。

年度の始まる前から地区の財政状態の厳しさを訴え、小林ガバナーをはじめ多くの人にプレッシャーをかけてしまいました。予算がつかなくて断念した事業もいくつかありました。しかしながら、皆さんの協力でほぼ予算どおり財務を執行する事が出来ました。収入は減りましたが次年度繰越残高は増加に転じた事をもって財務委員会としては次年度に引き継いでいきたいと考えております。

喜びをともに ❖新入会員紹介

矢野文教（留萌）　佐藤寛明（留萌）　富山有一（留萌）　愛場雅一（滝川）　柳　清二（滝川）　成本治郎（滝川）　福井義昭（滝川）　田守雅行（江別）

梅津真平（岩見沢）　佐藤公信（岩見沢）　佐藤　修（栗山）　大木俊英（栗山）　小島　茂（栗山）　石井道夫（栗沢）　金山和則（栗沢）　佐藤正治（札幌はまなす）

石川雅啓（札幌モーニング）　大泉　清（札幌モーニング）　秋山　孝（札幌北）　佐川晋一（札幌北）　西園英敏（札幌清田）　伊藤　豊（新札幌）　小松和雄（新札幌）　村上　寛（新札幌）

上田ゆう子（札幌大通公園）　水口昌仁（千歳セントラル）　上居久実（静内）　高杉保廣（浦河）　井村勝昭（浦河）　谷口克樹（浦河）　阿部敏彦（浦河）　星　巖（浦河）

奥田宗夫（浦河）　藤田泰蔵（浦河）　木田尚考（浦河）　吉田順治（室蘭東）　古川幾雄（函館）　鷲見好春（函館）　鈴木明洋（函館）　山田　彰（函館）

村上正人（森）　堀尾　功（森）　松本美信（森）　本郷圭三（森）　島野祐司（森）　井上正範（長万部）　奥山　勉（長万部）　大友伸之（長万部）

花輪博幸（函館五稜郭）　棟方　勝（函館五稜郭）　青山栄一（函館北）　崎野浩志（函館北）　中里観正（松前）

※10月号および2月号で未紹介の会員

山谷紀巳夫会員（札幌手稲RC）、青少年交換学生へ奉仕

今年のYOSAKOIソーランに6人の青少年交換学生が参加、札幌市内を乱舞した。山谷紀巳夫会員は同クラブの渡辺哲則会員とともに3日間に亘り乱舞のスナップを撮影し、8ページ、カラーの小冊子にまとめた。表紙に登場する学生は1人ひとり各自のものを用意したので、計6種類作製したことになる。素晴らしい出来映えとともに、山谷会員の超我の奉仕に感謝したい。

ガバナー日記 ――最後の日記となりました――

ブリスベンの国際大会はよかった！
――感動の連続で美談もあった

今年のロータリーの国際大会は6月1～4日にオーストラリア・クィーンズランド州のブリスベンで行われた。私には初めての大会参加だったが、その印象は一言でいって「出席して良かった」である。

国際大会の前に2日間ロータリー研究会があった。これに出席してロータリーの勉強をしようかとも思ったが、**札幌北RC**の数名のロータリアンが、友好関係を結ぶメルボルンの**ウェルビーRC**を訪問したいとのことで、そちらにご一緒させていただくことにした。計8名でまずはシドニー経由でメルボルンに飛んだ。

先方のロータリアンの出迎えを受け、郊外のウェルビー市役所に直行。市役所横には道行く人の目を引く立派な**日本庭園**がある。この庭園は**札幌北RC**の城木浩一会員が1995年に同RCを代表して作ったもので、日本の情緒をよく伝え周辺の環境にもよくマッチしている。この庭園でしばし懇談の後、夜は市内のレストランで地元のロータリアンのほか、かつて在札の交換留学生や家族も加えて楽しい友情交換を行った。

メルボルンに2泊後、ブリスベンに移って5月31日（日）夜は北海道ナイト第1部。会場はリバーサイドのピアナインという有名な海鮮料理レストラン。参加者はかつての交換留学生のほか関係者含め総数約30名で、既に結婚して幸せな家庭を作っている元留学生やその子供も出席して和やかないい会だった。

6月1日（月）大会初日、コンベンションセンターで行われた**開会式**は素晴らしかった。ビチャイ・ラタクル会長の敬謙な人柄とロータリーへの深い造詣の賜物であろう。ロータリーの旗を持ち馬にまたがった騎手6人が左右から入場したあと、世界120余国の旗を持った少年少女が万雷の拍手のもと次々と壇上に現れるあたりは特に感動的な見せ場だった。

夜は2500、2510地区合同の**北海道ナイト**第2部。会場はリッジスサウスバンクホテルの12階。ブリスベン河を挟む**対岸の夜景**がとても美しい。伊藤義郎元RI理事ご夫妻はじめ、両地区ガバナー、パストガバナーのほか、ウェルビーRCのイアン・ナイト夫妻（PG）、スリランカの現ガバナーのパスマナム夫妻、アメリカのスティーブ吉田夫妻、シルバー夫妻（ともにPG）など総勢120名の参加だった。歓談のあとフォークダンス。みんな輪を作り順次相手を代えながら楽しい運動で終了。北海道ナイト設営の準備にご苦労された遠藤正之オン・ツー・ブリスベン委員長（PG）はじめ、青木功喜、金井重博、奥貫一之の各委員長さんにはただ心からの感謝あるのみである。

翌2日（火）の大会の本会議も開会式に劣らず印象的だった。ビチャイ・ラタクル会長の挨拶はいつ聞いてもロータリアンの心を揺さぶる感動的な名演説である。そのあと舞台の上に夫人とご子息、ご令嬢のほかお孫さんも紹介されて大きな拍手がわいた。家庭の暖みはみんなに理解され易い。

2日の午後は「原点に戻ろう」Back to Basicsのパネルディスカッションにパネリストの一人として参加。私がどうして

メルボルン郊外ウェルビーの日本庭園。札幌北RCの城木浩一会員が中心になってつくった

リッジスサウスバンクホテルの12Fからみたブリスベンの夜景が美しかった

©Tourism Queensland

パネリストに選ばれたのかわからないのだが、折角の機会なので断ることなくお受けし、不得手な英語で家庭奉仕、子ども奉仕の大切なことを強調した。満場の会員にいささかの関心をもっていただけたかと思う。

思いがけない美談を耳にした。**恵庭RC**はかねてから青少年交換に大変熱心なクラブだが、オーストラリアからのかつての留学生ミーガン・ストールマンさんが昨年帰国後に交通事故死した。清水慧子青少年交換委員長（**長沼RC**）、**恵庭RC**の村上利雄前AG、早瀬源一会長、大川健一会員、日下健三会員、久野等会員夫妻のロータリアンが貴重な6時間を割いて彼女の墓参りにわざわざ行ってくださったという。ロータリーのすばらしい思いやりの心と思う。故人のご両親は涙して心から感激されていたとのことである。

ダヤシリさんを迎えてスリランカ交流会

コロンボRCのダヤシリ・ワルナクラスーリヤさんは2510地区から2、3年続けて贈られてきた病院のベッドの受入れ窓口として修復、配送などの仕事一切を私財を投げ打ってご努力して下さった方である。この度、日本政府から勲4等瑞宝章をいただいた機会にご夫人（日本人、節子さん）ともども札幌にもお出で下さった。わずか1泊の短い旅行だったが、6月5日（木）夜は札幌ガーデンパレスにおいて、スリランカに関係のある20名の地区内ロータリアンと交流をしていただいた。

ダヤシリさんの流暢な日本語によるスリランカの状況説明でガバナーエレクトはじめ、何人か翌年早々にもスリランカに行ってみたい希望者が出たようである。お土産にスリランカの紅茶をいただいた。地区からは感謝状とロータリーのマークの入ったガラス製の地球儀を贈ってお礼の気持ちに代えた。運良く大通公園でYOSAKOIソーランを見ていただく機会にも恵まれ、ダヤシリさんは大変ご満悦のようであった。

ダヤシリ・ワルナクラスーリヤご夫妻
節子さんと勲4等瑞宝章を胸にしたダヤシリさん

翌6日（金）午前、新たにスリランカ国内で必要な医療機器を入手したいとの希望で、全国展開の医療器械店ムトウの田尾延幸社長をご紹介申し上げた。前向きの感触を受けてダヤシリさんはホッとしたようである。

札幌モーニングRC・15才の好青年

札幌モーニングRCは1988（昭和63）年、**札幌北RC**をスポンサークラブとし、しかも道内初の早朝例会クラブとして「ささやかさ」をモットーに発足した。会員数の大きな減少もなく現会員64名、会員はテリトリーに関係なく市内全域から参加している。

早朝例会は欧米では珍しくないが、日本では昼の例会が大多数で早朝例会は全国2,329クラブ中8クラブに過ぎない。その中でモーニングの名前を持つクラブは川口、青森、旭川、京都を含め5クラブ。これら5クラブの人達が**札幌モーニングRC**の創立15周年（6月7日（土）夜）のお祝いに馳せ参じて下さった。

「カミネッコン」はあまり聞き慣れない言葉だが「紙根っ子ん」、つまり段ボールの小箱の中に新聞紙とともに樹の小さな根っ子を入れたものである。これが土中で自立的に根を張って大きな木に育っていくという北大の東三郎名誉教授の提唱される緑化運動の一つである。**札幌モーニングRC**は早くからこのカミネッコン運動に共鳴し、市内小学校生徒の協力をもらいながらすでに『月信』にも掲載されたとおりの成果をあげてきた。創立15周年のお祝いでは東三郎さんがカミネッコンに関わる感銘深い記念講演をして下さった。

札幌モーニングRC15年のお祝いの席にて。
中央左は村山正ガバナー補佐、右は中島一郎札幌南RC会長

ひきつづく会員有志らによる祝賀演奏会（モーツァルト「ピアノ四重奏曲ト短調K485」）も素晴らしかった。開会にあたっての池上恵三会員（**札幌モーニングRC**）の国歌・君が代の独唱もよかったし、型どおりの来賓紹介を省略したのも好感が持てた。しかも式典・祝賀会の会場はオープンしたばかりのJRタワーホテル日航札幌36階である。眺望も初めて見る素晴らしいものだ。垢抜けしたというより上品でスマートな15周年であった。この15才の少年の将来が何とも楽しみである。

会員増強は会員数だけのことではない！！

クラブ会員数が増えることは誠に望ましい。6月8日（日）東京パシフィックホテルでの第1・2ゾーンの次年度会員増強委員長会議に出席したが、現職ガバナーとしての出席はなぜか私1人だけだった。

私が申し上げたことは「数だけを言い続けるとロータリーは金が欲しいからではないかと誤解されかねない。ロータリー活動の内容を充実しロータリーに魅力を持たせる努力のほうが「急がば回れ」で大事なことではないか。増強は数を増やすこともあるが、ロータリアン自身が自らの資質を

磨き質を強める意味での増強もある。質が向上すれば、これに量もついてくるのではないか」と。ところが、増強委員の皆さんはどうも数に固執することから抜け切れないようである。

会員数が気にならないといえば嘘になる。当地区の年度初の2002年7月1日の地区会員数は3,458名で、その後**札幌セントラルRC**の設立もあって会員数は増えたように見えたが、その後も微減の傾向が続いている。心配なのは「魔の6月」の言葉があるくらい、新年度に移る直前の6月の会員減少である。

退会の原因には表向きでは語れない本音の部分がある。高齢者が多いことによる自然減は止むを得ないとして、若い人、女性に魅力を与えない息づまった現状にこそ問題がある。奉仕活動なら巷のNPOのほうが自由闊達に楽しくやっているのに比べ、ロータリーのそれは精彩がない。とにかく市民を魅了するに値することを言うだけでなく実践することではないのかと改めて自覚した。

議論を深めることはいいことだ！

議論は喧嘩ではない。むしろ議論は楽しむくらいの気持ちの余裕が大切である。ひとつのテーマをめぐり賛否両論あって当然であり、臆せず率直な意見を交換する中から隠れたより深い真実が生まれる。

第4回諮問委員会は6月13日（金）夜、札幌グランドホテルで行われた。特に今回は最終の委員会ということで、私はこの数か月取り組んできた問題について簡単な紹介を行った。まずは、会員の減少傾向は僅かながらまだ続いていること。また、RI財団に対する寄付が目標額にまだ到達していないことを説明した。これは私自身がガバナーとして「ロータリーは金だ、増強だ」と声高らかに言わなかった皺寄せでもあり、いささか責任を感ずる次第である。

諮問委員会では素晴らしいご意見を沢山頂戴した。この地区独自の取り組みをしている家庭奉仕委員会や子ども奉仕委員会の活動状況を説明したのに対し、家庭奉仕が個人生活のプライバシーの問題に触れる危険がないかとのご意見を頂戴した。私は家庭が社会の最少単位であり社会奉仕、あるいは4大奉仕の原点であるべきもので、これをロータリー活動の中に含めることの必要性を述べた。ある委員は格言をもじって「ロータリーは家庭から始まる」Rotary begins at homeと言ってくれた。

また、子ども奉仕で課外授業として学校教育の現場に入ることの予想外の難しさとロータリーの出来る力の限界についてのご指摘もいただいた。もっともなご意見であり、課外授業を殊更に大言壮語すべきことではなく、出来る範囲内で社会のお役に立つ慈愛の種を播ければ良いのである。

また、ある委員からは最近のロータリー活動は都市中心型になった反面、郡部のロータリー活動を軽視していることはないか、とのご注意もいただいた。これは全くその通りのことで、今後の検討課題。いずれにしてもこのような自由闊達な意見交換の出来ることは何とも素晴らしいことで、この雰囲気は是非続けていただきたいものである。

ご苦労さん、ガバナー補佐のみなさん

札幌まつりの6月15日（日）午後、札幌アスペンホテルにて現ガバナー補佐から次年度ガバナー補佐への引継ぎ会議をやらせていただいた。その前に現ガバナー補佐だけの座談会も聞いたが、全体を通しての話題を2、3綴ってみたい。

ガバナーが個々のクラブを直接訪問しないことを淋しく思うクラブも少なくなかったようだ。これはRIの地区リーダーシッププラン（DLP）の実施にあたり、合同例会をガバナー公式訪問とする最初の年度であったための戸惑いでもあったと思う。私自身は年度後半に数か所のクラブ訪問をさせていただきコミュニケーションも深まって良かったと思う。

郡部ではGSE、財団・米山奨学生、青少年交換など国際交流の機会が比較的少ないために、予算配分は地域還元型でやっていきたいとの希望も出された。地区内ロータリアンが同じ負担を受けながら、その**恩恵が都市に集中**していることに対する批判でもある。このような問題に具体的にどう対処したら良いか、議論に立ち入る時間もなかったが今後の重要な検討課題と思う。

地区委員の構成は札幌及び近郊に集中する傾向がある。これを是正した方が良いのではあるが、地区予算の制約もあって旅費その他の支弁の余裕がないことから札幌周辺に集中してしまうやむを得ない理由もある。

会員増強は、名案がある訳ではない。私は皆さんへのお願いとして、会員増強の新たな方向は30代の若い人の獲得に集中していただくのは如何かと申し上げた。例えば青年会議所の会員の中から勧誘することである。またそれ以前の重要な問題はそのような若い人達に魅力あるロータリー

YOSAKOIソーラン祭りにリレント舞華軍団の一員として参加した6人の交換留学生。6月7日（土）JR札幌駅前にて

クラブを作っていくことである。それがなくては、勧誘しても、すぐ退会というのでは意味がない。したがって、まずは自らのクラブのマンネリ化を打破し、より魅力があって楽しいクラブを作ることが急務ではないか。

都市連合会（IM）を次年度やめるのはなぜかという質問もあったが、IMという名称、或いは形式・内容に囚われず、グループ内で1つの新しい企画を進めていくことについては佐藤ガバナー・エレクトは賛成されている。ロータリアンを対象にするにせよ、また市民を対象とするにせよ、各グループで自主的に考えていけば良いことであろう。例えば小人数で特定のテーマの議論を深めていくワークショップ（WS）をIMの代わりにやることも一案なのである。

『**月信**』については皆さんから一様に高い評価をいただいたようである。とかく地区とクラブとの間に疎外感があるといわれるが、全てのロータリアンがもっと緊密なコミュニケーションを持つために1番簡単な方法はこの『月信』の積極的な利用である。ボトムアップの恰好の場でもある。次年度佐藤ガバナーは情報のIT化に向かって熱心に進めておられるので安心している。ただ、『月信』に代わる内容がインターネットを介してだけで、印刷物としての配布は希望者だけにしたことを残念に思うという意見も強かった。

『**会員名簿**』についてはガバナー補佐の顔を立てただけで、原則的に反対というクラブもあった。ただ、プライバシーの侵害、或いは値段（1,000円）が高いという批判は当っていなかったようだ。『名簿』の評価は未だに定まらないが、何年かに1回はこのような『名簿』があって良いのではないかというのが大方の見解であろう。1部の役職者からは、他クラブの会員と知り合う機会も増え友好関係の促進に極めて役立っているとの評価もいただいた。

会が終わったあとの懇親会も極めて和気あいあい、楽しく愉快で「今日の1日は良かった、有意義だった」の声は必ずしもお世辞ではなかったように思う。

ロータリークラブあっての地区委員会だ！

地区委員会は地区行事の一つとして自由闊達な運営をしている。だから地区委員に任命されること自体が、クラブの役職よりも名誉なことと受け止めてしまう人もいる。事実、委員会活動は時に各ロータリークラブの活動よりも目立った存在になっている。ただ注意していただきたいことは、委員の任命が地区委員長からクラブの会長・幹事の了解をとることなく個別に直接依頼してガバナーから委嘱されているという現状についてである。

ちょうど1年前、**札幌東RC**の菊地章幹事からクラブ運営に支障があってはいけないので、必ずクラブの了解を貰ってから委員の任命の準備を進めて欲しいとの依頼があった。誠にその通りであると思い、本年3月2日のチーム研修セミナーに引続く3月15・16日の会長エレクト研修セミナー（PETS）とで2度、地区委員の任命については各クラブの了解を予めいただくようにと皆さんに注意をお願いした。ところが、実際は実行されていなかったようである。

『手続要覧』によれば、地区委員の任命は必ずしもクラブの了解を必要とするとは書かれていないが、心情的な配慮として当然あって欲しいことである。2003～2004年度は委員の任命も決まっていることなので、2004～2005年度こそは今から十分に配慮いただきたいものと思う。当然、クラブあっての地区であり地区委員会なのである。

クラブからのお誘いありがとう

6月14日（土）朝9時半、**小樽南RC**の相馬哲也会長が拙宅までお迎えに来て下さり、同クラブ主催のクルーズ体験の後、クラブ例会、その後のジンギスカンパーティーに参加させていただいた。クルーズには小樽南RC会員有志と小樽商大在学中の留学生20数名が3隻のボートに分乗し、祝津沖までをクルーズしたが、途中大きな揺れもあって船酔いで横になってしまう留学生もいた。例会では海洋少年団、小樽商大に対するクラブからの寄付贈呈などがあり、ジンギスカンパーティーではロータリアンが留学生、海洋少年団団員と一緒に、同団員のご父兄の手作り料理のおもてなしを受け楽しく歓談させていただいた。

相馬哲也（小樽南RC）会長から表彰を受ける
小樽海洋少年団見延庄三郎団長（小樽南RC）ら関係のロータリアンと少年団員

同日夜は、**第2グループ**の藤原税ガバナー補佐をはじめ**赤平・芦別・砂川・滝川**の4クラブの会長・幹事の懇親会を札幌で行うので出席するようにとのこと。市内某料亭で若い女性コンパニオンのサービスもあって極めて和やかな会合であった。ちなみにこの4クラブは大変仲の良いクラブで、同夜も午前様で帰られた方もいたと聞く。

大いに飲み食べ笑った、楽しかった。左から北正信、荒川忠義（芦別RC会長・幹事）、神部洋史（滝川RC会長）の各氏（第2グループ会長幹事懇談会にて）

6月16日（月）は、ホームクラブの例会出席後、「日本ロータリー**親睦ゴルフ**大会第13回北海道大会」に出席し、挨拶と景品の授与を行った。北海道ゴルフ大会は東京大会に次ぐ長い歴史と実績を持つ。出席者およそ100名、遠くは沖縄からでご夫人の同伴も多く最後の「手と手つないで」は全国ロータリアンの連帯感を確認するものであった。お世話役の金子賢一（**岩見沢RC**）大会実行委員長、坂田知樹（同）大会副実行委員長はじめ事務局担当の**札幌北RC**のみなさんのご苦労に心からお礼を申し上げたい。

6月24日（火）4時、第3グループ辻野修ガバナー補佐（**当別RC**）のお迎えを受け、泉亨俊彦当別町長としばし歓談の後、**当別RC**の夜間例会に出席した。ガバナーになって初めての例会出席はこの**当別RC**であったが、最終例会も当別にという温かいお誘いを快くお受けすることにした。今年は地区リーダーシッププラン（DLP）の完全実施ということで、ガバナーと個々のロータリークラブとの関係が希薄化することを懸念していたこともあったので、各クラブからのお誘いは大変有り難かったのである。

6月24日（火）当別RC夜間例会のあとの2次会。みんなよく笑った

大人は子どもに何が出来るか

第5回ワークショップ（WS）が年度最後のWSとして6月21日（土）、洞爺湖温泉の万世閣において「大人は子どもに何が出来るか」をテーマに行われた。**洞爺湖RC**の川南明則現会長、元会長の前谷休市、皆川一男会員はじめ、同RC会員のみなさんのお世話によるものである。遠藤秀雄ガバナー・ノミニー（GN）、高橋恒夫（**登別RC**）、片山幸夫（**長万部RC**）両会長ほか多くのロータリアン、近隣の小中学校の生徒、また行政・教育関係者など凡そ80名の参加で盛会であった。

とくに印象的だったのは、小中学生の生の声を聞けたことである。1人の少年は「おはようと言っても挨拶を返してくれない大人がいる」との声に大人は1本取られた形である。

和田壬三会員（地区家庭奉仕委員長）が冒頭に日本教育研究所のアンケート調査結果では「親を面倒見ようとの気持ち、相手を信頼する気持ち」について調査対象にした世界のいくつかの国の中でも日本がもっとも悲観的なものであったとの話は心に強く残った。

われわれは次世代の子どもに何をしなければならないのか深く考えさせられたのだが、具体的に大人達が何をどうやるか、となると結構難しい。私自身は最後のまとめで、他人に注意する勇気と、他人に謝る勇気を子ども達に教えて欲しいと小さなお願いをした。懇親会のあと、**長万部RC**の片山幸夫会長と角健幹事から2次会のお誘いを受けた。そのとき片山会長自身がかつて青函連絡船の長い桟橋を足の不自由なおばあちゃんを背負って懸命に走ったという慈愛の実践の話を耳にし、出席者一同感激したのだった。

子どもの本音に押されて

洞爺の第5回ワークショップで進藤勝哉会員（**室蘭RC**）は、次のような言葉を書いたメモをポケットの中にいつもしのばせているとご発言いただいた。ここに同会員のご了解のもと紹介させていただく。小中学生ではなく高校生の声だろうか？

先生　聞いてください、僕らのなやみを不満を不平を
先生　話してください、あなたの青春の夢を希望を
先生　笑ってください、教室の重さ暗さをふきとばして
先生　しかって下さい、僕らのあやまちやさぼりや反抗を
先生　教えてください、はてしない人生のつらさやきびしさを

胆振管内教育局　安西主査　61.10.30
「いじめと非行」の講演会から

「大人は子どもに何が出来るか」のワークショップの翌朝。ホテル万世閣より見た朝もやにかすむ洞爺湖

地区活動紹介

第5回ワークショップ報告

洞爺湖RC幹事　皆川一男

去る6月21日（土）午後2時～5時、洞爺湖畔のホテル万世閣において、地区最後の行事となる第5回ワークショップが、「大人は子ども達のために何ができるか」をテーマとして開催されました。これは、今年度の地区重点目標に沿い、家庭や地域に慈愛の種をまこうとする活動の一環です。地元の小中学生17名を含めて約70名という大勢の参加者が、お互いの話を熱心に聞き、熱心に話し合いました。

洞爺湖RC前谷休市会員の総合司会のもと、川南明則会長の挨拶に続いて、米山道男地区幹事から「3年前の噴火の後で開催されたロータリークラブ作文コンクールの御縁で、今回御当地での開催をお引き受けいただき嬉しい。今日は、子どもの皆さんから大人に、こういうことをしてほしい、こういうことをしてほしくないという意見をお聞きして、私達の反省材料にさせていただきたい。また、子ども達に対する家庭・学校・地域の役割をあらためて皆で考えたい。」と、本ワークショップ開催の趣旨説明があり続いて、筆者の司会で、討論に入りました。

まず、「子どもは大人に何を望むか」の小テーマで、小中学生の意見や訴えを聞きました。

○「2000年の有珠山噴火で大きな被害を受けた不安な避難生活の中で、みんなに元気を取り戻してもらうのにどうしたらいいか考えた。それには、自分が笑顔を見せ明るく振る舞うことと気付き、実践した。それで仲のよい友達が一杯出来た。大人の人にも、いつも明るく元気に誰にでも挨拶の声をかけてほしい。」

○「不安な避難生活で環境が変わり、ジンマシンが出る始末だったが、早く、友達と作ろうと思い、それには、自分を表に出すことと考えた。そして、たくさんの友達が出来た。自分を出したくても出せない人に、大人は手を差し延べてほしい。」

○「避難生活で得た他校の友達との別れの寂しさを身に沁みて感じることが出来たと同時に、大人の人に子どものための交流の機会をたくさん作ってほしい。」

○「将来、プロ野球の選手を目指す自分は、避難していてやっと手にしたミットで練習に励み、弱かったチームをまとめ、そのチームワークでとうとう優勝できた。それも、噴火のお陰だと思う。今後とも立派なキャッチャーになるために頑張る。」

○「将来の夢は、家業の農業を継ぐこと。野菜を植え、育て、収穫し、販売する嬉しさを味わうこと。それに牛を飼うこと。現在、この仕事を続けている父母を誇りに思う。」

○「どうしていじめが起こるのか？　遊びからエスカレートしたり、仲間外れをすることから起こります。“ひとりになれる力”と言うことをクラスの目標にしていじめをなくそうとしている。」（“ひとりになれる力”→自立心）

○「安全で住みよい社会を作るにはどうしたらよいか？　子どもの安全を考えたら通学路の近くにガソリンスタンドを造るのはどうかと思う。」

○「交通事故を減らす提言。湖畔の遊歩道で車・バイクを走らせない。住民や観光客が安心してのんびりと散策できるのが遊歩道。車・バイクを入れないで欲しい。」

○「大人に変わってほしいことは、誰にでも気軽に挨拶をして欲しいことです。」

○「ガム・タバコの吸い殻のポイ捨てを無くすことで、住みよい安全な地域作りができるのではないか。ポイ捨てを見かけたら注意すべきだ。」など沢山の要望が出されました。

次に、「家庭では子どもに何ができるか」の小テーマで、和田壬三地区家庭奉仕委員会委員長が、日本教育研究所のアンケート調査から、(1)年老いた両親を介護する（中国66％、米国46％、日本16％）、(2)両親を尊敬する（米国80％、韓国55％、日本10％）、(3)自分の両親の子どもであることに満足している（多くの国80％以上、50％以下は日本の25％のみ）の結果を示し、「親が子どもを信頼することが重要で、子どもの言うことを聞く、子どもの失敗を見守る、家庭以外の力も借りる、など、を奨める。」と話されました。

3番目の小テーマ「学校では子ども達のためにどのような取組みをしているか」では、工藤勉洞爺湖温泉小学校校長が、「学校の教育とは、主体的に自分の考えを持って生きる力を育てること、また小さくても目標・夢・希望を抱けるようそして問題を自分で解決できるよう具体的に助言してあげることであり、そのためには、子どもに出番や役割を与えることが大切。」と述べられました。具体的実践例として、月浦森林公園での野外学習、ボートでの中島行と島内巡り、高台のホテルへの登高、などを挙げられました。

最後の小テーマ「地域では子どものために何ができるか」については、吉田聡虻田町主任児童委員と三浦昭三当クラブ会員とからそれぞれ、ボランティア活動について提言していただきました。吉田氏は、民生委員として十数年地域の子ども達と触れ合ってきた体験を語り、今後も子どものために力を貸す努力を続けていきたいと話されました。三浦氏は、「当クラブは花和小学校を通じて「ねむのき学園」と18年にわたって交流を続けてきたが、親近感がますます深まり喜びも増した。これも継続して交流した結果であり、子ども達にも影響を与えることと思う。」と述べられました。

ここで、小中学生からの質問を受けて応答があり、小中学生は大人が並んでいる中を握手しながら退席しました。休憩の後、参加した大人全員による意見交換に入り、虻田町の教育・行政関係者、小林博ガバナー、遠藤秀雄ノミニー、地区幹事、長万部RC会員、洞爺湖RC会員などから、和やかな中にも熱心に、多くの建設的な意見が出されました。

最後に、若狭洋一虻田町教育委員会委員長と小林ガバナーの所感が発表され、竹原巌地区幹事の挨拶のあと、前

谷会員の閉会宣言となりました。引き続いて開かれた懇親会では、3時間に及ぶ会議から解放されて一層の親交を深め、和気藹々のうちに会を閉じました。

恐らく今年度最後の地区行事だったと思われますが、誠に有意義なひとときを過ごすことができました。

「子供の声に耳傾けて」

健全育成願い論議

小・中学生も話題提供

第5回ワークショップ
子供のために家庭でなにが出来るか

家庭奉仕委員会　委員長　和田壮一

蛇田町の方には、2年前、私が地区の社会奉仕委員長のとき、有珠山噴火災害義捐金事業として、蛇田町内の全小中学生を対象として、作文コンクールを実施し、長崎島原懸賞旅行を実行し、更に島原の普賢岳の被災地区の小学生との合同の“噴火の街に暮らして”という題名のシンポジウムを開いた際にお世話になりました。その際にも司会の皆川さんや、パネラーの三浦昭三さん、実行委員長の前谷さんや蛇田町の教育委員会の方、小中学校の校長先生はじめとする先生方には大変ご苦労をおかけしましたがこの場をお借りして、御礼申し上げます。

私は家庭奉仕委員長に小林ガバナーから指名を受けたのが、1年半前の1月2日、丁度アフリカ旅行に出かけようとした朝でした。

それから約1年半私は、家庭や親子をテーマとする本があれば購入して読み、映画が上映されていればすぐ見に行き、参考になる活動を道内でしておられる方がいれば、お招きしてお話を聞き、講演会にも積極的に参加し、1970年代にアメリカの児童精神医師であるトマス・ゴードンさんが開発した親業訓練にも参加しました。1回3時間、8週間に及ぶもので、一度も欠かさず参加しました。

家庭奉仕に関連するシンポジウムも1回、ワークショップも1回開催し、更に小学校で、みんな楽しく家庭のことというテーマでの課外授業も実行しました。勿論本業の弁護士業を通じて、更に私自身の家庭生活を通じて、私が学んだことを実行したりしてみたのです。

私はこの1年半の間に変わりました。はっきり意識できます。家庭というものが、全てのものに勝る尊い場所であり、家族というものが、人間関係の基本になっていることが理解できるようになったからです。

家族が人間関係の基本であることを知ることは、人を信じることが、人間関係の基本であることを知ることでもありますので私は、私のこれまでやってきたことを伝えて、私も皆さんを信じていることを伝えたかったのです。

日本の家庭は、親でさえ、子供を、子どもでさえ、親を信じることが出来ない危機的な状況が増え続けています。

1、ひとつだけデータを披露しますが、財団法人日本教育研究所が、世界の国々と日本の同年代の**中高生の意識調査**を、無作為に抽出した2,000人の子からのアンケートや聞き取り調査の結果に基づいて発表しています。

1996年のデータに、高校生だけに聞いていますが、“自分の力で生きることが出来なくなった年老いた両親に対して全力で介護しますか？”という問いに対し、中国の高校生は、66%がはい。アメリカの高校生は、46%がはい。日本は、16%がはい。

1998年に“貴方は貴方の両親を非常に尊敬しますか？”という質問をしました。中国の代わりに韓国の高校生にしています。

韓国55%がはい。アメリカ80%がはい。日本10%がはい。

貴方は、自分の両親の下に生まれて、非常に満足していますか？という問いを全世界の中高校生にしたところ、はいと答えた国で、80%以上はざらにあり、50%以下の国は無かったということです。日本は、25%です。

日本は、世界一の長寿国になりました。日本の子供は、そしてその子供を育てる親も、世界一暮らしやすい、経済的には、世界一豊かな環境の中にいるのです。それなのに何時の間にか、両親が子供から、尊敬されず、信頼されない国になってしまっているようです。

私は、そのような信頼関係が出来ている家庭を前提にいくつかご提案を申し上げます。

子供の言うことをしっかりと聞くということです。忙しい家事の間でも子供はお構いなしに自分の伝えたいことを言ってくるものですが、家事を中断してもじっくりと時間を掛けてでも子供の要求に耳を傾けるべきです。

忙しいからといって、子供の要求を聞いてあげなければ、逆に今度親が、今遊びたいと思っているし、また、遊んでいる子供に対して、お使いとか、手伝い、勉強といった、親の希望することを伝えても聞き入れてもらえないのは当然でしょう。ですから、どんなときでも真剣に子供の言うことに耳を傾けてあげることが必要です。

2、次に私たち目身もそうですが、完全な人間はいません。まして子供は、**失敗することが当たり前**です。失敗することによって、子供は、失敗しないようにするにはどうしたらよいのか、失敗した結果がどうなるのかを知ることが出来るのです。子供は、成長するために失敗することが必要なのです。失敗が多い子どもは、経験が多いということに外なりません。同じ失敗を繰り返す場合でもそうです。失敗するほどその経験は、その子にとっては、困難なものだけなのです。

子供は、家庭だけでは育ちません。

アフリカにこのような格言があるそうです。

「子供というものは、村中の人の知恵と力が無ければ育たない。」

子供が、他人の力を借りなければ育たないのは、事実です。ですから、子供の関係する学校とか勉強塾、スポーツ施設、友達、親戚などあらゆる人々に対して親が信頼を寄せること、そのことを子供に伝えることが必要です。

よく学校の担任の先生を非難する親がありますが、最悪のことです。子供は、その先生を信じ、その先生を尊敬しなければ、先生の言うことをよく聞こうとするはずはありません。間違っても、このような事はすべきではありません。まして、配偶者のことを悪く言ったりすることは口が裂けても言ってはならないことです。

今年度ワークショップ一覧

地区幹事　米山道男

今年度後半の目玉事業として、ワークショップが5回開催されました。テーマは、ロータリー情報、国際交流、家庭奉仕、エネルギー、教育と多彩で

したが、宣伝不足や不慣れなため、参加者が少ない、議論が深まらないなどの問題も残しました。しかし、関心があるテーマについて、対等の立場で自由に話し合うというこの試みは、今後も続けることによってロータリー活性化の一助になるのではないかとの期待を抱かせるものであったと思います。御協力いただいた関係各位に深謝致します。

第1回 「ロータリー情報の今日と明日」

3月12日（水）13：00～16：00、北海道厚生年金会館、主催：地区広報委員会・IC委員会・ロータリーの友委員会・ガバナー月信編集委員会、約40名参加（ガバナー月信4月号7頁参照）。

第2回 「国別部会―ロータリー友情交換交流活動の活性化を目指して―」

4月12日（土）18：30～21：00、札幌パークホテル、主催：友情交換委員会・地区幹事会・国際奉仕委員会、47名参加（ガバナー月信5月号13頁参照）。

第3回 「家庭奉仕について考える」

5月9日（金）18：00～21：00、函館国際ホテル、主催：家庭奉仕委員会、35名参加（ガバナー月信6月号5頁・11頁参照）。

第4回
「明日のエネルギー問題を考える」

5月22日（日）15：30～18：00、北海道大学学術交流会館、主催：地区幹事会・GSE委員会・北大明日のエネルギーを考える会、36名参加（ガバナー月信6月号8頁・16頁参照）。

第5回 「大人は子ども達のために何ができるか」

6月21日（土）14：00～17：00、洞爺湖温泉ホテル万世閣、主催：洞爺湖RC・地区幹事会、70名参加（内、小中学生17名）（ガバナー月信7月号28頁参照）。

交換留学生を囲み歓談

友情交換委員会　委員長　金井重博

5月31日（土）地元の有名な川に隣接するシーフードレストランで第一部として留学生の集いを新世代委員会の奥貫委員長の御世話で30人の参加者が7人の元2510地区への交換留学生を囲み歓談をしました。

6月1日（日）ブリスベン国際大会の開会日の夜、隣接のリッジズ・サウスバンク・ホテル・ブリスベンにて6時30分から8時迄、北海道ナイト第二部として企画され120人のご参加をいただき第三回目を迎えた「北海道ナイト」は、国際交流、地区と地区との交流を深める楽しいひとときとなりました。

道内の2500地区及び2510地区の皆さんとの交流、そしてオーストラリアからは9800地区、9600地区、9640地区の方々、アメリカはアラスカの5010地区やアリゾナ、そしてスリランカの方々等、外国のロータリアン18人のご参加で短い間ながら和やかに国際交流が出来ました。当地区からも多くの方々、特に恵庭RC、苫小牧北RC、札幌東RC、札幌北RC、千歳RC、札幌西RC、札幌RC、岩見沢RC等から大勢の参加をいただき、会を盛り上げて下さいました。今回の運営の難しさは、大会が三部に分かれていて、特に二部と三部への参加が集中してしまい、両方に配慮して時間を調整することでした。従って、その短い幕間でのパーティーということで皆様にもご迷惑をおかけしました。立食にしたことでお疲れの方もおられたことでしょう。

遠藤オン・ツー・ブリスベン委員長（PG）の開会の挨拶に続き、伊藤義郎元RI理事（PG）もご夫妻で駆けつけてくれて日本語と英語でご挨拶をいただいた後、主催者として2510地区小林ガバナー、2500地区小船井ガバナー挨拶、スリランカ3220地区ガバナーPathmanathan氏の紹介、石垣PGの紹介でオーストラリアのIan Knightご夫妻の挨拶、9710地区キャンベラRC会長、9600地区ハミルトンRC会長および幹事の挨拶、さらに伊藤長英PG、2500地区の佐藤PG、清水（PG）、青木国際奉仕委員長、5010地区Steve Yoshida（PG）ご夫妻とアリゾナの（PG）Philip Silbers氏からそれぞれ挨拶をいただき、私も、アシスタントとして恵庭RCで青少年交換留学生だったエリザベスさんと札幌南RCの元留学生ニコルさんに手伝っていただいて、なんとか司会並びに挨拶をさせていただきました。

アトラクションとして演奏を依頼した地元のローカルバンドがメロディを奏でだしてまもなく、女性のボーカルリーダーが参加者にフォークダンスを踊るように声をかけてくださいました。石黒さん（札幌西RC）が会を盛り上げる為に率先して踊ってくれた為に

写真はメインゲストの留学生と小林ガバナー、伊藤長英（PG）遠藤（PG）。（尚この写真には、佐藤ガバナーエレクトは次の予定が有り中座されましたのでお入りになっていません）

すぐ踊りの輪が出来て、楽しいひとときを過ごしました。反省していますのは、日本の両地区のガバナー、パストガバナーのご挨拶に奥様も登壇していただくことを忘れてしまいました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。三部に出る方、その後ゴールドコースト方面に宿泊をされる方の長距離移動の時間と疲れを考え、8時に佐藤ガバナーエレクトに中締めをしていただきましたが、その後もしばらく歓談が続き、皆さんに盛り上げていただいた楽しいナイトとなりました。

「北海道ナイト」に参加していただいた方々に改めて感謝を申し上げます。

小中学生と話そう

次期子ども奉仕委員会　次期委員長　米山道男

当委員会の当面の使命は、(i) 会員が小中学校で授業をする、(ii) 会員の職場で小中学生が見学や実習をする、この二つの活動のお膳立てをすることです。既に昨年10月以来、多くの会員のご協力を得て、着実に準備を進めてきました（『ガバナー月信』3月号19頁、5月号12頁、6月号13頁参照）。

6月14日（土）には午後4時から札幌市内で、地区の世界社会奉仕委員会、社会奉仕委員会、家庭奉仕委員会と合同で会議を開きました。当委員会からは、松下文芳（江別西）、三澤龍子（札幌清田）、工藤左千夫（小樽南）、酒井宏（千歳）、石田勉（函館）、和歌宏侑（白老）の各委員と筆者が出席しました。

どなたも殆どの人と初対面でしたが、そこはロータリーの良さ、すっかり打ち解け親しくなり、今後の予定を確認し、協力を約束し合いました。それぞれ教育に関心が高い人達です。今後の委員会活動に、知恵と経験を生かして大いに力を発揮していただける予感がしました。

7月26日の函館を皮切りに、8月には2日滝川、9日苫小牧、23日小樽、30日札幌と各地に出向き、社会奉仕委員会、家庭奉仕委員会と合同で、各地の会員各位との意見交換会を開催させていただく予定です。

その後で、会員各位のご協力のもと、(i) 小中学校で授業をして下さる会員と (ii) 職場に小中学生を見学や実習に招いて下さる会員の登録名簿を作成します。名簿完成後、各クラブ代表と当委員会委員（12の各グループにいます）とで、名簿を携えて市や町の教育委員会を訪ねて理解と協力をお願いしていただきたく思います。一つまたは複数のクラブで一つの教育委員会と対応していただきたく考えています。その後で各小中学校と個別に連絡を始め、実際の小中学生との関わりは来年4月からということになると思います。

会員各位の、次期当委員会へのご理解とご協力を心からお願い致します。

花が人に与えるもの

次期子ども奉仕委員会　講義協力者　高橋麗秋

子どもは実に多くの可能性を秘めており、私も、「子ども達のためにできることをしたい」と考えると同時に、ロータリアンとして、自分や社会を見つめ直す好機としたいと講師登録をしました。

今般、早速、北九条小学校から特別授業の依頼があり、参上しました。

6月5日、小学3年生に「いけばなと花の心」というタイトルではありますが、共に花について考え、この世に存在する花の役割や大切さを始めとして、ヒーリング効果等についても触れるように致しました。また、「いけばな」が生まれた所以や歴史を探ることで、今日、日本の文化として外国より高い評価を受けていることを知ってもらいたいと思い、デモンストレーションや仕事上の写真（テレビ画面を通し）を交えながらお話させていただきました。

後半は、実際に花をいけることにし、私が初めに基本花型と自由花をいけて見せ、次に希望者（生徒全員）から時間の都合で、一人の生徒さんにいけばなに挑戦してもらいました。最後には、生徒さん全員で合作作品を制作し、皆で作る楽しさ、共同制作の中で感じる何かを余韻として約1時間20分の授業を終了しました。以上が大まかな内容です。

当日は、36名のお友達とコミュニケーションを図ることへの期待に胸を弾ませて行きましたが、まず、生徒さん一人一人の目の輝きに驚かされました。そして、私の話に本当に純粋に耳を傾けてくれ、質問すると全員が元気良く挙手をするという具合に、答えてくれる生徒を選ぶことの出来ない状態で進みました。特に、最後にオブジェに向日葵の花を挿して合作を創る時に、私が、「今日は、室内で授業をしているので、空の色をオブジェにして持って来ました。皆さんの好きな太陽のような向日葵の花を空に向かって元気良く挿して下さい」とアドバイスしただけで、自由に生徒全員で大小の向日葵を活けてもらいましたが、完成作品は、プロから見てもお世辞抜きで良く出来上がり、皆の感性の豊かさに嬉しくなりました。また、後日、3年生全員から感想文を頂戴しました。私の言葉の端々をも敏感に受止めてくれていた内容にビックリしましたが、多くの生徒が花の絵も描いてくれとても感激しました。「また、是非来て下さい」という文面を読みながら、機会があれば、もっと多くのことを楽しく子ども達に教えながら、私もエネルギーを分けてもらいたいと思いました。

今回お世話になった校長先生を始め、関係者の皆様にお礼を申し上げたいと存じます。

ロータリー国際親善奨学生の初の壮行会開かれる

国際親善奨学金委員会　委員長　土橋信男

本年度選考した奨学生11人は以下に示すように9カ国への留学を目指している。これは過去最多の国であり、特にアジアへの2カ国は初めてである。

その奨学生のための壮行会を去る6月28日に行った。小林ガバナーをはじめ出席したロータリアンの励ましの言葉に応じて、各奨学生は力強くその決意や抱負を語った。

これは本地区で行った初の壮行会であった。壮行会では、これも国際ロータリー財団から送られてきた初の奨学生バッジが各奨学生にガバナーから手渡され、奨学生一同喜びと感激に満ちていた。

奨学生の出発はそれぞれ国やプログラムによって違いがあるが、最初の出発は9月である。奨学生の留学が実り多いものであるように！

- ●内山裕子（江別）オーストラリア3カ月
- ●求馬久美子（恵庭）ドイツ3カ月
- ●加茂実武（札幌はまなす）イングランド3カ月
- ●星井絵里子（札幌東）ニュージーランド3カ月
- ●今井愛美（札幌清田）フランス3カ月

●上森奈穂美（札幌幌南）タイ6カ月
●中村理子（札幌）トルコ6カ月
●小橋麻美（深川）イタリア1年
●西原明希（札幌幌南）イングランド1年
●兼子歩（札幌はまなす）
アメリカ合衆国1年
●平岡美穂（札幌幌南）イングランド1年

国別交流会について

国際奉仕委員会委員長　青木功喜
友情交換委員会委員長　金井重博
地区幹事　米山道男

同じ外国に関心のあるロータリアンが集まって、その国について勉強したりその国の人々と交流したりする活動は国際理解の増進を図る上で有効ではないかと考え、今期後半に、友情交換委員会が中心となって会員に呼びかけて何度か懇談会などを開きました（注1および注2参照）。

この活動の次期の方針について、去る5月22日に、小林G、石垣PG、佐藤GE、今期の菅原・竹原両地区幹事、次期の木村地区幹事、青木、金井、米山が協議した結果、次期も継続して活動することに合意しました。

集会名を「（国名）交流会」とし、国際奉仕委員会が主催し、開催経費はその都度参加者負担とすることにしました。主催は国際奉仕委員会ですが、実行には世話人グループが協力することになります。

この活動に関心のある方は、地区の国際奉仕委員会にご連絡下さい。今期における会員各位のご協力に感謝申し上げるとともに、次期における活発な活動を期待しています。

（注1）今期開催した関連集会：
1.「国別部会に関する懇談会」(3月7日)、2.「国別部会に関するワークショップ」(4月12日)、3.「ロシア部会に関する懇談会」(5月6日)、4.「ロシア部会勉強会」(5月20日)、5.「スリランカ交流会」(6月5日)。
（注2）ガバナー月信の関連記事：
1. 米山「“国別部会”へのご協力を」(2月号15頁)、2. 金井「国別部会設置懇談会開かれる」(4月号19頁)、3. 金井「第2回ワークショップの報告」(5月号13頁)。

第13回JGFR北海道大会成績表

	A部門（HC　0〜12）					B部門（HC　13〜36）					C部門（女性全員）				
	氏名	所属RC	グロス	H C	NET	氏名	所属RC	グロス	H C	NET	氏名	所属RC	グロス	H C	NET
優　勝	小島久雄	長泉	84.	13.2	70.8	島袋良夫	沖縄コザ	85	12.0	73.0	行松愛子	堺	98	22.8	75.2
準優勝	千明三右衛門	渋川	103	31.2	71.8	梅田鉄夫	新札幌	91	15.6	75.4	渡瀬三知子	東京西	105	28.8	76.2
3位	新井　清	吹田	76	3.6	72.4	仲屋成裕	岩見沢	96	20.4	75.6	小島道子	長泉	109	32.4	76.6
4位	宇治　忠	門真	80	7.2	72.8	藤波仁央	岩見沢	100	24.0	76.0	枝吉眞喜子	佐賀西	100	22.8	77.2
5位	森山英次	岩見沢	86	13.2	72.8	羽田克己	東京芝	98	21.6	76.4	田中公子	総社	108	30.0	78.0
6位	金子賢一	岩見沢東	79	6.0	73.0	入江瑞彦	高砂青松	90	13.2	76.8	入江愛子	高砂青松	109	30.0	79.0
7位	金田省三	岩見沢東	81	7.2	73.8	坂本　巍	和歌山南	96	19.2	76.8	藤原園子	東大阪中央	110	28.8	81.2
8位	小代一幸	津久見	87	13.2	73.8	谷川泰清	高松グリーン	93	15.6	77.4					
9位	田近良三	伊丹昆陽池	78	3.6	74.4	田中裕士	総社	99	21.6	77.4					
10位	戸塚富雄	渋川	78	3.6	74.4	小西龍機	小野	96	18.0	78.0					

グランドシニア

		年齢	ネット
1位	門馬真澄（郡山東）	73才	75.0
2位	花栄壮佳（高砂青松）	70才	75.4
3位	池田栄吉（池田くれは）	78才	75.8
4位	葛尾信弘（松江）	70才	75.8
5位	伊藤隆男（知立）	73才	77.0

ベストペア賞

				ネット
1位	小島久雄．小島道子（長泉）	70.8	76.6	147.4
2位	行松公仕．行松愛子（堺）	76.4	75.2	151.6
3位	枝吉順佑．枝吉眞喜子（佐賀西）	74.6	77.2	151.8

グロス賞

A部門

1位	新井　清（吹田）	76
2位	田近良三（伊丹昆陽池）	78
3位	戸塚富雄（渋川）	78

女性部門

1位	行松愛子（堺）	98

B部門

	島袋良夫（沖縄コザ）	85
	入江瑞彦（高砂青松）	90
	梅田鉄夫（新札幌）	91

6月16日（月）札幌ゴルフ倶楽部（輪厚コース）にてJGFR北海道大会が開催されました。大会当日は天候に恵まれ、全国19地区より88人の方々が参加され、北海道でのゴルフを楽しまれました。皆様の成績を左記に報告致します。

クラブ活動紹介

クラブ発足35周年記念行事「こどもを育むシンポジウム」を開く

酒井　宏（千歳RC）

この度、千歳ロータリークラブ（会長　村松克重）では、創立35周年を記念して、こどもに視点を当てたシンポジウムを開催した。シンポジウムには各界で活躍中の6名のパネリストをはじめ地域の行政・学校関係者、ロータリアンOB、第7グループロータリアンなど150名の参加を得た。また、公私にわたりご多忙の中、小林地区ガバナー、米山地区次期子ども奉仕委員会委員長のご出席を賜り、シンポジウムに花を添えていただいた。

地区ガバナー誕生を契機に

当クラブは、1968年4月に札幌ロータリークラブのご指導の下に発足、爾来、ロータリー精神に則り奉仕活動をはじめ地域貢献を展開し、35年の節目の年を迎えた。この意義ある年に、我がクラブの佐藤秀雄会員がRI2510地区ガバナーに推挙されたこともあり、その意味を含め、次代を担うこどもの健全な育成と、将来あるべき姿を模索するために有識者を招聘し、ロータリアン等が一堂に会してシンポジウムを開催した。

「こども」に視点を当てた理由

「記念行事として何をするか」から始まり、こどもに視点を当てたシンポジウム開催決定までに紆余曲折があった。

少子・高齢化を迎えた今、次代を担うこどもに想いを致す大人は少なくない。今から1世紀前のスウェーデンの婦

人解放運動指導者が「二十一世紀はこどもの世紀である」と表明したが、戦争という問題で世界のこどもは受難と苦痛を体験し、茨の道を歩んだ。二十一世紀を迎えた今でも戦火に怯え、飢えに苦しみ、学べずにいるこどもが多い。反面、日本のこども達は物質的に恵まれているが、精神的に脆弱化し、自己の欲望を満たすために予想もしない反社会的な行動に走りがちである。それらこどもが成長する過程で大人の関わりが大きいことは長い歴史が証明しているなどを考えると、大きな可能性を秘めたこどもに期待を込めるためにロータリアンとして、そして大人として何ができるかについて議論をすることが出発点であった。

恵まれたパネリスト

開催に至るまでに20回ほどの委員会を開催した。委員会メンバーがそれぞれに想いがあり、口角泡を飛ばしての議論の中から基本方針から運営の細かい部分まで決定した。委員会メンバーの個性が、まさにロータリアンの職業分類の意味が生かされたと思っている。

シンポジウムの主役は参加者であり、もう一方の主役がコーディネーターとパネリストである。それぞれの分野で活躍している方々に開催の趣旨をお伝えし、参加をお願いしましたところ、快く引き受けいただいたことが、今回のシンポジウム成功の第一歩であったと思っている。

活発な発言で会場熱気

各パネリストには、それぞれの立場と豊富な経験から自由な発言をお願いした。コーディネーターの北海道千歳リハビリテーション学院　山本克郎学院長からは、「大人の行動と役割」と題して基調講演があり、「社会もこどもも病んでいる。それを回復・治療させるため、大人の責任が問われる」と「大人の行動の重要性と責任」を呼びかけた。次に、千歳市教育委員会　小林義知教育長は、「教育現場におけるこどもの行動」というテーマで「こどもは親が育ったように育つ」と直言、教育現場からの得た光と影を大人の責任と役割を考えたいと、また、北海道新聞社千歳支局　川島亨支局長は、「こどもの特異行動と報道」のテーマで「多くのこどもは、まっすぐに成長したいと思っている。子供の危機が言われる今、普通に頑張っているこども達にスポットを当てた報道が望ましい」と日々の体験から大人への警鐘が話された。北海道警察本部少年課サポートセンター　梶　裕二少年心理専門官は「こどもの心理と犯罪」というテーマで、「こどもの非行は一過性のもの。こどもを犯罪者にしないために、大人がルールの教え方に工夫することが大切」と少年犯罪と対峙した経験からの指摘であった。最後は、自ら青少年問題研究所を設立して活動しているほか千歳市保護司会総務部長の公職にある佐々木繁信氏は、「こどもと家庭」と題し、「今のこどもは危ない」「社会の混乱の中で家庭機能が崩壊『今、家庭（親）にも求めるものは」と力説し、「きみは夢を持っているか　夢を現実の目標に変えて　目標を実現するために頑張っているか」と結んだ。

「千歳運動」として評価

米山次期地区子ども奉仕委員会委員長には、コメンテーターとしてご参加いただき、「子どもは多くの可能性を秘めた素晴らしい存在」「子どもと同じ目線で語り、子どもから学ぶことが大切」と子どもに接するときの親や大人の基本姿勢などについて力説され、あわせて次期子ども奉仕委員会の活動内容などの抱負を話された。

最後は、小林地区ガバナーの講評として「各パネリストのお話は大変素晴らしかった。とにかく、相手が大人でも、子どもであれ、家庭でも社会の中でも、相手の話しを良く聞くということが大事であるという気がした。」また「相手の人格・人権を心の底から認める。そうすると相手が子どもであれ、大人であれ、素晴らしいと感ずることがある」と想いを述べられた。今回のシンポジウムが「千歳運動」として多くのクラブで展開することを期待するとの講評があり、開催クラブとして感激の言葉であった。

今がスタート台

シンポジウム終了後、多くのロータリアンから「いい企画であった」「素晴らしい内容であった。ご苦労さま」という労いの言葉をいただいた。しかし、素人集団が企画・運営したシンポジウムであり、一抹の不安があったが、お褒めの言葉をいただくと、大人の誰もが抱えている問題を同じテーブルに付いて、議論に参加できたことに満足をしていただいたものと思います。

総理府が提唱する「大人が変われば子供が変わる運動」を身近なものと感じ、「大人の行動と責任」についてお互いに感じ、行動するときであると思います。まさに今「千歳運動」はスタート台に立ったばかりである。

今回のシンポジウムの開催にあたり、小林地区ガバナーはじめ米山次期子ども奉仕委員会委員長、7グループロータリアン各位のご協力に心から感謝申し上げます。

第3グループとして初めてのパークゴルフ大会

久住八郎（栗山RC）

6月9日（月）新緑のまぶしい中、栗山ダムパークゴルフ場に、各クラブより41名が勢揃い、太陽もこの日感激するような、晴れ顔、午後2時スタートを前にして、辻野ガバナー補佐よりの親睦を深めたいとの挨拶、北川会長の挨拶、友成審判委員長より競技説明につ

づき、栗山ロータリークラブ副会長太田ヒロ子より力強い選手宣誓、初めてパークゴルフをやる人もベテランの人も楽しくやっていました。女性6名の参加もあり、だれでも気楽に、やれるスポーツを提案された辻野ガバナー補佐、年度の初めに、計画を立てて、実行される姿に、第3グループのまとまりを感じます。楽しいパークゴルフのあと、ホテルパラダイスヒルズの温泉にはいり、おいしいビールを飲みながら懇親会、表彰式、結果は、地の利を活かした栗山が団体優勝、栗沢ロータリーは11時から来て練習したが、善戦及ばず、わきあいあいの懇親会でした。

この楽しい、懇親会を計画立案された栗山ロータリーの親睦委員長関吉一郎の顔は責任を果たしたと言う表情でした。このパークゴルフ大会を通して、メンバーの人的交流が出来、信頼も出来れば、一つの財産ではないかと考えます。

にれの誕生

悲しい別れと奇跡の再会
―ブリスベン世界大会への旅―

村上利雄（恵庭RC）

第7グループだけでブリスベン大会参加ツアーを組もうということになったのは昨年の春でした。当時私はガバナー補佐をしていたことから、世話役とし動くことになりました。昨年の夏頃から日程やコースを具体化しました。

オーストラリアにいる元交換留学生にも逢おう、ということになりました。10人以上のローテックスに手紙を送りました。転居先不明で戻った手紙が数通、返送されなかったものの返答がない、というものもありました。

結局、会えることになったのは、恵庭に前年度留学したケイト・ランクロード、その前のミーガン・ストールマン、そして1月に帰国するエリザベス・マーランの3人になりました。

折角の機会だから、千歳や恵庭からオーストラリアに来て学校に通っている学生にも声をかけよう、ということになりました。

ミーガンは着物も似合った（隣りは筆者）

まず、恵庭からニュウーサウスウエルズ州のリズモアに派遣中の交換留学生、鈴木愛さんが来てくれることになりました。ブリスベンの大学に私費留学している古谷さんや、ゴールドコーストで英語の専門学校に通っている栗林さんも来てくれることになりました。

私には、**出来れば逢いたい人がもう**

一人いました。15年前、わが家で初めて預かった留学生のカイリー・バークです。恵庭RCでは、12年前に行われた創立20周年記念式典で、ゴールドコーストのバーレイヘッズRCと姉妹提携の調印式をおこないましたが、カイリーはその架け橋になるなど活躍してくれたものでした。数年前に結婚してから音信が途絶えていました。

あと8カ月で会えるというところまできた10月2日、**突然悲報**が飛び込んで来ました。ミーガン・ストールマンが、交通事故で死んでしまったというのです。4人でドライブ中、迷い込んだ蜂を払おうとしたドライバーがハンドルを切り違え、車が崖から転落し、全員が死亡したということでした。

嘘だろう、と思いました。数日前に、電話で打ち合わせをしたばかりだったのです。

ミーガンは私の家に住んだ最後の留学生でした。彼女のご両親も恵庭に来て、あちこちと案内したものでした。老人の私より先に死ぬなんて許せない、とも思いました。

ミーガンのお墓参りに行こう、ということになったのは、出発が間近になった頃でした。クイーンズランド州のツーンバという町に、彼女の墓があることが分かりました。ツーンバは人口7～8万人といいますから、千歳より小さく、恵庭より大きな町、といったところでしょうか。

清水慧子地区青少年交換委員長は、同じ第7グループの長沼RC会員ですが、委員長も世界大会に参加することになっていました。ミーガンが留学していた時も委員長をしていて、彼女のことを良く知っていました。清水委員長は9年前と11年前、長沼町が実施している小学生の国際交流で、数名を連れてツーンバへ行き、体験入学などをさせたのだそうです。そのツーンバにミーガンのお墓がある巡り合わせに、私達は驚きました。

ミーガンの両親などとの連絡は、9640地区青少年交換委員長のマイク・フレイザーさんを通じて、清水委員長がとってくれました。清水委員長とフレイザー委員長は、日本で交流がありました。これも不思議な縁でした。

ミーガンのお父さんとフレイザー委員長が、それぞれ自分の車でホテルまで迎えに来てくれることになりました。相談の結果、ミーガンのホストファミリーなど、関係の深い8名が行くことになりました。

5月29日夜、私達は関西空港を飛び立ちました。シドニー空港に到着したのは、翌朝の10時近くでした。時差の1時間を引いて計算すると、11時間を超えていました。長いフライトでした。

到着後、オペラハウスやハーバーブリッジ等を見学しました。翌朝は6時にホテルを出発、シドニー空港からブリスベン空港に向かいました。

ブリスベン空港では、ミーガンのご両親やお姉さん、それにパストガバナーでもある祖父、そしてフレイザー地区委員長などが出迎えてくれました。ご両親は3年前に恵庭に来たことがあり、ホストファミリーなど関係者の顔をよく覚えていました。

私には、**ご両親の横にミーガン**がいるように感じました。そこにはミーガンが立っていて、あの知的な明るい笑顔で、私達を迎えてくれる筈でした。私はいる筈のないミーガンを捜し求めました。無念の思いが私の心を貫きました。

私達と握手をするうち、お母さんの目から涙があふれ出してきました。私達には、涙の意味が痛いほどよく理解出来ました。

ミーガンは、家族全員で空港に迎えに行くと、約束してくれていたのです。そしてもう少しで大学を卒業というときに、若い命を落としたのです。ご両親も、本人も、どんなにか無念だったことでしょう。

ご両親達とは空港で別れました。ブリスベンでコアラ園などの観光の後、ゴールドコーストのANAホテルに着くと、ケイトや鈴木愛さん、栗林さんなどがロビーで待っていました。夕食後には、エリザベスとご両親が迎えに来ました。エリザベスの家に招待されていたのです。エリザベスのご両親も昨年恵庭に来てしばらく滞在していたので、多くの人と顔見知りになっていました。

エリザベスの家は、ホテルから車で25分ほどの住宅街にありました。外壁から室内の壁まで、白で統一された瀟洒な建物は高台にあって、応接間からは、ゴールドコーストの夜景が、ネオンのきらめきも鮮やかに見下ろされました。室内も見せてもらいましたが、二つある浴室のうち、一つはバスタブに入ったまま夜景が眺められるようになっていました。私達はそこで、2時間あまりの楽しいもてなしを受けました。

翌朝8時、リムジンバスと乗用車の2台が迎えに来ました。ミーガンの墓参りです。トランクには、白い花輪を忍ばせました。日本を発つ前から、ホテルに手配を頼んであったのでした。

通訳をかねて、ケイトが一緒に行ってくれることになりました。ケイトは日本に来るとき、その前年度に留学したミーガンに、いろいろアドバイスをしてもらったのでした。帰国後も交流があったとのことでした。

車はミーガンが卒業したセイント・ヒルダス高校の前を通りました。立派な門構えの、伝統ある学校のようでした。ミーガンはこの高校を首席で卒業したそうで、彼女を記念して**ミーガン賞**が設けられ、毎年日本語科のトップに授賞されることになったそうです。大学での成績も優秀で、上位10名に与えられる優等生の表彰を受けたとのことでした。

車は内陸に向かって高速道路を走り続けました。100キロから110キロの制限速度でした。全線無料とのことでした。日本とは大違いです。

道路から見える住宅はどこも庭の芝がきれいに刈られ、すっきりとした印象を与えます。あちこちの庭で、上半身裸で芝刈りに精を出す男性の姿が見受けられました。庭の芝刈りは義務づけられていて、怠ると市が代行する代わりに高い料金を取られるので、日曜はどこの家庭も芝刈りに汗を流すとのことでした。

ミーガンの墓前で留学課程修了証書を読みあげる清水地区青少年交換委員長

ミーガンのお墓までは、3時間近くかかりました。一面に芝が張られ、ところどころに、50センチ角ほどで、やや横に細長い黒曜石のようなプレートが置かれています。道端には小さな人造池があり、その周りに花々と共にプレートがありました。映画やテレビなどで見る、立てられた墓標は見当たりませんでした。

墓地ではミーガンの姉や祖父母、そしてお父さんの幼友達などが、私達を待っていました。

ミーガンのお墓は、広い芝生の中にありました。地面に置かれたようなプレートの向こうには、背丈ほどの樹木が直線に植えられ、濃い緑葉を地面から生い茂らせていました。横に並ぶ墓標の周りは、茶色のチップが敷き詰められています。

早瀬恵庭RC会長が、プレートの前に白い花輪を捧げました。私達は横1列に並んで手を合わせました。

オーストラリアでは、土葬と火葬のいずれかを選択できるそうです。ミーガンは土葬で、プレートの下で縦になって眠っているとのことでした。

私は説明を聞き、死後8カ月の遺体はどうなっているのだろうと、あらぬ想像をしてしまいました。腐敗してはいないだろうか、虫がついてはいないだろうか。そんな想像をするのはこの上なく辛いものでした。私にとって、土葬はとてつもなく残酷なものでした。

私は恵庭で一緒に暮らしたときのミーガンの姿を、懸命に思い浮かべようとしました。私をお父さんと呼んでくれたときのままの姿で眠っているのだと、懸命に自分に言い聞かせました。

ホストファミリーの1人が、プレートの前で膝を折り、うなだれました。ミーガンの温もりを求めるかのように、プレートに手のひらを当てました。

「こんなところに入ってしまって、可哀想に」

話しかけるように呟くのでした。手の甲に涙が落ちて鈍くはねるのを見たとき、私の中の悲しみが爆ぜました。

「こんなところで会う約束じゃなかったのに」

誰かの呟きが参列者の涙を一層煽り、肩を波立たせました。

清水委員長が、日本から持って来たミーガンの留学修了証書を取り出しました。今日まで渡せずにきたのでした。

清水委員長は、プレートを挟むようにして遺族と向かい合い、証書を読み上げました。涙を流し続けるお母さんを、お父さんの逞しい腕が背後から優しく支えました。

墓参の後、私達は雄大な原野を見下ろせる郊外レストランで、昼食を御馳走になりました。そこには、かつて清水委員長がツーンバで親しくなった子供や家族が待っていました。清水委員長は子供たちの成長に目を見張りました。

私達はツーンバからブリスベンの世界大会会場へと直行しました。コンベンションセンターに到着したとき、2回目の開会式は間近に迫っていました。クイーンズランド大学の古谷さんが来てくれました。1時間以上も私達を探したそうです。時間を縫って、日曜市場の出店などを案内してもらいました。

ミーガンの温もりを求めるホストファミリー

翌日は1日フリータイムでした。それぞれにゴルフや観光のグループに分かれ、楽しく過ごしました。私はゴールドコーストのビル街を見下ろす高原で食事をしたり、船の形をした水陸両用車で街や湾内を遊覧したりしながら時を過ごしました。

夜になって、ゴルフ組が戻って来ました。その中の一人が、思いがけない朗報をもって来てくれました。なんと、ゴルフ場で出会った支配人が、あのカイリー・バークの御主人だったというのです。シューズを返しに行ったとき支配人に会い、どこから来たのかと話しかけられ、そのことが分かったということでした。彼は私の名前を知っていて、カイリーに電話をして欲しいと言付けてきました。

駅長姿が似合ったカイリーも今は2児の母

これはまさしく奇跡というものです。彼から託されたという名刺を見ると、カイリーの名前と電話番号がメモされていました。

夜の8時半過ぎでしたが、私はカイリーに電話をかけました。カイリーの驚きの声が、電話機から飛び出してきました。私の家にいた頃と同じ声でした。

短い時間でしたが、私達は色々なことを語りあいました。彼女は2歳の男

の子と、5カ月の女の子のお母さんになっていました。

「明日日本に帰ります。朝6時にホテルを出発するので会わずに帰るけど、声を聞けただけでも幸せでした。帰ったら子供が生まれたお祝いの品を送ります。お母さんに見せてやりたいので、赤ちゃんの写真を送ってください」

カイリーは送る約束をしてくれました。

翌朝、5時半過ぎにバスが迎えにきました。オーストラリアは冬に入っていて、朝の6時はまだ暗闇の中にありました。

ホテルの玄関を出てバスに向かおうとしたとき、私は思わずその場に立ち尽くしました。バスの前に、カイリーがいたのです。2歳の男の子は白地に紺のチェックのパジャマとサンダル、という格好でした。眠っていたところを無理に起こされて来たらしく、少し機嫌が悪そうでした。女の赤ちゃんは、カイリーの肩口に顔を預けながら眠っていました。どちらも西洋人形のような可愛らしさでした。自分の孫のようないとおしさを感じました。仲間が私達を写真に撮ってくれました。

カイリー親子に見送られて、バスは空港へと走り出しました。私はシートにもたれながら、彼女に出会えた幸運に酔いしれました。二度と会えまいと諦めていたのです。ひょっとするとミーガンが引き合わせてくれたのかもしれない、などと思うのでした。

混声コーラスで銀山学園訪問

朝倉正人（札幌東RC）

5月18日（日）に札幌東RCの社会奉仕委員会（小田切委員長）とイーストハーモニーと合同で総勢32名にて混声コーラスでの交流を行いたいとの考えで、余市郡仁木町にあります知的障害者福祉施設「銀山学園」を訪問致しました。

当日は五月晴れで絶好のコンディション、気分も爽快で一台のバスに乗り込み景色を見ながら談笑し、練習しているうちにやがて到着しました。昨年も伺っておりますので学園の皆様も来るのを楽しみにしていたようで、出迎えて頂き歓迎を受け少し緊張してしまいました。

例会の後に何回か星野慶子先生のご指導を仰ぎながら練習を致しました。男性のメイン曲がトレロカモミロで聞きなれない曲でなかなか上手に歌えないところもあり、また口が回らない事がしばしばありちょっと心配でした。それに比べて女性陣は普段の通り完璧でございます。ハーモニカーズも少し不安でしたが……。

先生の指揮のもと歌い始め何とかメイン曲をクリア（少しミス）。他の歌は女性陣の助けをもらい格好がつきました。武田先生のリードでハーモニカーズも上手に演奏し無事終了。その後生徒さん達との合同合唱で童謡等を大きな声でリズム良く一緒に歌って頂きました。和やかな楽しい時間を過ごさせていただき、久々に童心に還った気持ちでございました。

施設の人達はなかなか人との対話、つながりがないと思います。お話をしたい、仲良くしたい気持ちが理解でき多くのことは出来ませんが、コーラスを通じて少しでも喜んで頂けた感じで学園をあとにしました。

昼食は水明閣で、鮎料理とワインで舌鼓を打ち和気藹々、中、ほろ酔い気分で帰途につきました。

このようなことで会員の親睦とコミュニケーションがとれ、今日一日何かすがすがしい気持ちと充実感のある一時を過ごさせて頂きありがとうございます。こう感じたのは私だけでしょうか……皆さんがそのように感じたと思います。休日の一日ご苦労様でした。

四クラブ合同発寒川清掃社会奉仕活動

大島利一（札幌西北RC）

札幌西区の発寒川えん堤の清掃奉仕活動（約1,300m）を5月17日（土）札幌西・札幌手稲・札幌西北・札幌あげぼの四クラブの社会奉仕委員会合同で参加者31名と連合町内会（9町内）の皆さんと一緒に行った。札幌西RCの高下泰三会長の『今日は日本晴れの最高の天気を持って来ました。清掃奉仕で良い汗を流しましょう』と言う挨拶のとおり雲一つない好天に恵まれて清掃活動を行いました。この発寒川えん堤は1991年～92年の2年間にわたり札幌西・札幌手稲・札幌西北の3クラブの社会奉仕委員会が合同で桜の苗木200本を植樹したところで、それから12年後の今では見事な桜並木となり近隣の皆さんから素晴らしい憩いの場になったと大変喜ばれており、1993年には連町から御影石の立派な感謝の石碑が建てられている場所で、今年は石碑建造10年目に当たり、桜の成長をみようと四クラブ合同で清掃奉仕を行ったものです。私たちが想像していたよりもゴミは少なかったが、それでもゴミ袋で

約45袋程もあり、大物ではホイール付古タイヤ4本が投棄されていたのには驚きました。

清掃で流した汗の上にもう一つ良い元気な汗を流そうと引き続き発寒川の隣りになる311mの三角山に16名の猛者連が健脚を競い登山、下山後札幌手稲RCの移動例会場宮の森ガーデンに合流、例会後は自動的に懇親会に早変わり総勢44名で汗を流したあとの水分補給としてビールとジンギスカンでお互いの健康に感謝して乾杯し、四クラブの交流を一段と深めた本当に気持ちの良い幸せな一日でありました。

インターアクト年次大会開催

矢橋潤一郎（札幌東RC）

インターアクト年次大会が6月21～22日、北海道青少年会館（札幌市南区真駒内）において、北海高校IAC（提唱　札幌東RC）のホストにより開催されました。参加登録は、生徒・顧問・ロータリアン合わせて130名。

初日の土曜日は開会式後、盲人卓球の模擬体験を行いました。専用の台を西区の福祉センターから搬入し、この競技で活躍されている方から直接指導を受けました。夜の交流会はバスケットボール大会。各校間の親睦を深めました。

翌日曜のプログラムでは、北海高校IACが長く交流を続けている韓国の児童擁護施設「共生園」から名誉園長をお招きし、講演をお願いしました。部員の父兄も見学に訪れ、実際に同園でお手伝いした部員達による体験発表に聞き入っていました。

ホスト校の北海高校IACは、現在50名の部員が在籍しています。そのため準備・運営において人手で困ることはなかったようです。部員一人一人が役割を意識しており、顧問先生の指示を待つまでもなく率先して動き、毎晩遅くまで部室に残っては準備・リハーサルに取り組んでいました。そうした充分な準備により2日間の日程はスムーズに進行し、例年より規模の大きな年次大会も成功のうちに終えることができました。

〉〉〉春楡奨学会の紹介

米山道男会員（札幌北RC）が昨年、退職金の一部を北大留学生に提供した時に用いた名称が「春楡奨学会」です。この奨学金では、奨学金提供者が国籍・学部・金額・期間・人数などの条件を自由に設定し、提供者自身が面接しますので、他の奨学金と違って、提供者の考えを明確に反映できるシステムだということです。米山さんは賛同して下さる方を求めています。写真は、応募したが不採用になった留学生達との米山会員宅の庭でのパーティー風景（7月6日）。　（幹事　竹原　巌）

〉〉〉中国の看護師との交流を10年間続けて

札幌北RCの大田すみ子会員と木村芳江会員は、1993年から中国への看護講演を行うと同時に国際活動の少なかった中国の看護職リーダーの招聘活動を開始し10年目を迎えています。

応援者をつのって、これまで14名を招き、日本の看護の実情と看護教育の視察、日本の社会についての見聞を広げる機会をつくってきました。受け入れのための経費は1人およそ50万円でした。

今年10年目を機して札幌市で開催する看護の学術集会を中心に大学、一般、老人施設等の視察を含めて3名を招待したいと計画中です。

この活動に賛同して下さる方を募集中です。

（幹事　竹原　巌）

Family Service ―――― 家庭奉仕

国際大会（ブリスベン）のグループ討論から

小林　博（札幌北RC）

本文はブリスベンにおけるロータリーの国際大会2日目に行われたBack to Basics（原点に戻ろう）のパネルで筆者が家庭奉仕について話した英文の要旨である。

私はこの30年間非常に怠惰なロータリアンでした。率直にいって札幌北ロータリークラブの会員でありながら、決して真のロータリアンではなかったと思います。私自身の専門であるがん研究に忙殺されたためにロータリー活動への時間が取れなかったというのが正直なところで、毎週1回ロータリーの友人と昼食を取りながらロータリーの話をするのが精一杯という状況でした。

しかし私がガバナーの任命を受けたときには、これを潔くお受けし、2002年1月にカリフォルニアのアナハイムで開かれた国際協議会に出席致しました。

このような状況でありましたが、ただ私はロータリーにとって何が一番大事かということをいつも考えてきたことは確かです。

1. **今年の国際ロータリーのテーマは「慈愛の種を播きましょう」で、私の非常に好きなテーマのひとつです。**ロータリアンとして慈愛の種をロータリークラブ、職場、地域社会、国際社会に播くことがいかに重要かということは疑う余地もありません。しかし慈愛の種というテーマを論ずる時、社会の最も小さな単位として家庭がもっとも重要ではないかと考えまして、私どもの地区に「家庭奉仕委員会」なるものを始めることに致しました。それ以来いろんな場面において私どもはロータリアンとして自分たち個々の家庭に何ができるかを討論してきました。自己利益のない、家庭のための真の慈愛の種を家庭に播きたい。そうすることで、まず自分の足元により豊かな家庭を築き、そこからよりよき社会を構築していく出発点にしたいというのが我々の願いです。この活動は我々のロータリークラブを強力にするだけでなく、ロータリアン相互の友愛の気持ちを深めることにも役立つと確信しています。

2. **ロータリアンとして家庭に対して今何が大事かという問題についての我々のホットな議論を通して、私なりに得た結論はいくつかあります。**これは単に自分たちの家庭に平和をもたらすだけではなく、子供達に関連した犯罪などの予防にも通ずるものです。

家庭に関する議論から、私の学んだ大事なことは、まず子供たちの言うことをよく聞いてやることだと思います。両親は子供達に対して厳格に躾けるか、あるいは甘やかすかのどちらかですが、どんな些細なことでも子供達の言うことを注意深く、また辛抱強く聞くことが子供への非常に良い指導を生み出す第一歩になるだろうと考えるからです。

次に大事なことは他人を尊敬するということです。個々人の人権を確認することです。相手が若い人、自分の子供であってもそうです。両親はしばしば子供は自分の分身であると考え、子供達の人間としての独立した権利などを認めようとしません。相手を認めることは子供だけでなく一般の対人関係にも通じることですが、我々ロータリアンはこういったことで社会の模範でなければならないと思います。

3番目に大事なことは相手を褒めるということです。相手の言うことを注意深く聞く、あるいは相手の人間としての存在を認めることに加えて相手の些細なことでも何か美点を見出して言葉で誉めてあげることです。褒められた人は喜びと自信を与えられるものです。

以上3つのことは理論的には受け入れられても実際はなかなか難しいものではありますが、これらを実行することによって家庭内の平和、さらには社会の犯罪などの予防に役立つと考えます。

3. **以上の理念に基づいた家庭奉仕の考えをさらに拡大して、学校というものをひとつの大きな家庭と考え、我々自身が学校に赴いてみることにしました。**まずロータリアンが自分の専門領域で得意とする分野のことを子供達に話して聞かせるプログラムを作ってみたのです。我々は先生方が行っている教育よりももっと広い範囲のことを教えることが出来ます。

昨年から試験的にスタートしまして、今年もまた同じようなプログラムを作っております。予めロータリアンのつくったリストの中から適当な演者を小、中学校の先生方に選んでいただいて、そのロータリアンが学校へ行って話をするわけです。昨年我々が体験したのは、子供達が目を輝かし興奮して話を聞いてくれるということでした。私も、またお話をされるロータリアン自身も熱心に聞き入っている子供達の姿にすっかり魅了され、心からの感動を覚えました。

この試みは今後も必ずうまくいくものと信じていますし、また同じ試みが全国のロータリアンの間に広がりつつあることも大変嬉しく思うのであります。有り難うございました。

会員の声

大事な地区版ロータリーの友-『ガバナー月信』の全員購読

佐々木　敦
（札幌真駒内RC）

『ガバナー月信』最終版発行に際し、編集委員の方々に今年1年間、幅広く内容豊かな記事を情報として提供していただき、その企画、収集、編集能力とご苦労に敬意を表したいと思います。

組織にとって情報の共有化、コミュニケーションを高めるために、機関誌は大変重要なものです。ロータリアンにとって『ロータリーの友』はその意味で重要な役割を担っています。

しかし、今日のロータリーのおかれた厳しい情勢の中、我々ロータリアンにとって、情報は『ロータリーの友』それだけでよいのでしょうか。

昨年の『ガバナー月信』7月号で、小林ガバナーは、次のように述べ、新年度を迎える挨拶としています。「ご存知のとおり、いまロータリーはかっての成長期を過ぎ、その価値観の混乱の渦のなかにあるといえます。…　それではわれわれは何をしなければならないのでしょうか。その前にわれわれはいまなぜロータリーにいるのでしょうか？…　激しい時代の動きに遅れることなく、その流れを先取りするくらいの情熱をもって、私どもの理想とする友愛と奉仕のロータリーを真剣に作っていかなければならないと思います。…　」

厳しい情勢の中、会員の減少や、活動のマンネリ化、低迷など個々のクラブの抱える問題は多々あると思いますが、上記のガバナーの挨拶のとおり、これらの問題は乗り越えていかなければならないテーマなのです。このためには、まずわれわれ一人ひとりが「認識」することからはじめなければならないと思います。地区のこと、他クラブの活動の様子、又各クラブやコミュニティーの抱えている共通の問題等。そこから活性化の「行動」が始まるのではないでしょうか。そのためには、地区の情報の共有化、活発なコミュニケーションが今こそ必要なのです。『ガバナー月信』は有力な手段となり得ます。

『ガバナー月信』の編集について、『月信』4月号で小林ガバナーは、RI会長の「これからのロータリーはトップダウンだけでなく、むしろ一人ひとりのロータリアンの隠れたエネルギーを上に持ち上げるボトムアップがなければならない」との言葉を引用した上で、「2510地区では『ガバナー月信』をトップダウンだけでなくロータリアン全員の率直な意見交換の場としたいと考え、その方向で努力を重ねてきたところである。この意味で『ガバナー月信』は地区月信というべきものである。…　地区月信はいうなれば『地区におけるロータリーの友』と理解したい。」と述べています。

今年度は『ガバナー月信』を地区のロータリアン全員が購読していますが、札幌真駒内RCでは、前年度と今年度2年連続全員購読をしています。これによって、いままで遠く縁が薄く感じていた地区活動、他クラブのことが、よく理解でき身近に感ずるようになりました。

来年度も地区として、全員購読を継続すると聞いて喜んでいましたが、仄聞するところ全員購読はないらしいとのこと、誠に残念に思います。来年度は地区役員、クラブ役員だけが購読していればよいという情勢なのでしょうか。私は「否」と申しあげたい。ぜひ、地区版ロータリーの友—『ガバナー月信』を大事にして、次々年度からは地区のロータリアン全員が購読を続ける方針を打ち出して欲しいと考える次第です。役員への情報伝達のためだけの手段にではなく、地区3500人のロータリアン全員の情報の共有化に活用して、“我々の理想とする友愛と奉仕のロータリー作り”に生かし、厳しい情勢に力を合わせて対処していかなければならないと思うのです。

奉仕活動に役立て今元気に育っています桜の苗木を無料にてお上げします

久住八郎（栗山RC）

昨年、種をまいた桜の苗木がすくすくと成長しています。秋までに20センチくらいになります。来年の5月の始め頃に植えますと、根つきもよく育ちます。2年せいの苗木もありますが、本数が少しすくないです。

50本単位で申し込み下さい。但し原則として取りに来てください。お送りする場合は送料ご負担お願いいたします。本数は多く用意してありますが、先着順とさせていただきますので早めにお願いいたします。個人に配布しませんので各ロータリークラブでお申し込みください、次年度の活動計画にご利用いただければと考えております。お申し込みは下記のFAX番号までおねがいいたします。

FAX 01237－2－6337
TEL 01237－2－1088

住所　夕張郡栗山町朝日南大通り4丁目

2年目の桜の木

交換留学生が「みこし渡御」に参加

札幌支つり　みこし渡御
留学生も登場
ニッポン肌で感じた

これでよいのか ローターアクト大会

吉本　勲
（深川RC）

本年度のローターアクト大会は5月31日、札幌のキング・ムーという若者向けの会場で行われた。地区30回大会であるから、2510地区の多くのアクトたちが参加し、もちろんロータリークラブからは、地元のガバナー補佐、クラブ会長、各ローターアクト委員長などが来賓として出席した。

国歌及びアクトソング斎唱、ガバナー補佐他来賓の方々の祝辞等々、式典は短く15分とかからなかった。式典が終ってすぐ交歓会である。たちまちの中に来賓も何も放ったらかしにして、自分たちだけのどんちゃん騒ぎ、例によって例のごときハダカ踊り、セックスゲームすれすれのばかばかしい素人芸、SMプレイに類したもののオンパレードである。

来賓の大人たちはあきれはて、渋面を作ってしばし眺めていたが、やがて一人去り二人帰りついには誰もいなくなる。中座するということに多少の抗議の意志もこめられていたのかもしれないが、その程度のことに頓着する連中ではない。

数年前、県主催の成人式で祝辞の最中に騒ぎ立てていた若者たちを、壇上から「静かにしろ」と一喝した橋本高知県知事のような人もいるにはいるが、ロータリーの紳士諸氏にそれだけの度胸のある方がおありだろうか。

そして若者たちのこれらのバカ騒ぎこそ、日本の戦後民主主義とやらに洗脳され切った昭和20年代前半生まれ、すなわち、おおむね団塊の世代を両親に持つオボッチャマ、オジョーサマ方のありのままのお姿である。

自由に個性豊かに子供たちの自主性を尊重して、のびのびと決して叱らず育て上げた結果がこれである。要するに敗戦後、徳育の名に値いするものは何一つ行われては来なかった。

私見によれば、教育とは自由でも放任でも個性の伸長のみでもない。紙幅がないので長々と論じているわけにはいかないが、教育は必ずその一部に強制的要素を含むであろう（アメリカは1980年代に自由放任教育を実施して惨憺たる失敗をなめ、すでに軌道修正して今日に及んでいる）。

さて、今年度最終のガバナー補佐会議は去る6月15日に終った。事前にもし私がローターアクト大会の実態を知っていれば、当然補佐会議において問題提起を行ったであろう。

しかし、私の所属する深川クラブの熱意に充ちたローターアクト委員長が失望と落胆の色を浮かべて、ようやくアクト大会の惨状を私に打ち明けられたのは17日のことであった。いささか実情を知っていると思われる各クラブ（あるいは地区の）ローターアクト委員長はともかくとして、クラブ会長、ガバナー補佐、ガバナー、いや2510地区のすべてのロータリアンはこれらの若者たちの無軌道ぶりを知らなくてよいのであろうか。

それとも、式典さえ終れば、あとは彼等の自主性に任せるべきであり、大人たちにはこれらのバカ騒ぎを事前であれ事後であり、制止したり注意したりする権利はないのであろうか。これらの乱痴気騒ぎを支えるために各クラブは多額の費用を負担し、多大の労力を提供しているわけであるが、そのような必要性があるのかどうか。これらの問題はすでに地区及び各クラブのローターアクト委員会の手に余る事態になっているものと、私には思われる。

来年は赤平市でローターアクト年次大会がある。そのテーマはすでに決まっていて『見たい、聞きたい、騒ぎたい。』というのだそうである（騒ぎたければクラブを離れて自分たちの金で勝手に騒げばよい）。

私はすべてのロータリアンに問いかけたい。われわれは彼等に対していったい何をなすべきであろうか。それとも何もしなくてよいのか。きれいな事、事なかれ主義、見て見ぬふり、これでよいのか。

古代ギリシャのオリンポスの神々は若い男女の美しい裸体を賞でたもうた。日本の神々もまたそうである。その故に神事においては、たとえば御輿渡御の場合に若者たちが裸体になって御輿をかつぐのである。いうまでもなくこれらの裸体には聖性が宿り、共同体のすべての成員がこれを良しとみなすのである。これに反して、ローターアクトの若者たちの裸体に宿るのはただのセックス願望だけである。

私は重ねて第2510地区のすべてのロータリアンに問いかけたい。これでよいのかと。

米山記念奨学生の選考について

米山道男
（札幌北RC）

筆者は昨年大学を退職するまでの10年間留学生達と深く関わってきましたので、いわゆる私費留学生達の窮状を知り尽くしているつもりです。彼等にとって、ロータリーの奨学金は地獄発天国行きの切符にも等しいものです。それだけに、選考は慎重の上にも慎重にしていただきたく、この点に関する積年の想いを以下に纏めてみました。諸賢の御理解を賜りたく思います。

1. 応募者への迅速な通知

近年、第1次選考（大学での書類審査）は例年9月に行われ、第2次選考（地区委員会による面接試験）は翌年2月に行われています。9月の第1次選考の結果は12月末頃になってやっと東京の米山記念奨学会から本人に通知されるのですが、この間を本人達は非常に不安な気持で過ごすことになります。結果を通知しないでおく利点は何もないばかりか奨学会に対する不信感を生む結果になっています。地区委員会は、各大学に対し、第1次選考の結果を迅速に応募者に知らせるよう要望してほしいと考えます。

2. 応募者と配偶者の収入調査

面接予定者およびその配偶者の収入をできる限りの方法を使って調査してほしいと思います。大学当局や指導教官に問い合わせるなど色々な方法がある筈です。

最近の受給者の中には、配偶者が日本

学術振興会の特別研究員（大学に問い合わせれば分かります）で月額35万円、二人合わせて月収50万円という人もいました。自動車を持っている受給者もいます。その一方で、奨学金がないため、週6日夕方5時半から11時までススキノの料理店の皿洗いに冬も自転車で通い、極貧の生活を送りながら勉学に励んでいる留学生がいることを考えると、会員の貴重な浄財のこのような使い方に憤りすら感じます。

なお、受給途中であっても、高額の別所得が判明した場合は、直ちに支給を取りやめて次点に回すなどしてほしいと思います。

3. 応募者の経済状況の重視

最近の奨学会の考え方は、「優秀で将来性があり、かつ友好親善に貢献できる人」という点に力点が置かれ、応募者の経済状況を重視しないように見受けられます。しかしながら、そもそも奨学金授与とは経済的支援に他ならず、経済的困窮度を問題にしないというのは奨学金本来の目的を見失った考え方です。「優秀で将来性があり、友好親善に貢献でき、かつ経済的に困難な状況にある人」を奨学生として選んでいただきたいと強く要望します。

4. 配偶者の収入上限の下方修正

奨学会の規約によると、配偶者の年収が400万円（月収33万円）までは応募資格があるとなっています。これに米山記念奨学金が加われば月額48万円です。多分この家族は半分近くを貯金か仕送りに振り向けるでしょう。配偶者の不労所得は月額5万円程度以下を応募条件にすべきでしょう。これではアルバイトが必要でしょうが、米山記念奨学金はそのアルバイトの負担を軽減するためにこそ役立てるべきで、貯金や仕送りのために使われるべきものではないと考えます。奨学会に再考を促したいと思います。

5. 申請書類の平易簡素化

奨学会が作成した奨学金申請書類の文章は、生硬で難解な表現が多く見られます。日本人にとって難しい表現すらあります。これを読む人は日本に来て間もない外国人です。もっと易しく簡潔な表現を用いてほしいと思います。

ポリオの街頭募金に挑戦!!

札幌大通公園RCは6月15日（日）、大通公園4丁目において会員有志17名によるポリオのキャンペーンと募金活動を行いました。2時間の活動で収益金は53,871円、また事前に知人などに呼びかけるなどして集まった52,171円の総額106,042円をポリオ基金に寄附してくだいました。理念よりも実践の模範を示してくれた大通公園RCの木津敏彦会長ほかクラブの皆さんに心から御礼申し上げます。

ポリオ撲滅へ
大通で募金
ロータリークラブ

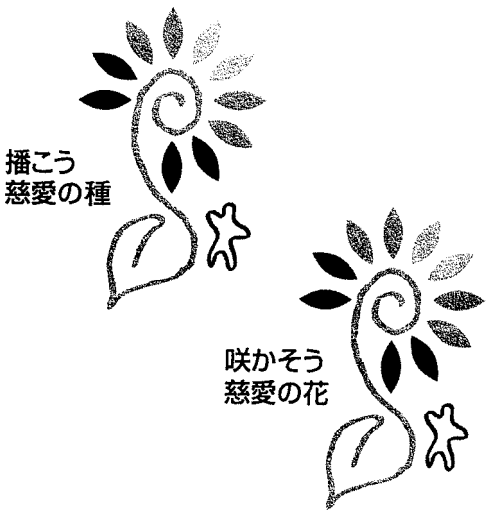
【中央区】札幌大通公園ロータリークラブ（木津敏彦会長、会員二十人）はこのほど、中央区の大通公園で、ポリオ（小児まひ）撲滅のための街頭募金活動を行った＝写真＝。一昨年設立された同クラブは、設立当初からポリオ撲滅運動に力を入れているが、街頭での大がかりな募金活動は初めて。

木津会長は「日本ではすでに根絶したが、世界にはまだポリオは残っている。三百円あれば十五人の子供たちにワクチンを提供できる」と話していた。お金は国際ロータリークラブ（本部・米シカゴ）へ送る。

笑いの種を播きましょう!!

カーネギーの詩「笑いは心の武装を解除する」

「笑いは元手がいらない、しかも利益は莫大、与えても減らず、与えられた者は豊かになる。
笑いは一瞬見せれば、その記憶は永久に続く事がある。
どんな金持ちでも、これなしでは暮らせない、どんな貧乏人でも、これによって豊かになる、
家庭に幸福を、商売に善意をもたらす友情の合い言葉、笑顔は疲れた者にとっては休養、
失意の人にとっては光明、悲しむ者にとっては太陽、悩める者にとっては自然の解毒剤となる。
買うことも、強要することも盗むこともできない、無償で与えて初めて値打ちがでる」。



米山財団への寄付状況一覧表

2002～2003年度の米山財団へのご寄付は下記の通りとなりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。尚本年度の寄付は、前年度より7%減少となりました。次年度は、留学生へのご理解を頂き、一層のご支援をお願いいたします。

2003年6月30日 現在（単位：円）

グループ	クラブ名	1月1日会員数	年額 一名当り	2002/07月 - 2003/06月 年度入金額 普通寄付金	特別寄付金	合計（前年度実績額）		一名当り寄付実績額
1	深川	44	3,000	135,000	790,000	925,000	(665,500)	21,023
	羽幌	48	2,000	95,000	90,000	185,000	(238,000)	3,854
	妹背牛	12	4,000	48,000	0	48,000	(52,000)	4,000
	小平	17	4,000	30,000	0	30,000	(48,000)	1,765
	留萌	66	3,000	202,500	170,000	372,500	(559,500)	5,644
	小計	187	16,000	510,500	1,050,000	1,560,500	(1,563,000)	8,345
2	赤平	37	2,000	74,000	480,000	554,000	(110,000)	14,973
	芦別	58	4,000	236,000	20,000	256,000	(230,000)	4,414
	砂川	56	3,000	175,500	610,000	785,500	(900,500)	14,027
	滝川	112	4,000	440,000	570,000	1,010,000	(1,896,000)	9,018
	小計	263	13,000	925,500	1,680,000	2,605,500	(3,136,500)	9,907
3	美唄	47	3,000	142,500	450,000	592,500	(235,500)	12,606
	江別	49	4,000	198,000	370,000	568,000	(462,000)	11,592
	江別西	41	4,000	164,000	0	164,000	(170,000)	4,000
	岩見沢	102	2,000	199,000	1,100,000	1,299,000	(1,362,000)	12,735
	岩見沢東	34	2,000	67,000	34,000	101,000	(77,000)	2,971
	栗沢	33	3,000	100,500	225,000	325,500	(163,500)	9,864
	栗山	33	3,000	99,000	0	99,000	(183,500)	3,000
	当別	46	3,000	138,000	0	138,000	(130,500)	3,000
	小計	385	24,000	1,108,000	2,179,000	3,287,000	(2,784,000)	8,538
4	札幌	128	3,000	372,000	325,000	697,000	(618,000)	5,445
	札幌あけぼの	18	4,000	74,000	240,000	314,000	(257,000)	17,444
	札幌はまなす	29	3,000	87,000	0	87,000	(843,000)	3,000
	札幌北	57	3,000	172,500	707,000	879,500	(1,000,000)	15,430
	札幌モーニング	62	4,000	246,000	594,700	840,700	(550,000)	13,560
	札幌西	76	3,000	226,500	551,017	777,517	(769,300)	10,230
	札幌西北	54	3,000	160,500	730,000	890,500	(172,500)	16,491
	札幌手稲	49	4,000	202,000	410,000	612,000	(695,200)	12,490
	小計	473	27,000	1,540,500	3,557,717	5,098,217	(4,905,000)	10,778
5	札幌東	123	3,000	369,000	1,520,000	1,889,000	(2,296,000)	15,358
	札幌清田	28	3,000	81,000	170,000	251,000	(254,500)	8,964
	札幌幌南	83	3,000	256,500	895,000	1,151,500	(1,240,500)	13,873
	札幌真駒内	48	3,000	147,000	1,100,000	1,247,000	(604,500)	25,979
	札幌南	97	4,000	388,000	870,000	1,258,000	(2,036,000)	12,969
	新札幌	40	3,000	123,000	360,000	483,000	(418,000)	12,075
	札幌大通公園	18	1,500	30,000	0	30,000	(30,000)	1,667
	札幌セントラル	24	1,500	36,000	0	36,000	-	1,500
	小計	461	22,000	1,430,500	4,915,000	6,345,500	(6,879,500)	13,765
6	岩内	37	2,000	37,000	430,000	467,000	(183,000)	12,622
	倶知安	53	2,000	107,000	0	107,000	(107,000)	2,019
	小樽	95	3,000	286,500	335,000	621,500	(920,900)	6,542
	小樽南	86	2,000	172,000	1,870,000	2,042,000	(718,000)	23,744
	小樽銭函	20	2,000	40,000	0	40,000	(65,000)	2,000
	蘭越	18	2,000	36,000	0	36,000	(35,000)	2,000
	余市	48	3,000	72,000	0	72,000	(314,500)	1,500
	小計	357	16,000	750,500	2,635,000	3,385,500	(2,343,400)	9,483
7	千歳	74	2,000	148,000	381,181	529,181	(356,000)	7,151
	千歳セントラル	34	2,000	67,000	76,000	143,000	(155,000)	4,206
	恵庭	49	3,000	148,000	300,000	448,000	(454,000)	9,143
	北広島	15	2,000	31,000	0	31,000	(28,000)	2,067
	長沼	18	4,000	72,000	190,000	262,000	(356,000)	14,556
	由仁	18	0	72,000	220,000	292,000	(198,000)	16,222
	小計	208	13,000	538,000	1,167,181	1,705,181	(1,547,000)	8,198
8	えりも	27	4,000	108,000	100,000	208,000	(302,000)	7,704
	三石	19	4,000	78,000	50,000	128,000	(130,000)	6,737
	静内	68	2,000	136,000	600,000	736,000	(72,000)	10,824
	浦河	39	3,000	120,000	60,000	180,000	(437,000)	4,615
	様似	23	3,000	70,500	0	70,500	(217,000)	3,065
	小計	176	16,000	512,500	810,000	1,322,500	(1,158,000)	7,514
9	伊達	56	3,000	163,500	300,000	463,500	(472,500)	8,277
	室蘭	64	4,000	260,000	300,000	560,000	(572,000)	8,750
	室蘭東	53	4,200	226,800	810,000	1,036,800	(989,400)	19,562
	室蘭北	51	3,000	154,500	110,000	264,500	(785,000)	5,186
	登別	40	4,000	160,000	510,000	670,000	(410,000)	16,750
	洞爺湖	14	2,000	28,000	100,000	128,000	(129,000)	9,143
	小計	278	20,200	992,800	2,130,000	3,122,800	(3,357,900)	11,233
10	函館	105	3,000	309,000	180,000	489,000	(1,036,540)	4,657
	函館亀田	53	2,000	104,000	183948	287,948	(182,627)	5,433
	森	49	2,000	100,000	0	100,000	(98,000)	2,041
	七飯	32	3,000	96,000	0	96,000	(408,000)	3,000
	長万部	10	3,000	33,000	0	33,000	(48,000)	3,300
	小計	249	13,000	642,000	363,948	1,005,948	(1,773,167)	4,040
11	江差	20	2,000	42,000	0	42,000	(72,000)	2,100
	函館五稜郭	71	2,000	142,000	1,267,425	1,409,425	(1,907,415)	19,851
	函館東	66	4,000	266,000	660,000	926,000	(2,339,000)	14,030
	函館北	47	2,000	93,000	114,575	207,575	(227,000)	4,416
	上磯	34	2,000	68,000	28,855	96,855	(117,785)	2,849
	松前	8	1,000	8,000	0	8,000	(8,500)	1,000
	小計	246	13,000	619,000	2,070,855	2,689,855	(4,671,700)	10,934
12	白老	35	2,000	69,000	130,000	199,000	(229,000)	5,686
	苫小牧	69	3,000	205,500	300,000	505,500	(510,000)	7,326
	苫小牧東	34	2,000	101,000	486,028	587,028	(689,753)	17,266
	苫小牧北	49	4,000	202,000	1,049,517	1,251,517	(1,079,316)	25,541
	小計	187	11,000	577,500	1,965,545	2,543,045	(2,508,069)	13,599
その他		0	0	0	0	0	(500,000)	0
合計		3,470		10,147,300	24,524,246	34,671,546	(37,127,236)	9,992

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

2003年5月～6月

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

山光　進会員	（札幌東RC）	（2）	5月19日
田尾重良会員	（札幌東RC）	（2）	5月23日
鈴木俊幸会員	（札幌東RC）	（1）	5月23日
名塩良一郎会員	（札幌東RC）	（4）	5月30日
森　正志会員	（札幌幌南RC）	（1）	5月30日
遠藤正之会員	（札幌幌南RC）	（4）	5月30日
土橋信男会員	（札幌幌南RC）	（1）	5月30日
加藤健太郎会員	（函館RC）	（1）	6月 6日
國立金助会員	（函館RC）	（2）	6月 6日
藤井方雄会員	（函館RC）	（1）	6月 6日
櫻井政経会員	（札幌RC）	（1）	6月 6日
北谷好文会員	（砂川RC）	（1）	6月 6日
川村義昭会員	（苫小牧東RC）	（1）	6月10日
小林敏夫会員	（函館RC）	（1）	6月13日
坂田知樹会員	（岩見沢東RC）	（1）	6月13日
奥貫一之会員	（札幌東RC）	（5）	6月18日
大公一郎会員	（札幌東RC）	（3）	6月18日
星野恭亮会員	（札幌東RC）	（2）	6月18日
高下泰三会員	（札幌西RC）	（2）	6月18日
松崎　幹会員	（札幌手稲RC）	（1）	6月20日
山本公彦会員	（岩見沢RC）	（1）	6月25日
橋本新治会員	（岩見沢RC）	（1）	6月25日
浅野　剛会員	（岩見沢RC）	（1）	6月25日
吉本　勲会員	（深川RC）	（3）	6月27日

ポール・ハリス・フェロー

新井田孝会員	（伊達RC）	5月16日
細谷義弘会員	（岩見沢東RC）	5月16日
谷内馨一会員	（小樽RC）	5月16日
泉　侑会員	（小樽RC）	5月16日
竹田俊一会員	（砂川RC）	6月 6日
大山知行会員	（砂川RC）	6月 6日
丹呉幹彦会員	（小樽RC）	6月13日
沖田　豊会員	（函館亀田RC）	6月18日
朝倉正人会員	（札幌東RC）	6月18日
大越克巳会員	（札幌西RC）	6月18日
川南明則会員	（洞爺湖RC）	6月20日
三浦昭三会員	（洞爺湖RC）	6月20日
杉浦則男会員	（札幌南RC）	6月25日
北川清則会員	（栗山RC）	6月27日
柏木秀之会員	（函館五稜郭RC）	6月30日

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

2002年12月～03年6月

米山功労者

西村　孚	会員	(江別RC)	12月16日	
三上春吉	会員	（恵庭RC）	12月12日	
早川卓伸	会員	（岩見沢RC）	12月26日	
遠藤秀雄	会員	（登別RC）	12月26日	
見延庄三郎	会員	（小樽南RC）	12月13日	
佐川秀逸	会員	（小樽南RC）	12月13日	
竹田栄治	会員	（小樽南RC）	12月13日	
鳥井健次	会員	（小樽南RC）	12月13日	
辻　健	会員	（小樽南RC）	12月13日	
米山八郎	会員	（小樽南RC）	12月13日	
中川　東	会員	（札幌北RC）	12月13日	
太田耕平	会員	（札幌西RC）	12月17日	（2回）
高下泰三	会員	（札幌西RC）	12月17日	
神部洋史	会員	（滝川RC）	12月24日	（2回）
向井辰巳	会員	（滝川RC）	12月24日	
菊地　章	会員	（札幌東RC）	1月31日	
福田武男	会員	（千歳RC）	4月25日	（2回）
小林　明	会員	（函館RC）	4月22日	
小林昌志	会員	（札幌南RC）	4月3日	
福嶋　貢	会員	（函館東RC）	5月6日	（2回）
池垣清信	会員	（函館東RC）	5月16日	（6回）
鳴海馨誠	会員	（岩内RC）	5月27日	
田頭博昭	会員	（室蘭RC）	5月23日	（2回）
南原康二	会員	（札幌東RC）	5月26日	（2回）
今野陽三	会員	（苫小牧RC）	5月23日	（2回）
北谷好文	会員	（砂川RC）	6月5日	

米山功労法人

NPO法人北海道アフリカ協会様	（札幌真駒内RC）	12月13日

米山ファンドフェロー

日沼俊栄	会員	（岩見沢RC）	12月26日
守屋　弘	会員	（登別RC）	12月26日
中村　雅	会員	（登別RC）	12月26日
斎藤正史	会員	（登別RC）	12月26日
丹呉幹彦	会員	(小樽RC)	12月6日
大沼哲郎	会員	（留萌RC）	12月27日
阿部哲夫	会員	（札幌清田RC）	12月12日
中島　勉	会員	（札幌幌南RC）	12月24日
高島敏子	様	（札幌幌南RC）	12月24日
上田英二	会員	（滝川RC）	12月24日
山根英治	会員	（滝川RC）	12月24日
赤川清介	会員	（赤平RC）	1月22日
伊藤正敏	会員	（岩内RC）	1月30日
安田隆義	会員	（室蘭北RC）	4月25日
奥村義夫	会員	（札幌東RC）	4月22日
砺波　寿	会員	（札幌幌南RC）	5月26日
荒井捷一	会員	（苫小牧北RC）	5月16日
青野茂俊	会員	（岩見沢RC）	6月24日

5月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例会数	会員数 02.7.1	03.5.31	増減	内女性	出席率
1	深川	4	46	43	−3	2	91.88
	羽幌	4	47	48	1	1	74.06
	妹背牛	4	12	10	−2	0	82.50
	小平	4	15	17	2	1	66.18
	留萌	3	69	68	−1	0	84.42
	小計		189	186	−3	4	79.81
2	赤平	2	37	37	0	1	91.89
	芦別	4	60	57	−3	0	92.49
	砂川	4	61	58	−3	0	97.57
	滝川	5	108	114	6	2	75.00
	小計		266	266	0	3	89.24
3	美唄	4	48	46	−2	0	86.04
	江別	4	50	49	−1	2	86.16
	江別西	4	41	41	0	3	87.60
	岩見沢	5	97	102	5	0	90.70
	岩見沢東	4	33	34	1	3	92.65
	栗沢	4	35	34	−1	2	90.22
	栗山	3	34	33	−1	2	94.62
	当別	4	46	46	0	0	89.13
	小計		384	385	1	12	89.64
4	札幌	4	120	121	1	0	98.53
	札幌あけぼの	4	19	18	−1	1	100.00
	札幌はまなす	4	29	29	0	4	77.84
	札幌北	3	58	58	0	6	88.48
	札幌モーニング	4	61	62	1	0	76.64
	札幌西	4	75	73	−2	2	93.03
	札幌西北	3	52	53	1	2	89.43
	札幌手稲	4	52	47	−5	0	98.40
	小計		466	461	−5	15	90.29
5	札幌東	4	123	122	−1	0	99.11
	札幌清田	3	26	28	2	5	100.00
	札幌幌南	4	88	83	−5	0	100.00
	札幌真駒内	4	50	48	−2	3	96.50
	札幌南	3	97	94	−3	0	96.34
	新札幌	4	42	41	−1	1	93.46
	札幌大通公園	3	17	18	1	4	66.66
	札幌セントラル	3	0	21	21	6	81.00
	小計		443	455	12	19	91.63
6	岩内	4	37	37	0	0	78.22
	倶知安	4	54	53	−1	4	81.00
	小樽	4	96	91	−5	0	91.72
	小樽南	3	86	87	1	0	91.26
	小樽銭函	4	20	20	0	2	82.50
	蘭越	4	18	18	0	0	60.93
	余市	4	49	48	0	4	89.55
	小計		360	354	−6	10	82.17

クラブ数	72クラブ
期首会員数	3,458人
当月末会員数（女性）	3,438(97)人
増加会員数	−20人
当月平均出席率	84.68%

グループ	クラブ名	例会数	会員数 02.7.1	03.5.31	増減	内女性	出席率
7	千歳	4	74	74	0	2	90.90
	千歳セントラル	4	33	35	2	0	71.40
	恵庭	4	50	48	0	0	80.97
	北広島	5	16	15	−1	2	96.15
	長沼	3	18	18	0	4	90.70
	由仁	5	18	18	0	1	80.00
	小計		209	208	−1	9	85.02
8	えりも	5	27	27	0	0	99.05
	三石	3	20	19	−1	1	91.23
	様似	4	24	23	−1	2	87.50
	静内	4	68	66	−2	0	92.96
	浦河	4	41	44	3	1	95.87
	小計		180	179	−1	4	93.32
9	伊達	4	53	56	3	0	72.05
	室蘭	4	66	60	−6	0	69.99
	室蘭東	4	56	53	−3	1	87.50
	室蘭北	4	52	50	−2	2	72.00
	登別	5	40	40	0	2	82.50
	洞爺湖	4	14	13	−1	0	95.00
	小計		281	272	−9	5	79.84
10	函館	4	101	103	2	0	79.26
	函館亀田	3	51	51	0	1	72.67
	森	3	51	49	−2	0	71.00
	七飯	4	33	32	−1	0	87.80
	長万部	3	11	12	1	0	83.30
	小計		247	247	0	1	78.81
11	江差	4	20	20	0	0	68.00
	函館五稜郭	4	71	69	−2	0	82.33
	函館東	4	67	65	−2	5	76.25
	函館北	4	46	47	1	0	72.22
	上磯	4	34	34	0	3	63.20
	松前	4	8	9	1	1	67.00
	小計		246	244	−2	9	71.50
12	白老	4	34	35	1	1	81.00
	苫小牧	4	68	65	−3	0	81.56
	苫小牧東	4	33	33	0	3	84.39
	苫小牧北	4	52	48	−4	2	92.44
	小計		187	181	−6	6	84.85
	合計		3,458	3,438	−20	97	84.68

6月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例会数	会員数 02.7.1	03.6.30	増減	内女性	出席率
1	深川	4	46	43	-3	2	88.75
	羽幌	4	47	47	0	1	80.32
	妹背牛	4	12	10	-2	0	90.00
	小平	4	15	14	-1	0	71.64
	留萌	4	69	64	-5	0	89.09
	小計		189	178	-11	3	83.96
2	赤平	4	37	37	0	1	89.19
	芦別	4	60	58	-2	0	90.27
	砂川	3	61	58	-3	0	97.39
	滝川	2	108	109	1	2	68.00
	小計		266	262	-4	3	86.21
3	美唄	4	48	47	-1	0	89.53
	江別	4	50	46	-4	2	84.03
	江別西	4	41	41	0	3	89.63
	岩見沢	4	97	102	5	0	92.17
	岩見沢東	4	33	34	1	3	88.23
	栗沢	4	35	34	-1	2	90.10
	栗山	4	34	32	-2	2	93.33
	当別	4	46	42	-4	0	90.76
	小計		384	378	-6	12	89.72
4	札幌	4	120	113	-7	0	97.81
	札幌あけぼの	4	19	18	-1	1	100.00
	札幌はまなす	4	29	28	-1	4	73.33
	札幌北	5	58	59	1	6	87.86
	札幌モーニング	4	61	60	-1	0	82.28
	札幌西	3	75	74	-1	2	94.08
	札幌西北	4	52	54	2	2	92.08
	札幌手稲	4	52	44	-8	0	96.74
	小計		466	450	-16	15	90.52
5	札幌東	4	123	121	-2	0	98.66
	札幌清田	4	26	28	2	5	100.00
	札幌幌南	4	88	81	-7	0	99.36
	札幌真駒内	4	50	48	-2	3	96.00
	札幌南	4	97	90	-7	0	97.53
	新札幌	4	42	36	-6	1	95.20
	札幌大通公園	4	17	18	1	4	84.92
	札幌セントラル	4	0	21	21	6	79.70
	小計		443	443	0	19	93.92
6	岩内	4	37	37	0	0	77.03
	倶知安	4	54	53	-1	4	81.00
	小樽	4	96	88	-8	0	90.79
	小樽南	4	86	87	1	0	96.54
	小樽銭函	4	20	20	0	2	80.00
	蘭越	4	18	18	0	0	73.34
	余市	4	49	46	0	4	86.95
	小計		360	349	-11	10	83.66

クラブ数	72クラブ
期首会員数	3,458人
当月末会員数（女性）	3,336(97)人
増加会員数	−122人
当月平均出席率	85.39%

グループ	クラブ名	例会数	会員数 02.7.1	03.6.30	増減	内女性	出席率
7	千歳	4	74	72	-2	2	88.80
	千歳セントラル	4	33	31	-2	0	78.60
	恵庭	4	50	50	0	0	79.95
	北広島	3	16	15	-1	2	90.47
	長沼	5	18	18	0	4	85.50
	由仁	4	18	16	-2	1	70.83
	小計		209	202	-7	9	82.36
8	えりも	4	27	23	-4	0	80.77
	三石	5	20	18	-2	1	94.70
	様似	4	24	23	-1	2	88.60
	静内	4	68	68	0	0	92.69
	浦河	4	41	41	0	1	88.90
	小計		180	173	-7	4	89.13
9	伊達	4	53	55	2	0	74.54
	室蘭	4	66	54	-12	0	97.46
	室蘭東	4	56	53	-3	1	96.36
	室蘭北	4	52	49	-3	2	78.89
	登別	4	40	40	0	2	82.50
	洞爺湖	4	14	13	-1	0	100.00
	小計		281	264	-17	5	88.29
10	函館	4	101	101	0	0	77.01
	函館亀田	5	51	47	-4	1	72.43
	森	4	51	47	-4	0	81.50
	七飯	4	33	29	-4	0	84.80
	長万部	4	11	12	1	0	64.58
	小計		247	236	-11	1	76.06
11	江差	4	20	20	0	0	72.00
	函館五稜郭	4	71	64	-7	0	89.55
	函館東	4	67	60	-7	6	81.04
	函館北	4	46	43	-3	0	77.09
	上磯	4	34	33	-1	3	66.40
	松前	4	8	9	1	1	67.00
	小計		246	229	-17	10	75.51
12	白老	4	34	28	-6	1	83.00
	苫小牧	4	68	62	-6	0	80.88
	苫小牧東	4	33	33	0	3	86.72
	苫小牧北	3	52	49	-3	2	90.73
	小計		187	172	-15	6	85.33
	合計		3,458	3,336	-122	97	85.39

『ガバナー月信』全13号の編集を終えて

『月信』編集委員長　竹原　巌

『ガバナー月信』を1号から13号までの編集を終えて、ホット一息の感がします。小林ガバナー年度の『月信』について振り返って見たいと思います。ガバナーは『月信』を地区内の全会員が講読して頂くよう、年度の始まる前からそしてペッツ・地区協でガバナー補佐あるいは会長に繰り返し説明して来ました。残念ながら全員講読には至りませんでしたが、地区内会員数3,460名に対して、3,200名の方93%が講読してくれることになり、その責任の重さを痛感致しました。

ガバナーの基本方針に基づき担当幹事が昨年の4月に集まり、『月信』の編集方針や掲載内容について話し合い、ガバナーからのメッセージだけでなく、「地区委員会活動」「各クラブの活動紹介」あるいは「会員からのご意見」や「疑問」など、ボトムアップの情報提供や意見交換の場とし、写真を多く取り入れ親しみやすい『ガバナー月信』を作る事としました。

1号から6号までの「表紙」には、ロータリーはお一人お一人の会員により成り立っているとの思いから人物で飾り、7月号（RI会長・ガバナー）、8月号（71クラブ会長）、9月号（71クラブ幹事）、10月号（喜びをともにする新人会員）、11月号（地区大会記念講演のアグネスとフォーラム参加の4名の他地区ガバナー）、12月号（地区大会特集号でRI会長代理とガバナー）、7号以降は季節の風景や花々としました。1月号（干支に因み牧場の羊）、2月号（国際大会開催のブリスベン）、3月号（晩冬から早春の花々）、4月号（地区内の桜の名所）、5月号（スズラン・ツツジ等）、6月号（ライラック）そして最終号は（バラと慈愛）としました。また、「裏表紙」は12グループ内の名所と花を掲載しました。

これも初めての試みと思われますが、クラブ・会員・地区委員会からの投稿も盛りだくさんとなり、ページ数が増えることで当初予算より支出オーバーが見込まれたので、会員の職業紹介を兼ねた「広告」を掲載することとし、地区内関係各社・団体より多数のご協力を頂き、特に第1グループの吉本ガバナー補佐の「吉本病院」、並びに、小林ガバナーの「札幌がんセミナー」には多大なるご協力を頂き有り難うございました。

小林ガバナーは編集に関して細かなアドバイスをくださり、初めての経験である私にとって力強く頼りにいたしました。また、公式訪問その他で会員の方から出されたロータリーへの質問や疑問について「ガバナーとの対話」のコーナーで取上げ、その率直な答えが好評を博していたようです。そして、1カ月間の活動を「ガバナー日記」として掲載し、これも日々のガバナーの動静や考え方が理解できると評価されました。

1号から13号の『月信』作成には、熊谷満会員には毎回編集会議に参加しご意見をいただき、そして校正を担当下さりご苦労をかけたことに感謝申し上げます。また、大田すみ子会員・脇田稔会員には編集会議で貴重なご意見を頂き有り難うございます。アドバイザーとして米山道男地区幹事そして松木新さん（㈱アイワード）には毎回適切なアドバイスを頂き感謝申し上げます。そして、阿部智子事務局員にはデーターの収集や連絡にご協力頂き有り難うございます。このほか多数の方々のご協力とご指導で『月信』を作って参りました。

紙上を借りて心から御礼申し上げます。

訃　報

森田春穂　会員
（札幌西RC）
平成15年5月8日
ご逝去（享年73歳）

《ロータリー歴》
1969年3月18日　札幌西RC入会
1977～78年　親睦活動委員長
1979～80年　幹事
1982～83年　ロータリー情報委員長
1992～93年　会長
1998～99年　会員増強委員長
米山功労者
マルチプルポールハリスフェロー

国際ロータリー第2510地区
2002－2003年度　ガバナー月信　最終号

発行人　2002－2003年度ガバナー 小林　博
発行元　国際ロータリー第2510地区
2002－2003年度ガバナー事務所
発行日　毎月1日発行　年12回
編集委員　◎竹原　巌（地区幹事）　大田すみ子（地区幹事）
熊谷　満（地区幹事）　脇田　稔（地区幹事）
アドバイザー　米山　道男（地区幹事）　松木　新（アイワード）
事務局　札幌市中央区大通西6丁目　北海道医師会館6F
TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526　E-mail　scs-hk@phoenix-c.or.jp
印刷：（株）アイワード　TEL241-9341

慈愛の種を播きましょう

国際ロータリー第2510地区・DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL

GOVERNOR'S

MONTHLY LETTER 2003 [ガバナー月信]

ロータリー会員地域紹介

千歳市

■支笏湖

四季折々の美しい景観を見せる支笏湖。周囲40km、最大深度360m、平均水深256m。秋田県の田沢湖に次ぐ、わが国で2番目の深度を誇り「巨大な水がめ」と形容されています。

■千歳市の花

ツツジ

春から夏にかけ紫、白、紅色などの花が咲きます。 種類が多く、鉢植えや造園用に適し栽培管理もしやすく、家庭での植栽も多く見られます。

ハナショウブ

新緑を背景に、水辺に紫、白、紫紅色などの花が咲き乱れる風情は日本的情緒にあふれています。

ご意見・投稿ありがとうございました

『ガバナー月信』では、会員の皆様の声を反映させた誌面づくりを行なってきました。『月信』に関するご意見・投稿などのご協力に感謝いたします。

事務局　札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館6F
TEL 011-219-2510 FAX 011-222-1526
E-mail scs-hk@phoenix-c.or.jp